

# **登米市男女共同参画に関する 市民アンケート結果**

**平成31年3月  
登米市企画部**

# 目 次

<b>1 調査概要</b>	<b>(頁)</b>
(1) 調査目的	4
(2) 調査方法	4
(3) 回収結果	4
(4) 結果報告書の見方	5
(5) 第3次男女共同参画基本計画に掲げる数値目標	5
<b>2 調査結果</b>	<b>(頁)</b>
<b>1 男女平等や性別による役割分担意識について</b>	
【問1】あなたは、「男女共同参画社会」について知っていますか	6
【問2】あなたは、次のような面で男女の地位は平等になっていると思いますか	
①家庭の中で	8
②職場の中で	10
③地域の中で	12
④しきたりや習慣で	14
⑤法律や政治の上で	16
⑥政治の場で	18
⑦教育の場で	20
⑧社会全体として	22
【問3】「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか	24
【問4】あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか	26
【問5】あなたの家事、育児、介護にかかわる時間は、1日あたりどのくらいですか	
①家事	28
②育児	30
③介護	32
【問6】あなたは、あなた自身が介護が必要になった時、身の回りの世話は次のどの形を希望しますか	34
【問7】働きたい女性が、出産・子育て・介護などにより就業を中断することなく継続していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか	36
【問8】男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか	
①育児休業	38
②介護休業	40
【問9】男性が育児休業や介護休業を取得できない、または取得しない理由をどう考えますか	42
【問10】コミュニティや行政区などの地域活動の方針決定の場に、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか	44
【問11】地域において男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか	46
【問12】地域において、役員などの女性の割合をあらかじめ一定数に定め、積極的に起用する制度(クオータ制)を導入することは必要だと思いますか	48

<b>2</b>	<b>ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について</b>	
【問13】	あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか	50
【問14】	生活の中での、仕事・介護（育児、介護）・プライベートな時間（趣味など）の優先度についてお答えください	
	①現状	52
	②理想	54
【問15】	あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか	56
【問16】	問15で、「3. どちらかといえば昇進したくない」または「4. 昇進したくない」と回答した方に伺います。どのような状況になれば昇進したいと思いますか	58
【問17】	仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか	60
【問18】	ワーク・ライフ・バランスの推進により、考えられる効果はどれですか	62
<b>3</b>	<b>人権について</b>	
【問19】	DVの被害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか	64
【問20】	DV相談の窓口が、国及び県、市、警察にそれぞれあることを知っていますか	66
【問21】	DVを防ぎ、被害を受けた方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか	68
【問22】	児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、それを児童相談所、または福祉事務所に通告する義務があることを知っていますか	70
【問23】	児童虐待をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか	72
<b>4</b>	<b>男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組みについて</b>	
【問24】	男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことはどのようなことだと思いますか	74
<b>5</b>	<b>あなたご自身について</b>	
【問25】	あなたの性別についてお答えください	76
【問26】	あなたの年齢はいくつですか	77
【問27】	あなたの職業は次のうち、どれにあたりますか	78
【問28】	あなたは結婚していますか	80
【問29】	あなたの世帯は次のどれにあてはまりますか	82

### 3 自由意見 (頁)

【問30】	男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、ご自由に記入してください	84
-------	---	----

### 4 アンケート調査表 (頁)

登米市男女共同参画に関する市民アンケート	86
----------------------	----

## 1 調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する意識や現状、ニーズを把握し、「第4次登米市男女共同参画基本計画・行動計画」を策定するための基礎資料とすることを目的に実施したものの。

### (2) 調査方法等

調査方法	行政区長による配布及び郵送による回収
調査対象	18歳以上の登米市民3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
調査期間	平成30年10月30日～平成30年11月16日
調査内容の項目	(1) 男女平等と性別による役割分担意識について (2) 仕事と生活について (3) 人権について (4) 行政がすべきことについて (5) 回答者の属性について (6) 自由記載意見

### (3) 回収結果

#### 【性別】

性別	配布数	回収数	回収率	構成比
男性	1,500	510	34.0%	43.8%
女性	1,500	635	42.3%	54.5%
記載なし	-	20	-	1.7%
計	3,000	1,165	38.8%	100.0%

#### 【年代別】

町域別	配布数	回収数	回収率	構成比
18～29歳	600	147	24.5%	12.6%
30～39歳	600	195	32.5%	16.7%
40～49歳	600	218	36.3%	18.7%
50～59歳	600	272	45.3%	23.3%
60歳以上	600	318	53.0%	27.3%
記載なし	-	15	-	1.3%
計	3,000	1,165	38.8%	100.0%

#### (4) アンケート結果の見方

- ・アンケートの回答は、「単一回答（1つだけを選択する回答）」と「複数回答（該当する項目を選択する回答）」とがあり、複数回答の場合は「複数回答」と表記している。
- ・調査結果の数値は、原則として構成比（％）で表記しており、値の母数は、その設問項目の集計対象総数であり、「総計＝N」と表記している。
- ・比率（％）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しない場合がある。
- ・クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目及び「その他」「無回答」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象者数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。

#### (5) 第3次男女共同参画基本計画に掲げる数値目標

	項目	今回調査値 H30.11	前回調査値 H26.3	前回との 比 較	目標値
1	「男女共同参画」の具体的な内容の認知度	67.6%	73.2%	△ 5.6%	100.0%
2	「男は仕事、女は家庭」などの性別による固定的な役割分担意識をもたない人の割合	66.1%	58.1%	8.0%	90.0%
3	DV（配偶者やパートナーからの暴力）の相談窓口の認知度	72.4%	83.0%	△ 10.6%	100.0%
4	家庭生活上で男女の地位が平等だと思う人の割合	28.7%	29.0%	△ 0.3%	50.0%
5	職場で男女の地位が平等だと思う人の割合	22.9%	24.3%	△ 1.4%	50.0%
6	地域社会の中で男女の地位が平等だと思う人の割合	26.4%	21.3%	5.1%	50.0%
7	社会通念、習慣、しきたりなどで男女の地位が平等だと思う人の割合	13.3%	12.1%	1.2%	50.0%
8	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の具体的な内容の認知度	47.1%	36.6%	10.5%	50.0%
9	女性委員がいる審議会等の割合 ※	80.0%	85.3%	△ 5.3%	100.0%
10	審議会等における女性委員の登用割合 ※	27.5%	—	—	40.0%

※「女性委員がいる審議会等の割合」及び「審議会等における女性委員の登用割合」は、H26.4.1数値

## 2 調査結果

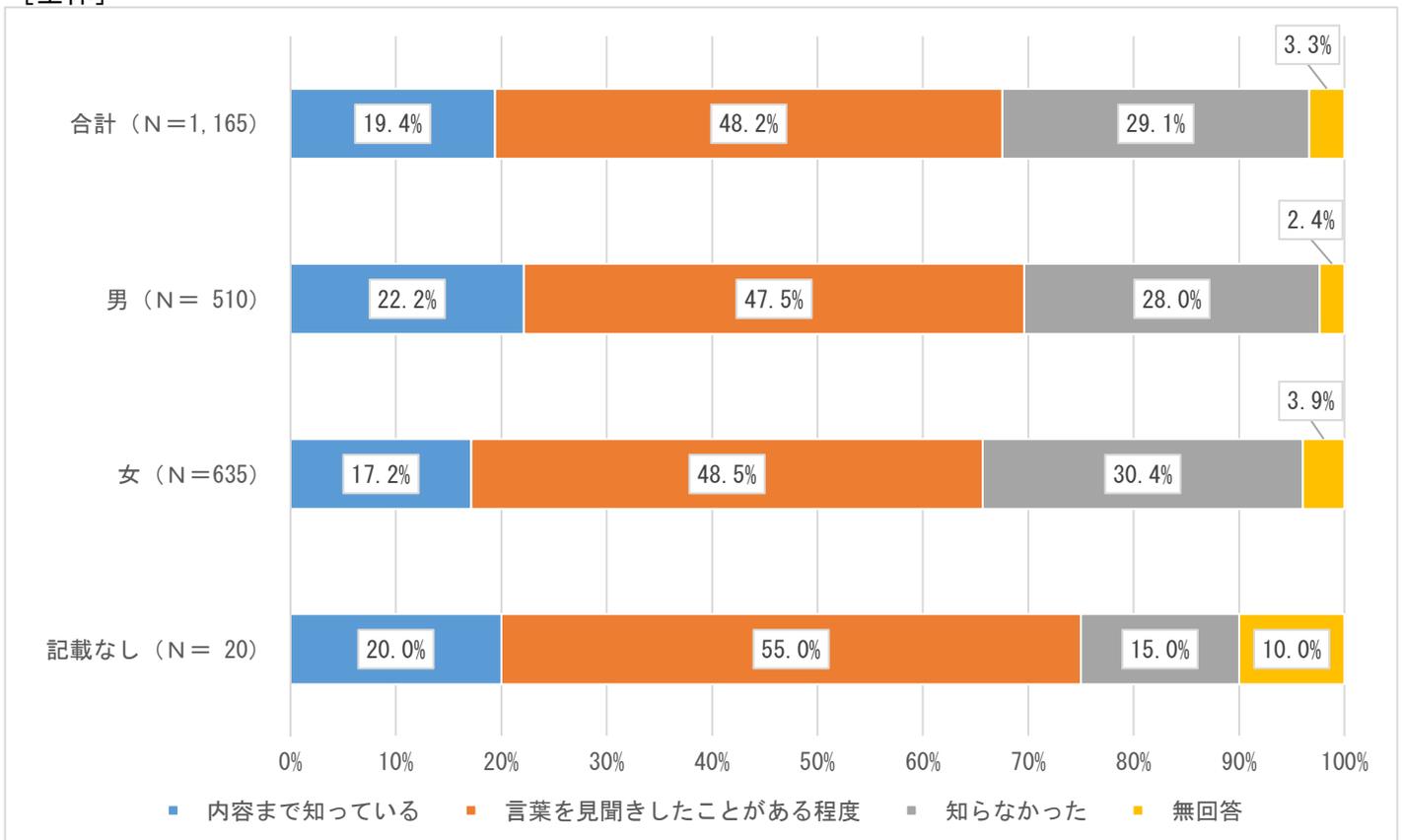
### 1 男女平等や性別による役割分担意識についておたずねします（問1～問11）

【問1】 あなたは、「男女共同参画社会」について知っていますか。

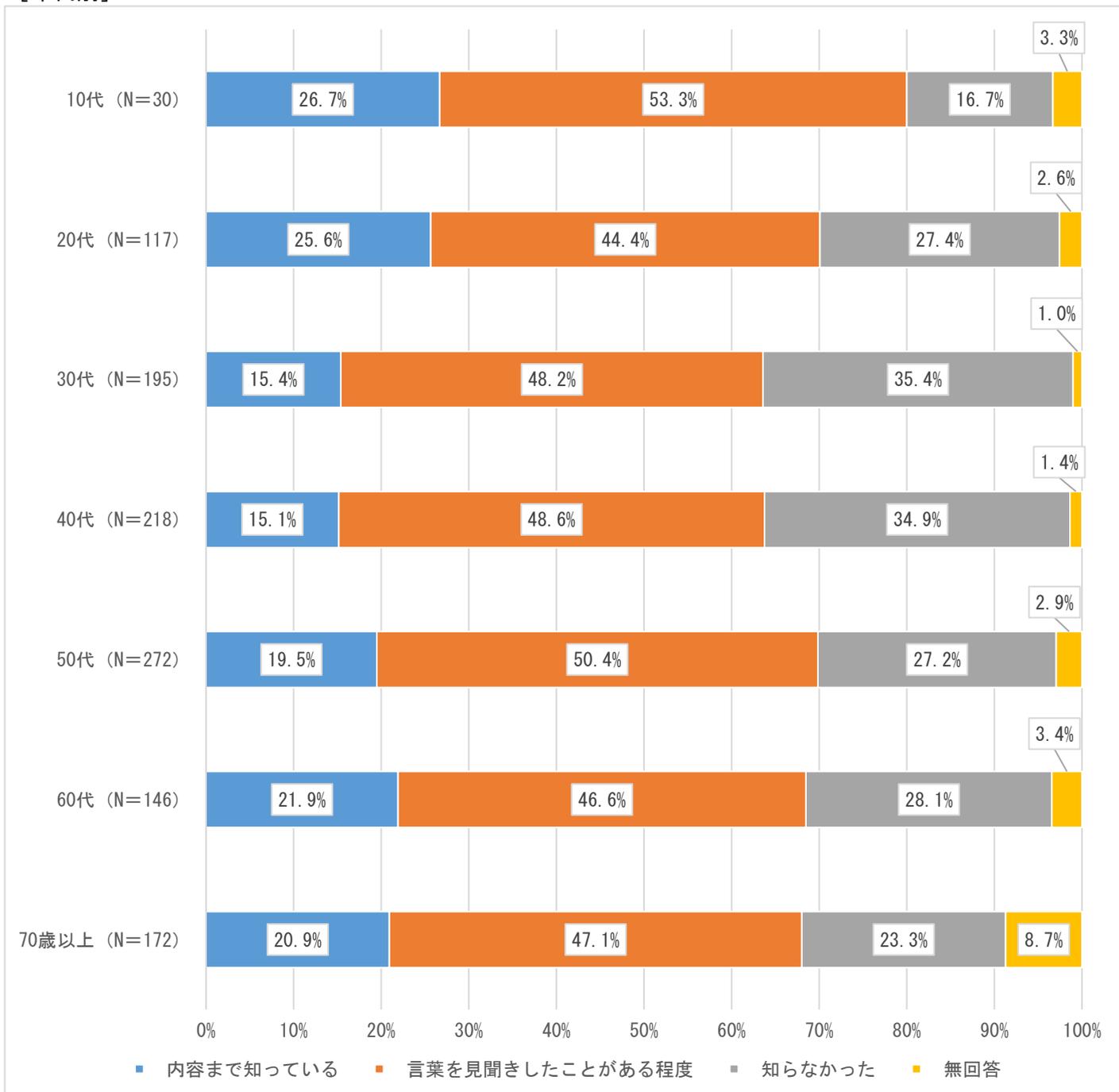
全体で見ると、「言葉を見聞きしたことがある程度」が男性で47.5%、女性で48.5%となり、最も多くなった。「内容まで知っている」は男性で22.2%、女性で17.2%となり、前回調査と比較すると男性で6.7%、女性で1.0%増となった。また、「知らなかった」は男性で28.0%、女性で30.4%となり、前回調査と比較すると、男性で5.6%、女性で7.2%増となった。

年代別にみると、「知らなかった」が30代、40代で35%前後と高くなったが、10代が16.7%で最も低くなった。

[全体]



[年代別]



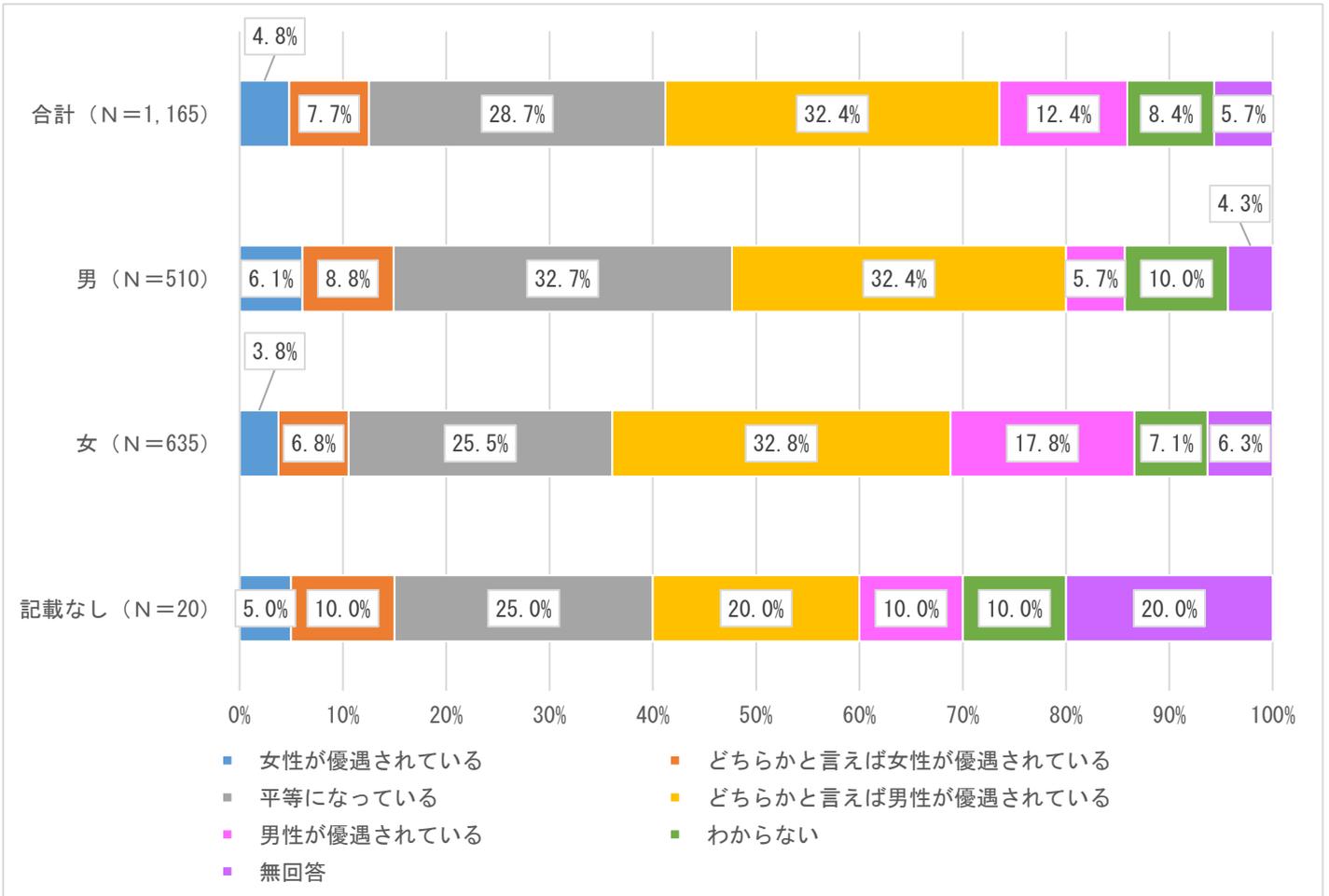
【問2】あなたは、次のような面で男女の地位は平等になっていると思いますか。

①家庭の中で

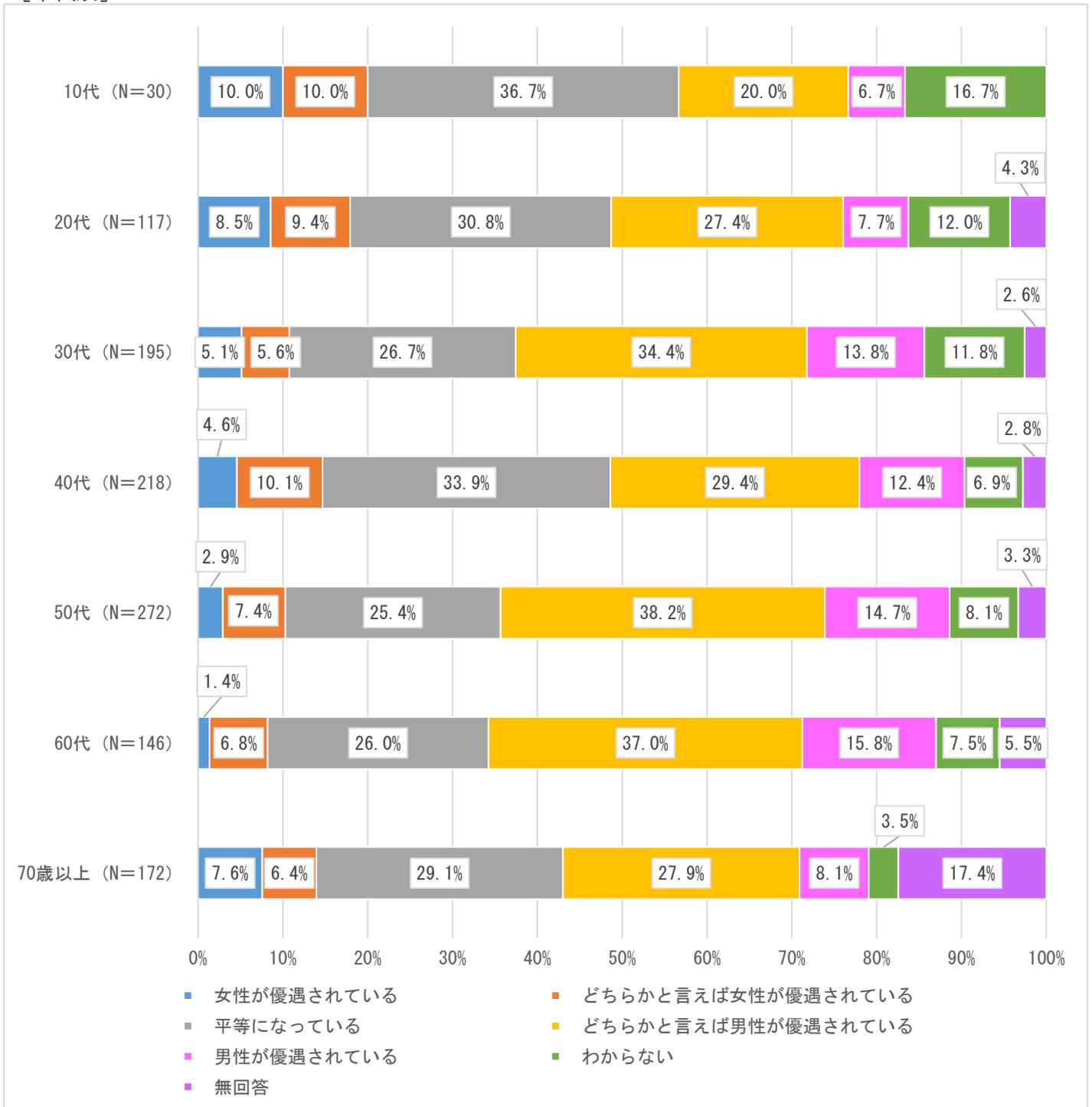
全体で見ると、男性では「平等になっている」が32.7%と最も多くなっているが、女性では25.5%であり、7.2%の差があった。女性では「どちらかと言えば男性が優遇されている」が32.8%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、男性で32.7%、女性で25.5%となり、前回調査と比較すると男性で3.3%減、女性では1.9%増となった。

年代別にみると、「平等になっている」と感じているのは、10代が36.7%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

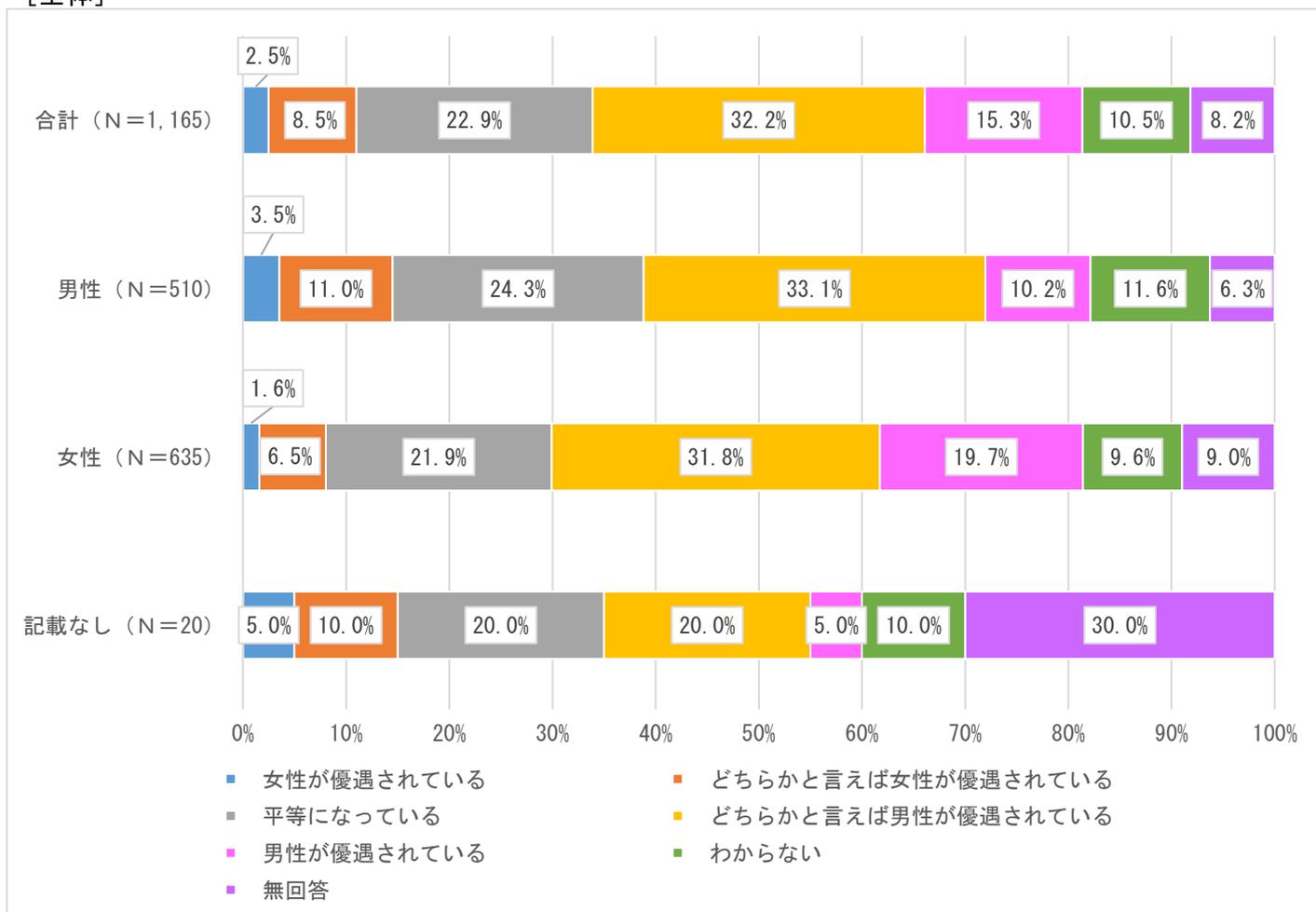


## ②職場の中で

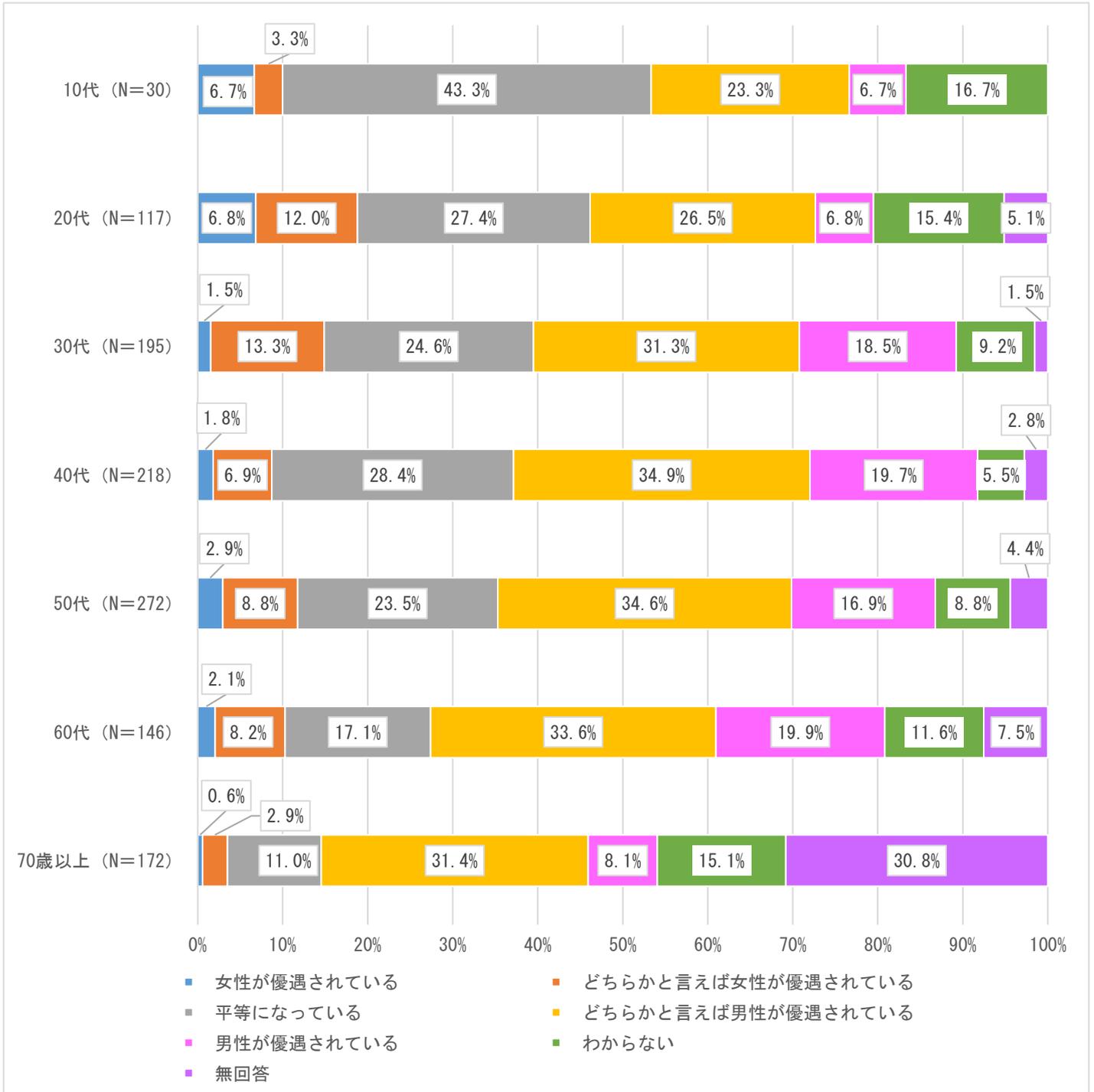
全体で見ると、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が男性で33.1%、女性で31.8%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、男性で24.3%、女性で21.9%となり、前回調査と比較すると男女ともに1.5%ずつ減となった。

年代別にみると、「平等になっている」と感じているのは、10代が43.3%となり、最も多くなった。

### [全体]



[年代別]

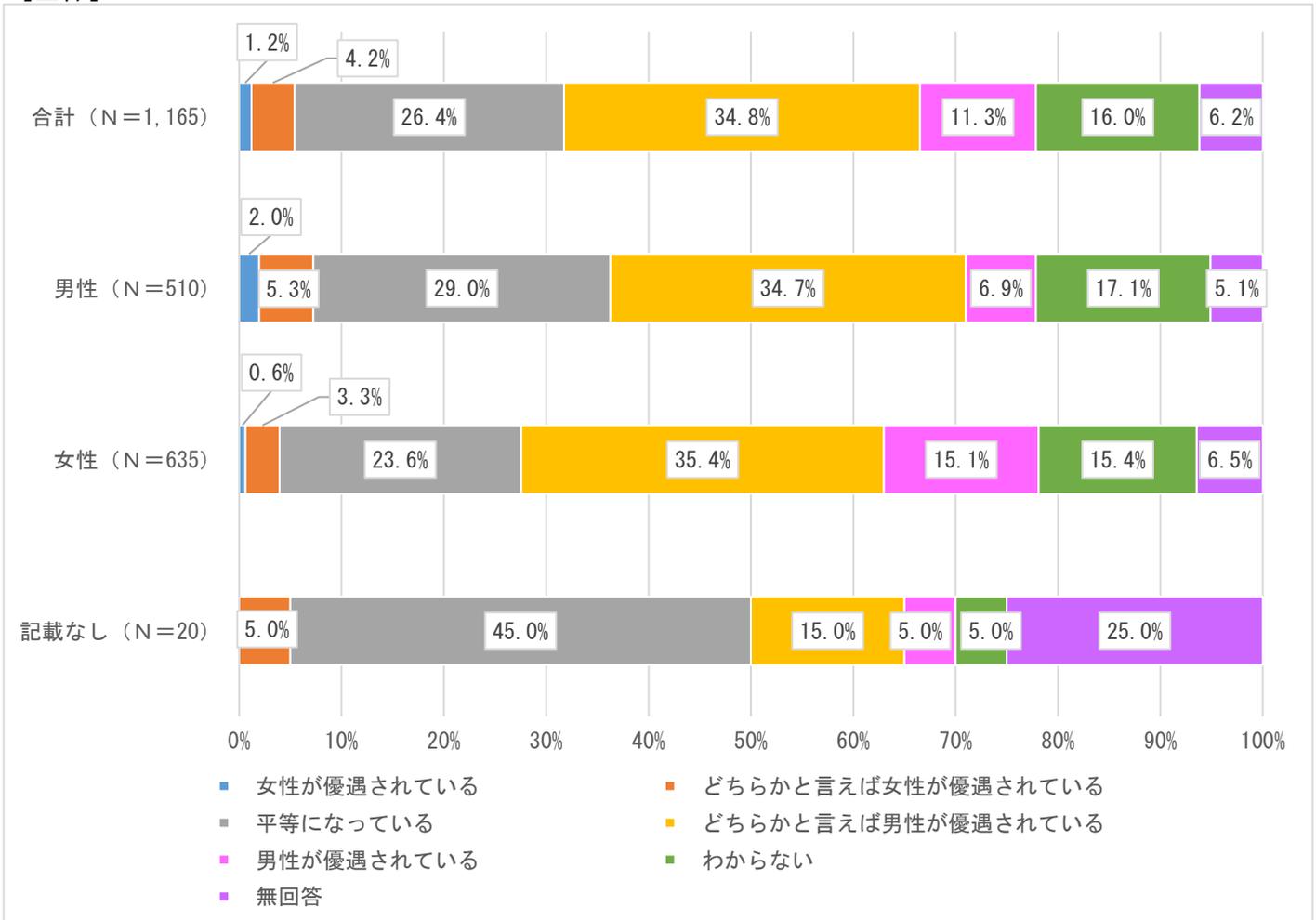


### ③地域の中で

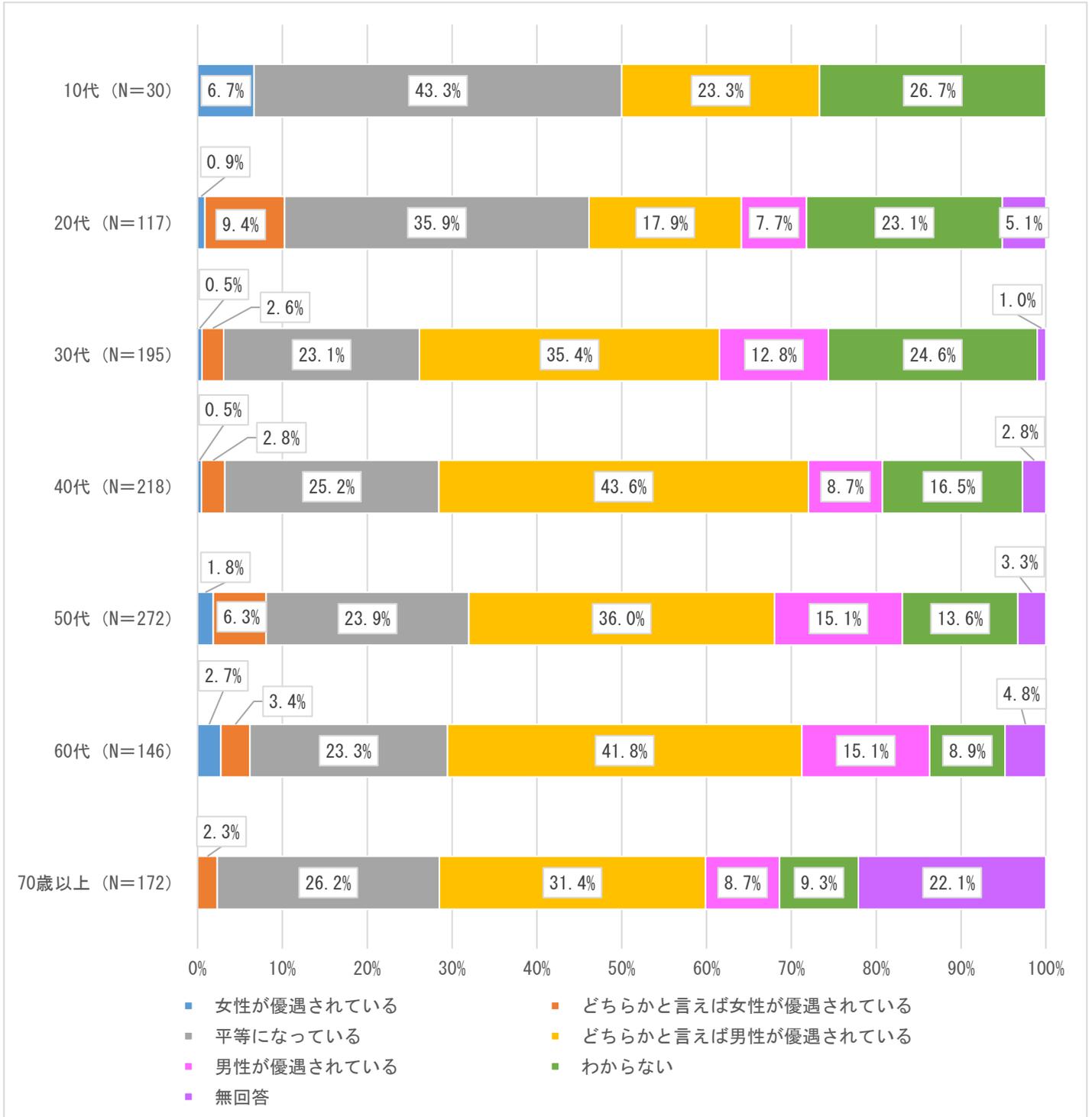
全体で見ると、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が男性で34.7%、女性で35.4%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、男性で29.0%、女性で23.6%となり、前回調査と比較すると男性で2.1%、女性で6.3%増となった。

年代別にみると、「平等になっている」と感じているのは、10代が43.3%となり、最も多くなった。

#### [全体]



[年代別]

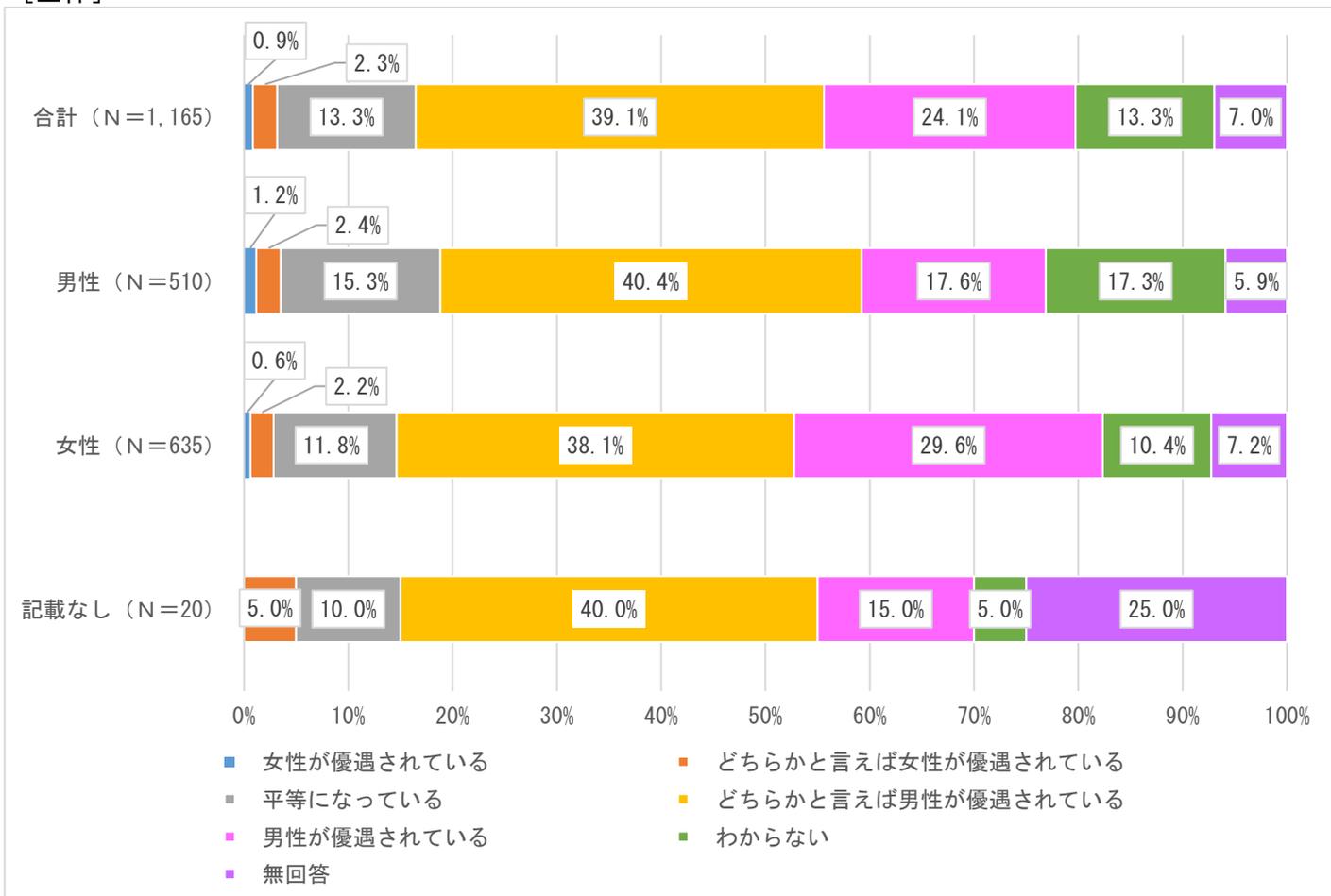


#### ④しきたりや習慣で

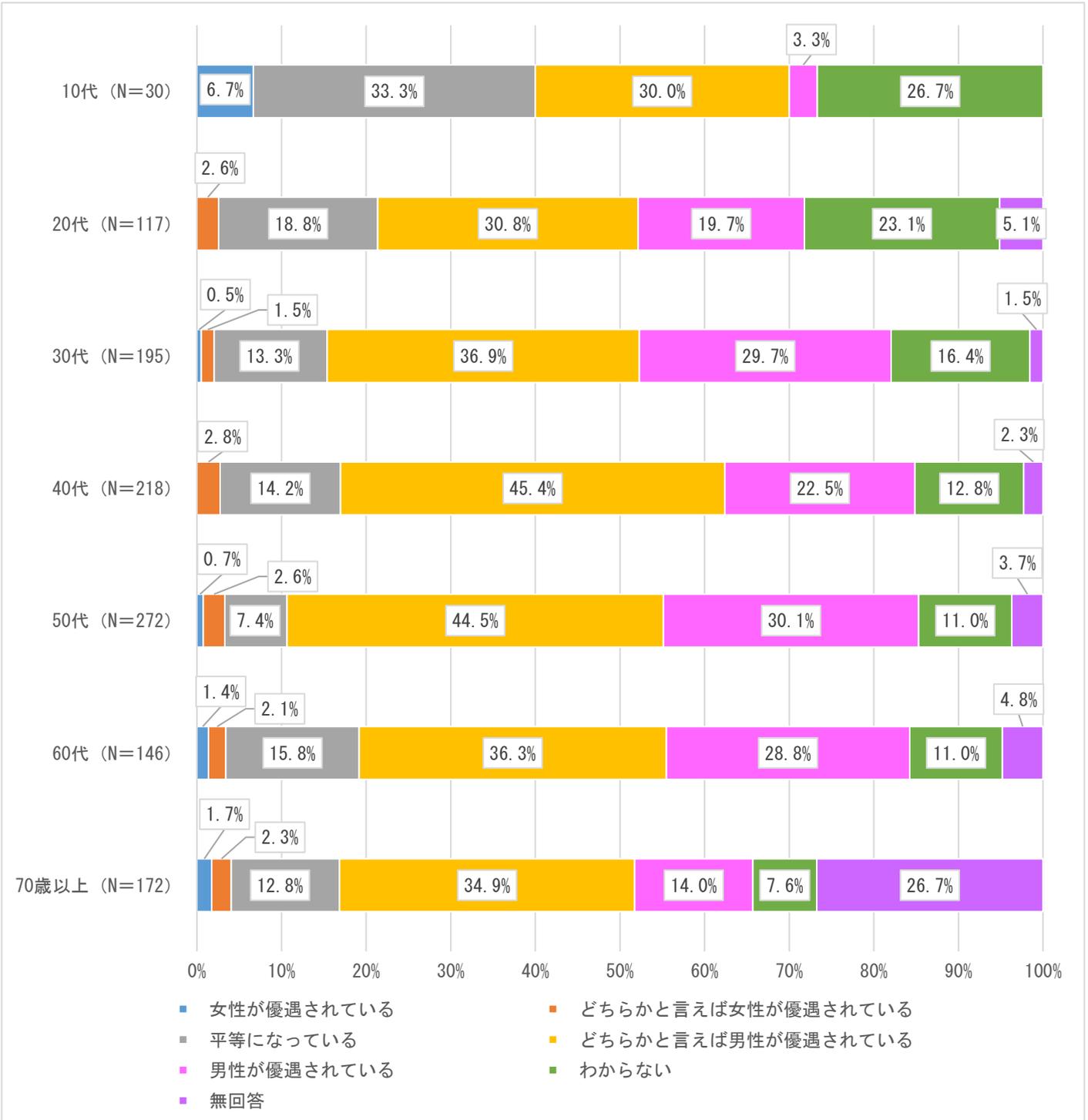
全体で見ると、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が男性で40.4%、女性で38.1%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、男性で15.3%、女性で11.8%となり、前回調査と比較すると男性が1.9%減、女性が3.6%増となった。

年代別にみると、「平等になっている」と感じているのは、10代が33.3%となり、最も多くなった。

#### [全体]



[年代別]

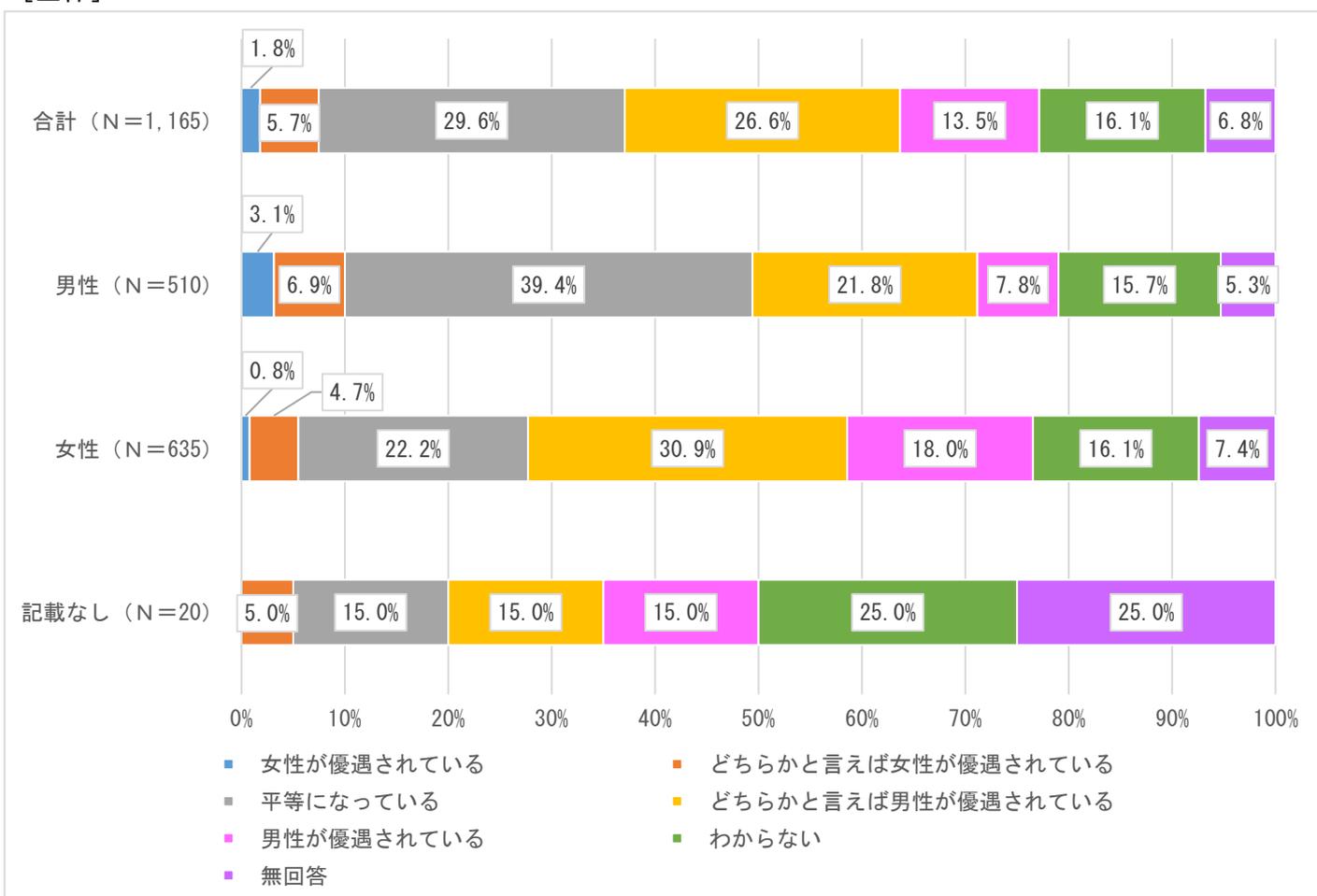


### ⑤法律や制度の上で

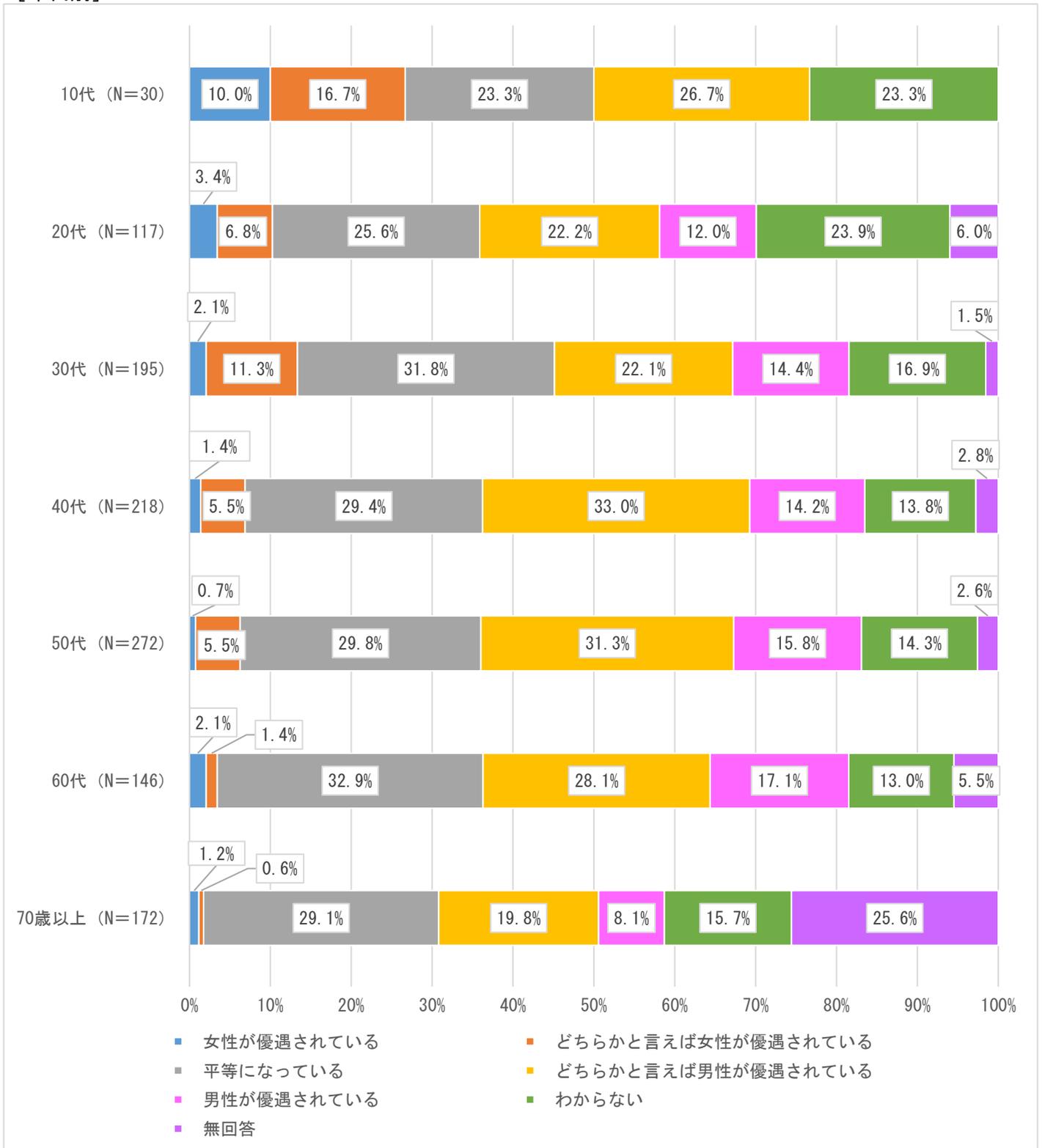
全体で見ると、男性では「平等になっている」が39.4%となり、最も多くなった。女性では「どちらかと言えば男性が優遇されている」が30.9%となり、最も多くなったが、前回調査と比較すると5.3%減となった。「平等になっている」は、男性で39.4%、女性で22.2%となり、前回調査と比較すると男性で1.4%増、女性で1.4%減となった。

年代別にみると、「平等になっている」と感じているのは、60代が32.9%となり、最も多くなった。

#### [全体]



[年代別]

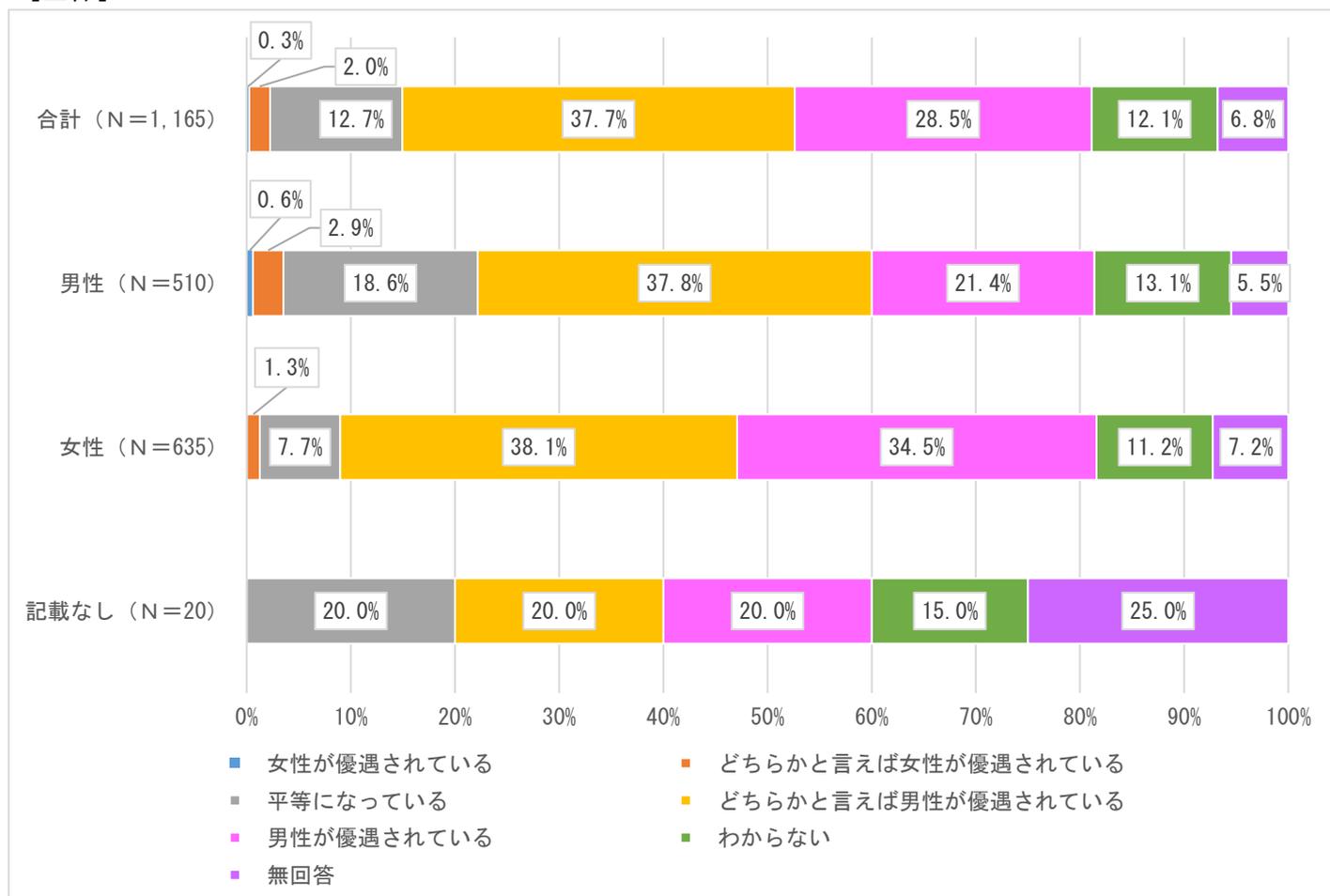


## ⑥政治の場で

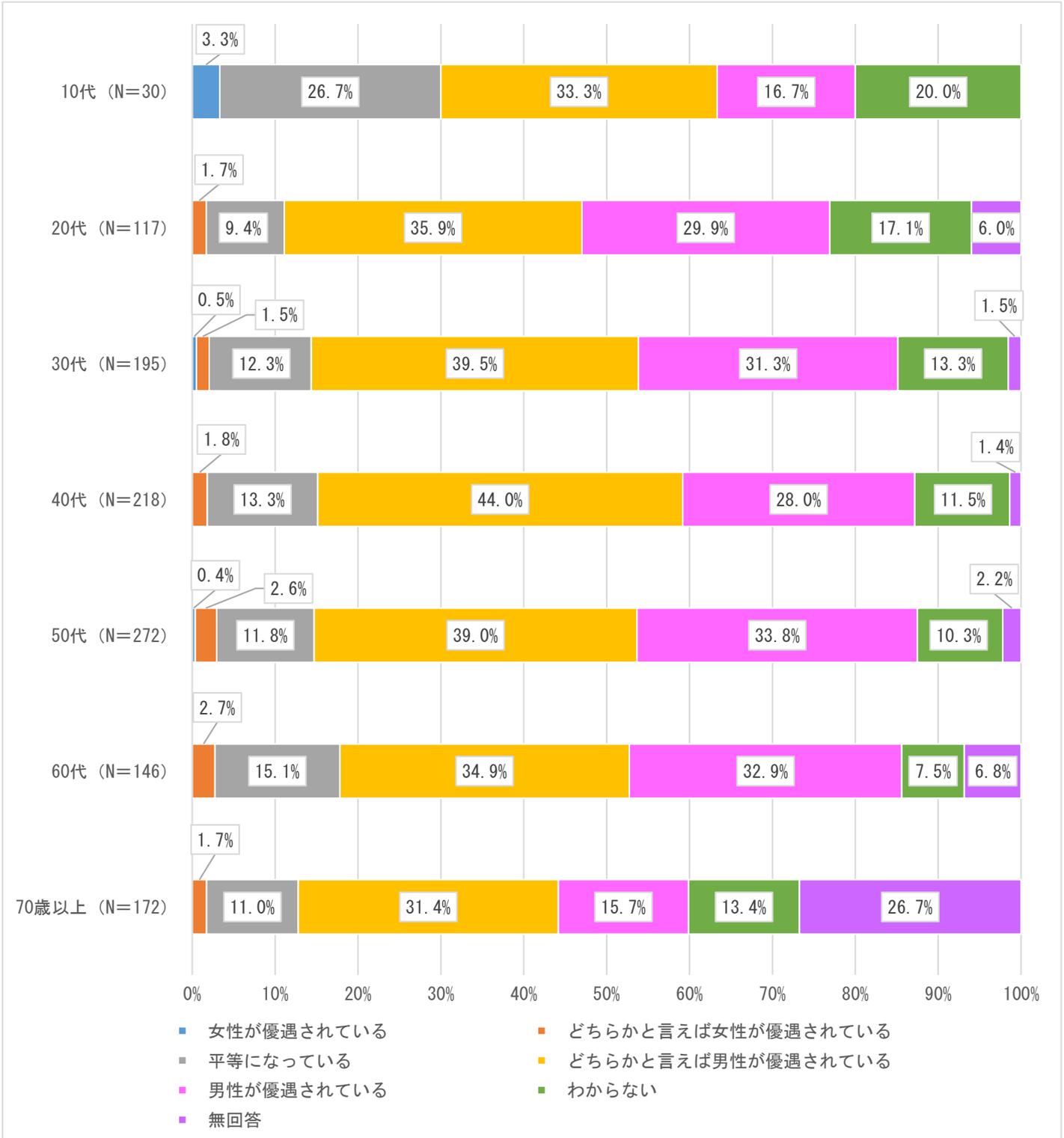
全体で見ると、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が男性では37.8%、女性では38.1%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、男性で18.6%、女性で7.7%となり、前回調査と比較すると男性で6.6%、女性で5.1%減となった。

年代別にみると、「平等になっている」と感じているのは、10代が26.7%となり、最も多くなった。

### [全体]



[年代別]

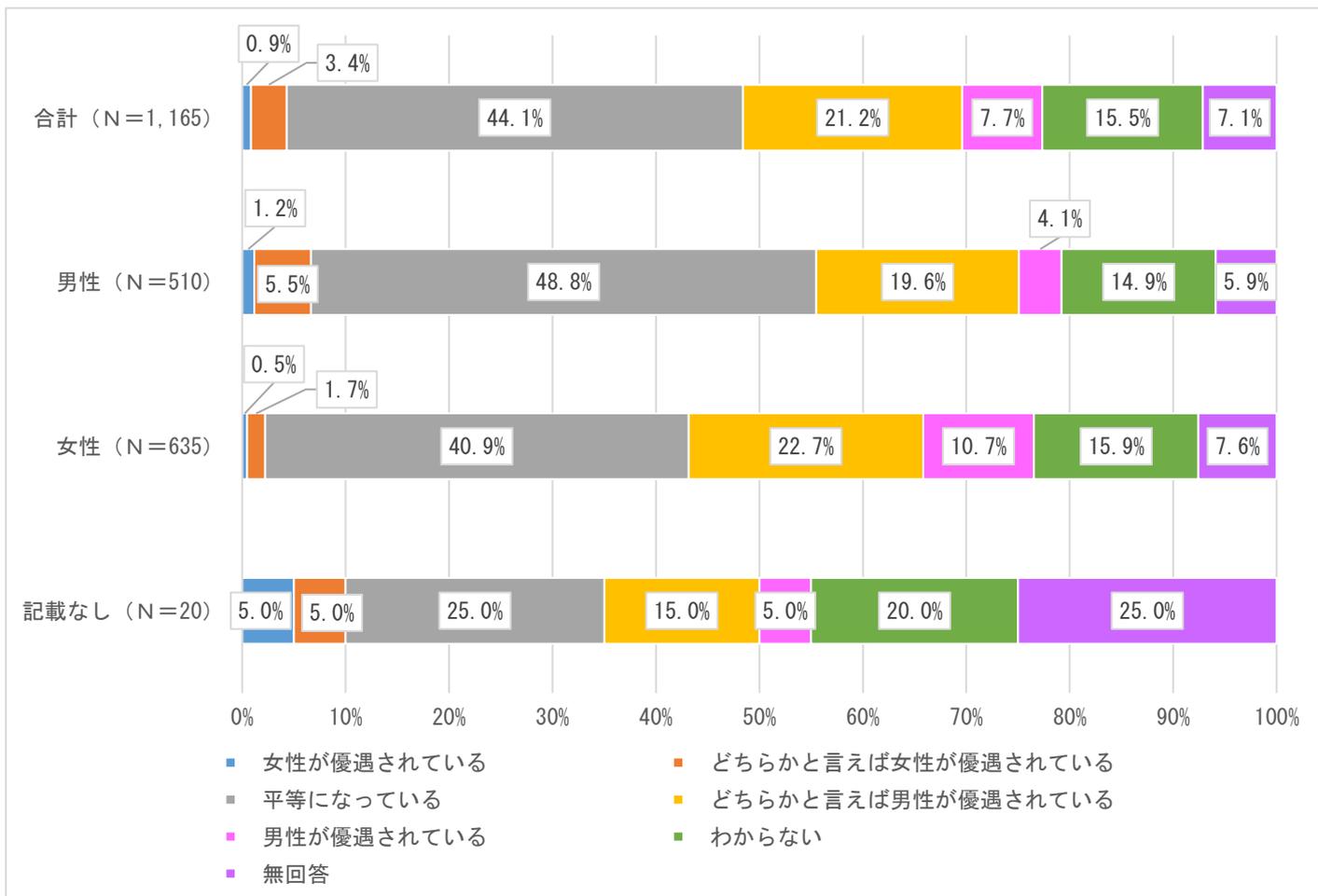


## ⑦教育の場で

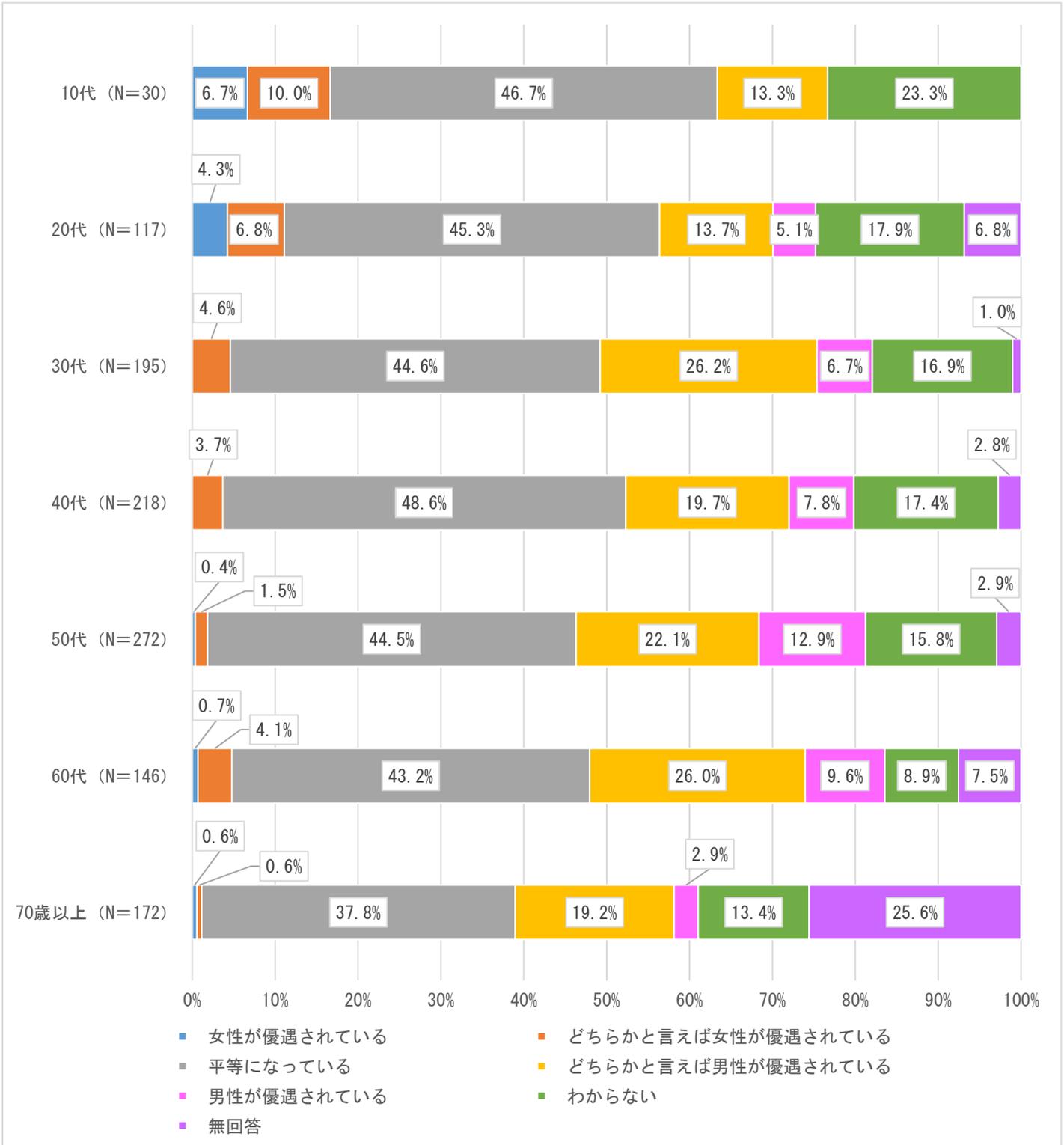
全体で見ると、「平等になっている」が男性では48.8%、女性では40.9%となり、最も多くなった。しかし、「平等になっている」と感じている割合は、前回調査と比較すると男性で9.6%、女性で2.0%減となった。

年代別にみると、70歳以上を除くすべての年代で「平等になっている」が40%を超え、中でも40代が48.6%となり、最も多くなった。

### [全体]



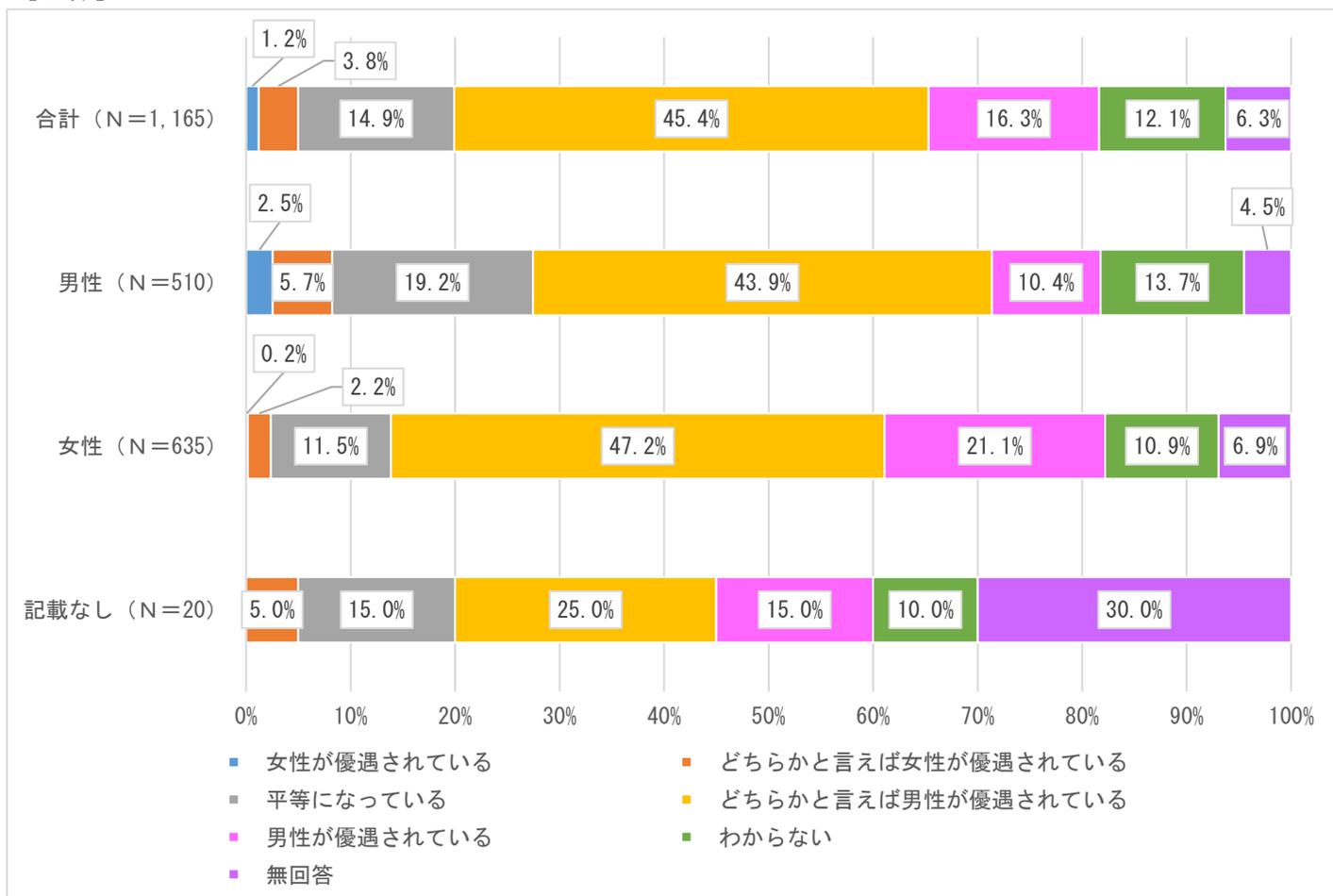
[年代別]



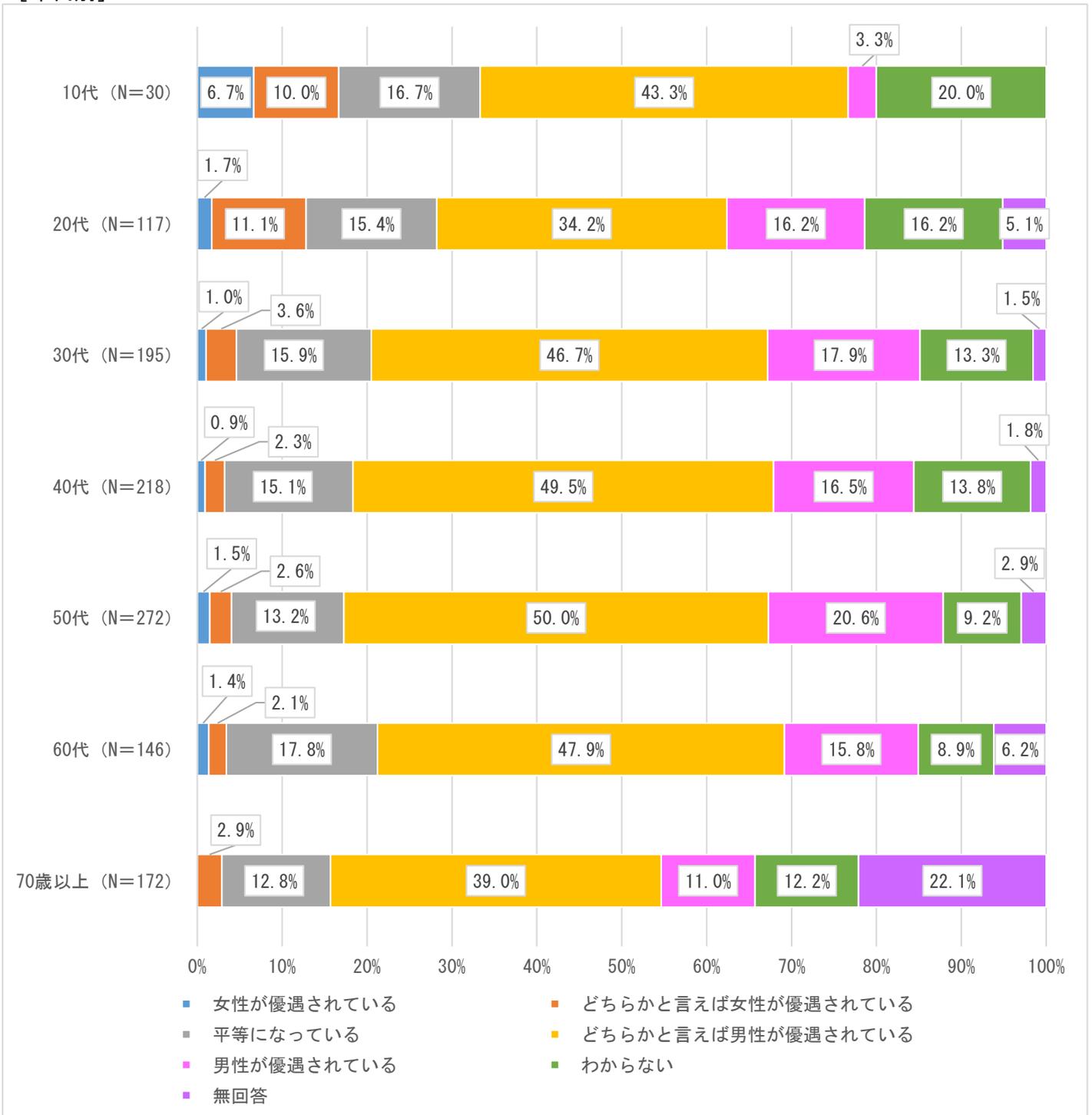
### ⑧社会全体として

全体で見ると、「どちらかと言えば男性が優遇されている」が男性では43.9%、女性では47.2%となり、最も多くなった。「平等になっている」は、男性で19.2%、女性で11.5%となり、前回調査と比較すると男性で2.4%減、女性で0.1%増となった。  
 年代別にみると、「平等になっている」と感じているのは、60代が17.8%となり、最も多くなった。

#### [全体]



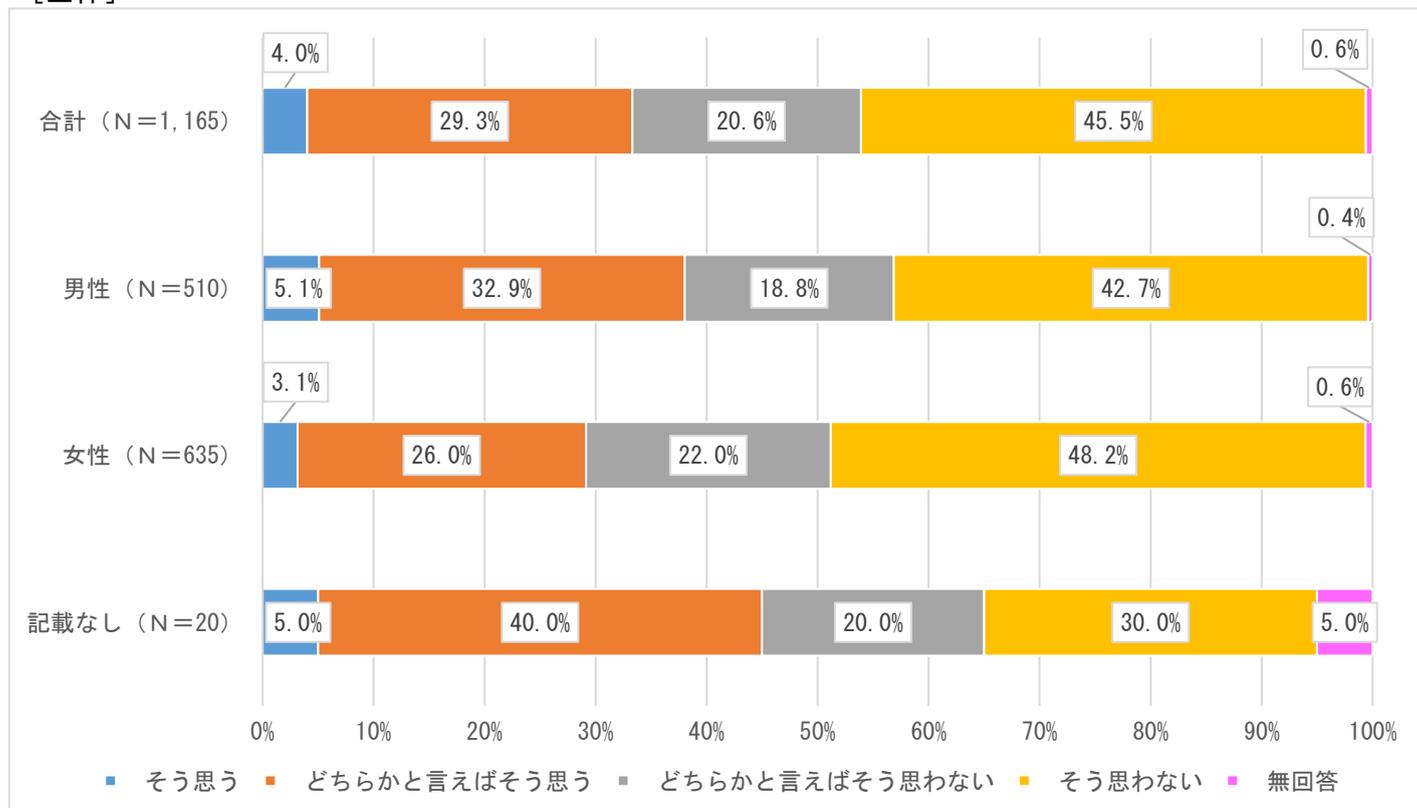
[年代別]



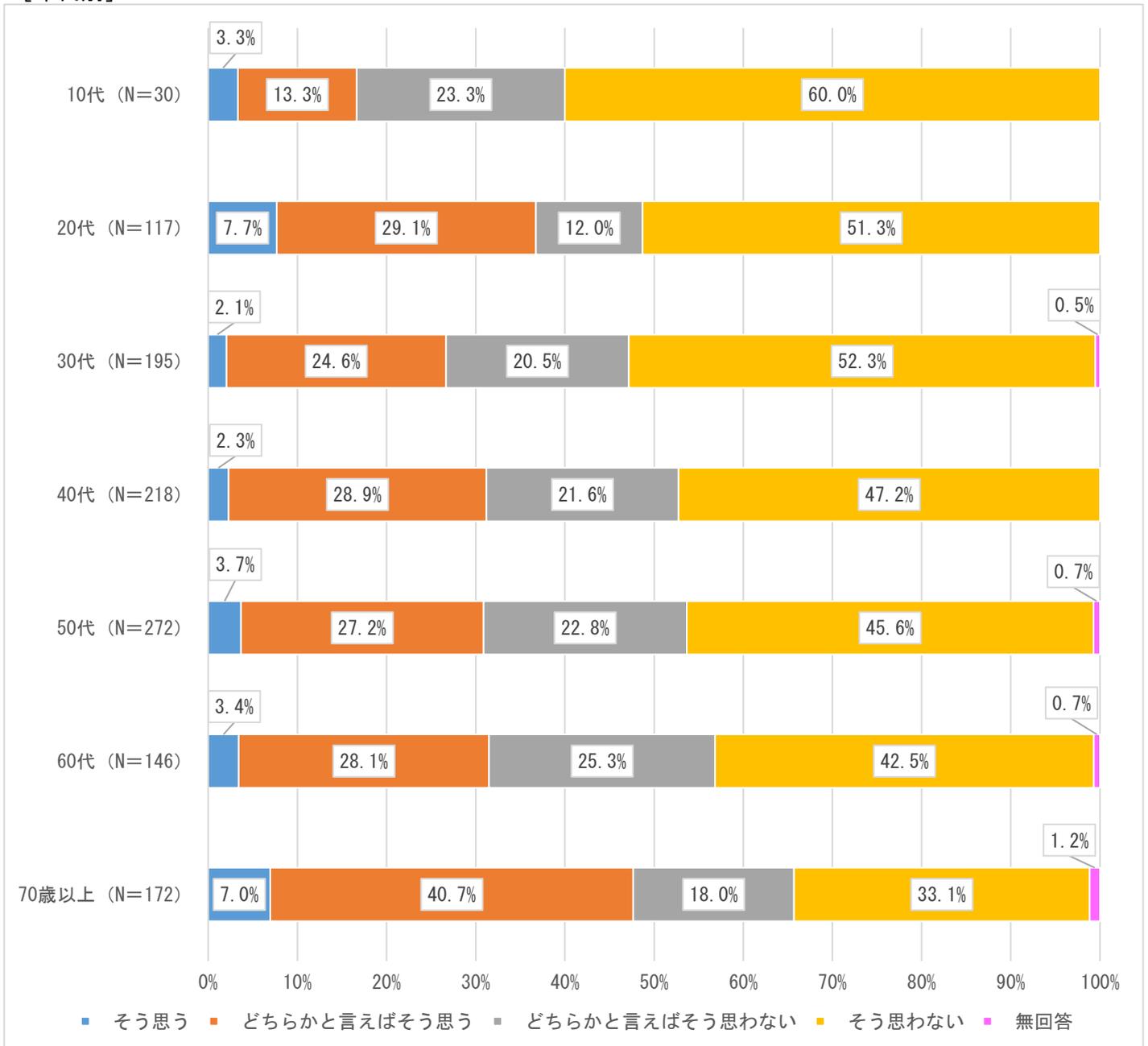
【問3】「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

全体で見ると「そう思わない」が男性では42.7%、女性では48.2%となり、最も多くなった。前回調査と比較すると、男性が8.6%、女性は10.3%の大幅な増となった。  
年代別にみると、「そう思わない」と感じているのは、10代が60.0%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

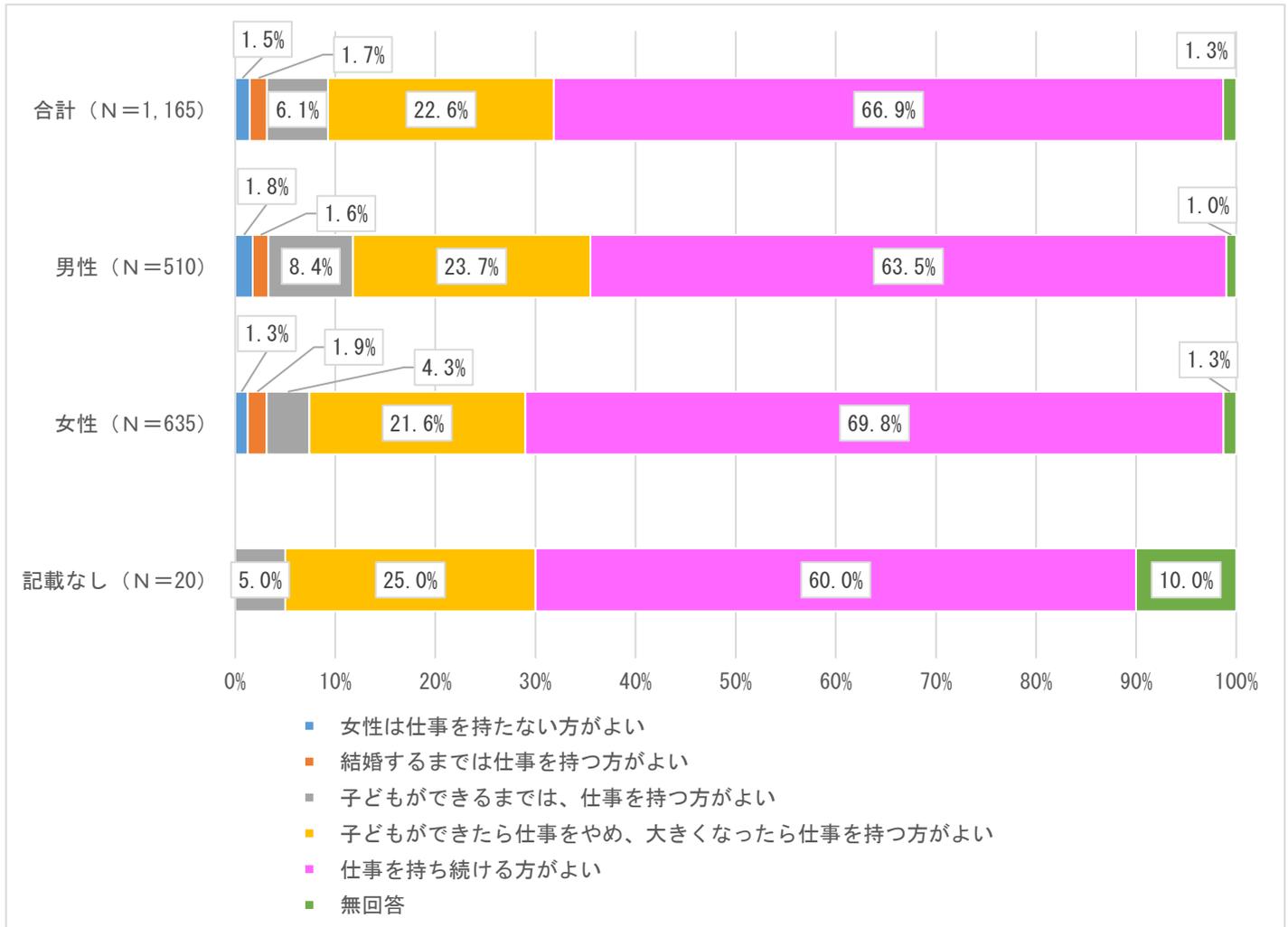


【問4】あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。

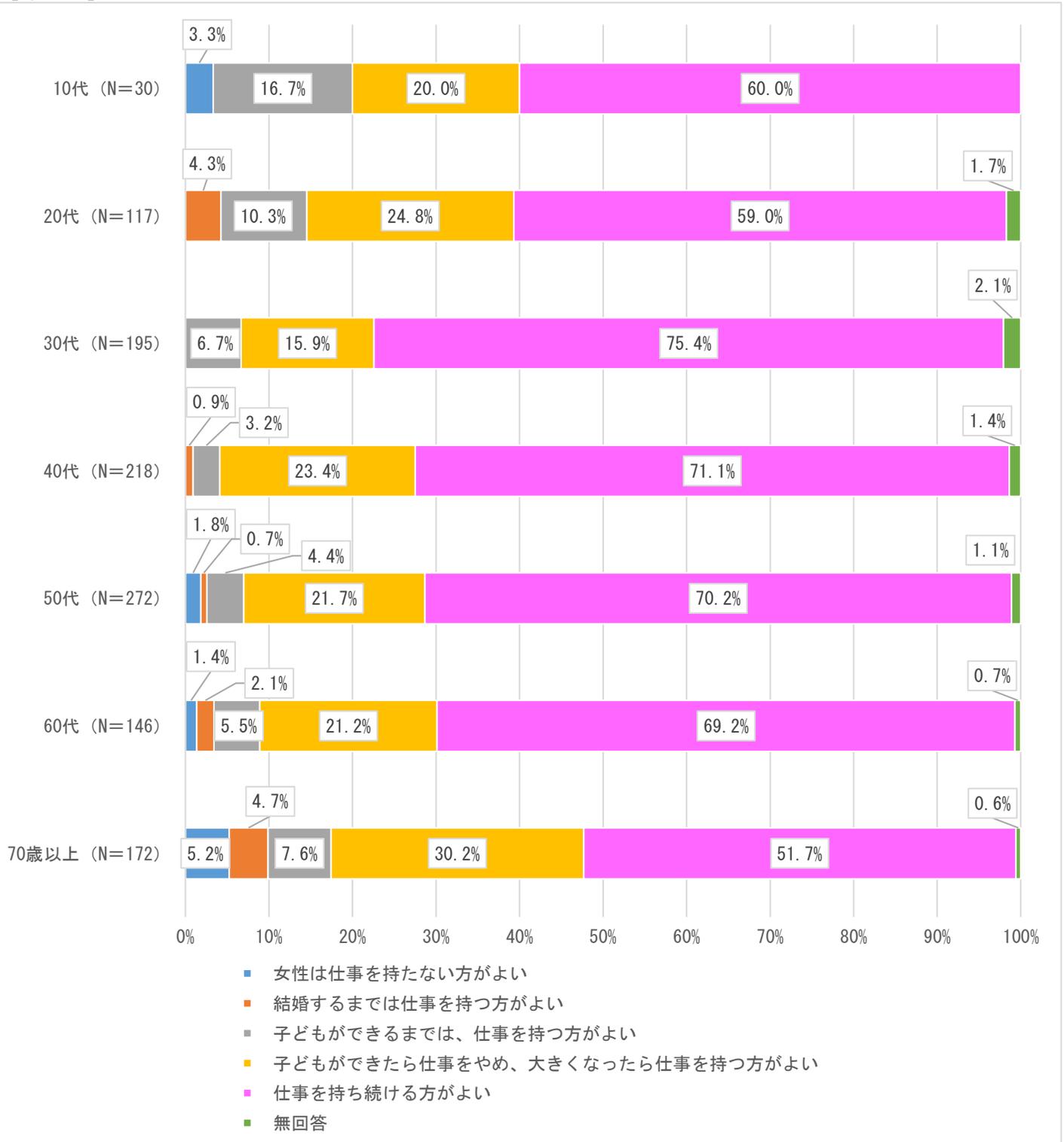
全体で見ると、「仕事を持ち続ける方がよい」が男性では63.5%、女性では69.8%となり、最も多くなかった。

年代別にみると、「仕事を持ち続ける方がよい」と考えているのは30代が75.4%となり、最も多くなった。20代から40代では、「女性は仕事を持たない方がよい」が皆無であった。

[全体]



[年代別]



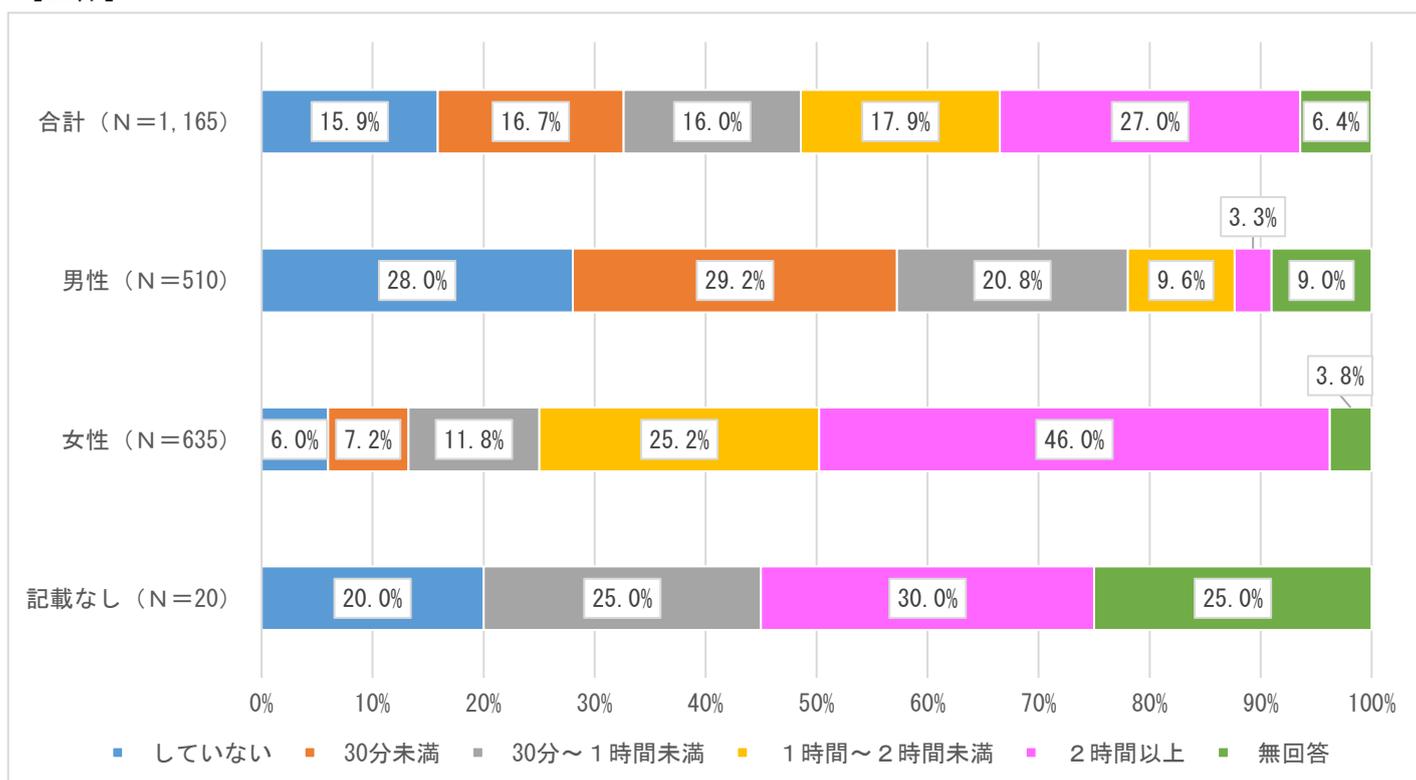
【問5】あなたの家事、育児、介護にかかわる時間は、1日あたりどのくらいですか。

①家事

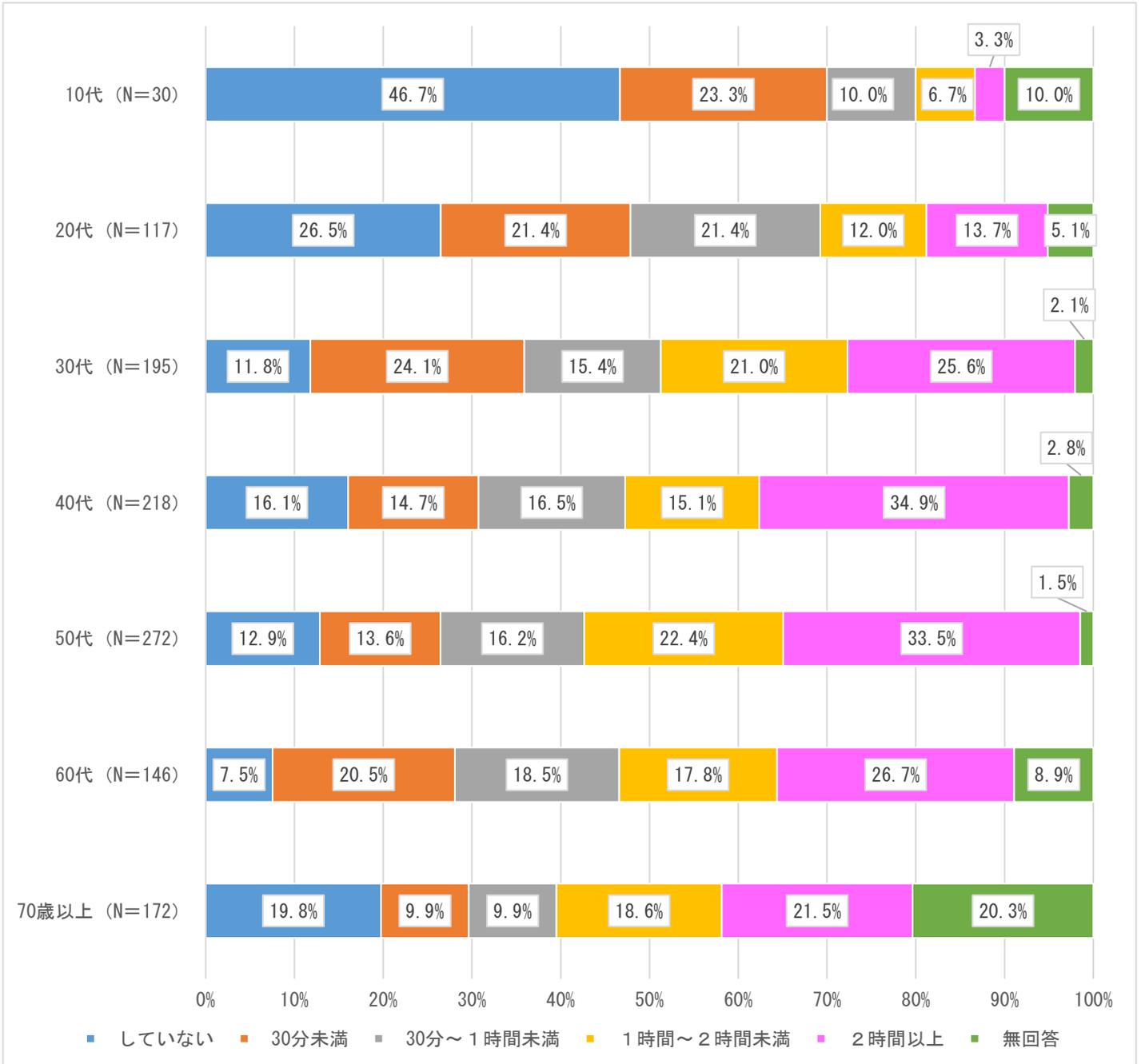
全体で見ると、男性では「30分未満」が29.2%、女性では「2時間以上」が46.0%となり、最も多くなった。男性では、「していない」が28.0%となり、前回調査と比較すると3.3%減少した。また、「30分未満」は29.2%となり、前回調査と比較すると4.0%減少した。一方、「1時間～2時間未満」は9.6%となり、前回調査と比較すると5.8%増となった。

年代別にみると、「2時間以上」家事にかかわっているのは、40代が34.9%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

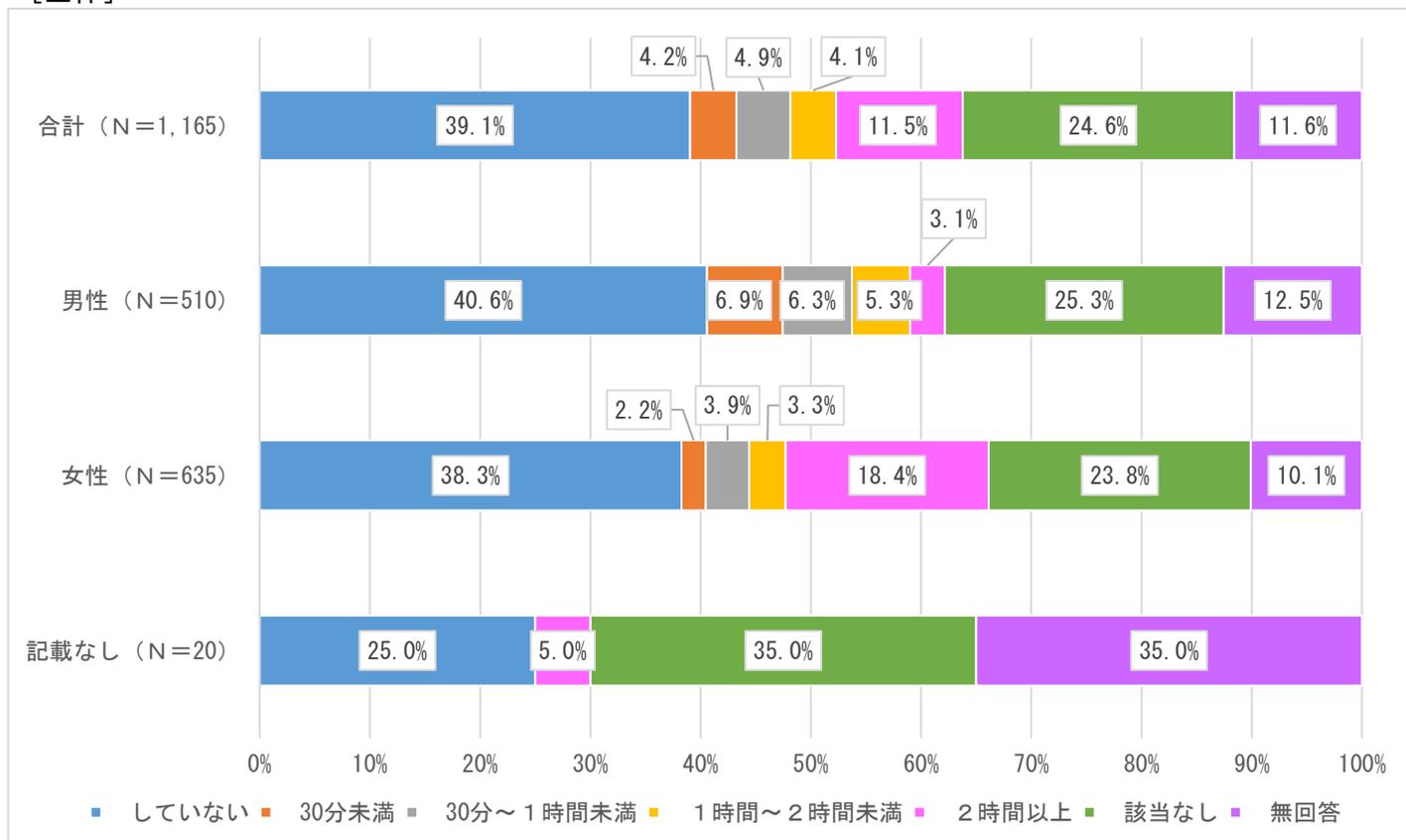


## ②育児

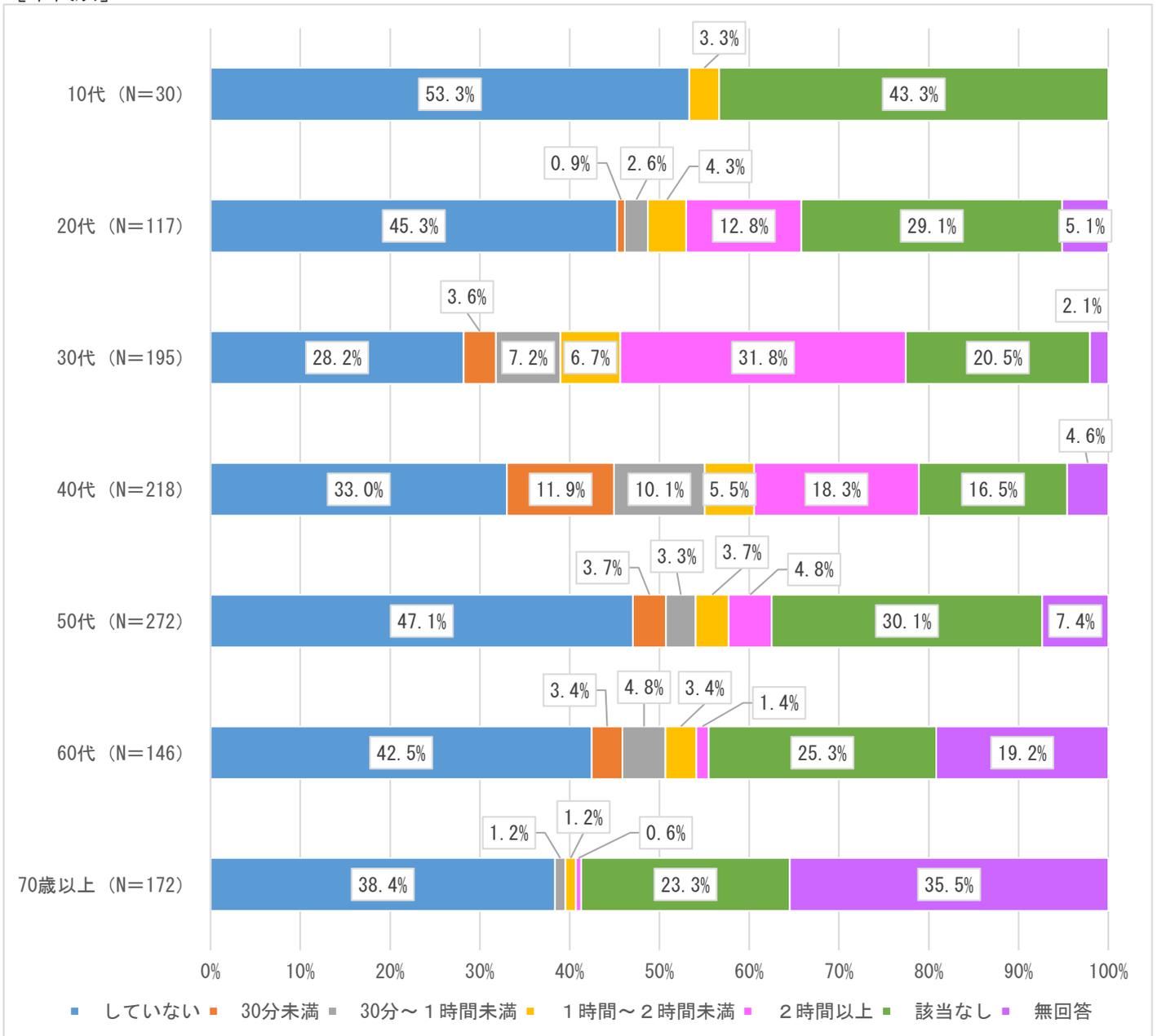
全体で見ると「していない」が男性では40.6%、女性では38.3%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、「2時間以上」が女性で18.4%であるのに対し、男性は3.1%であり、女性が15.3ポイント高くなった。

年代別にみると、「2時間以上」が30代で31.8%となり、最も多くなった。

### [全体]



[年代別]

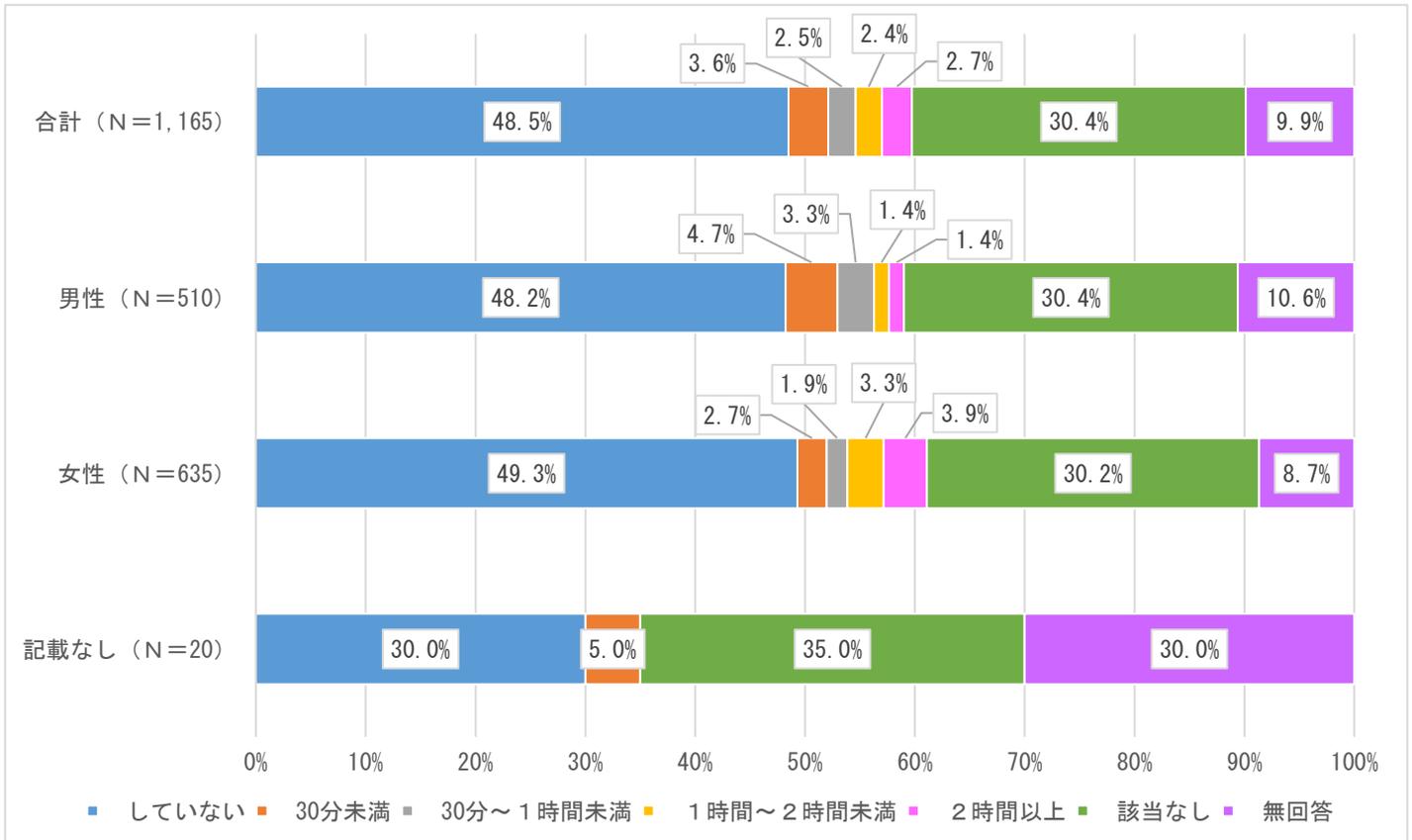


### ③介護

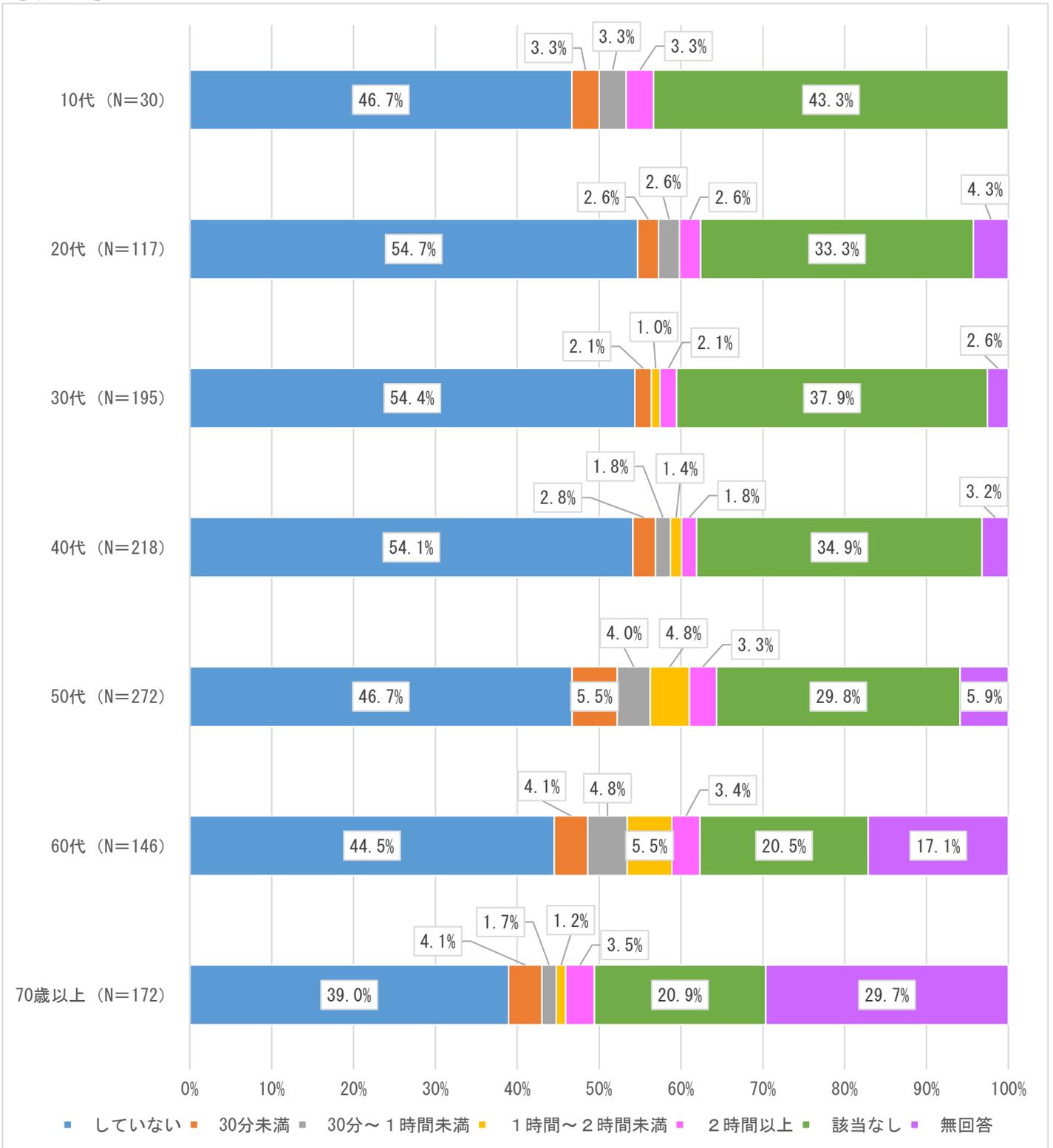
全体で見ると「していない」が男性では48.2%、女性では49.3%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、「2時間以上」は女性で3.9%であるのに対し、男性は1.4%であり、女性が2.5ポイント高くなった。

年代別にみると、「2時間以上」が70歳以上で3.5%となり、最も多くなった。

#### [全体]



[年代別]

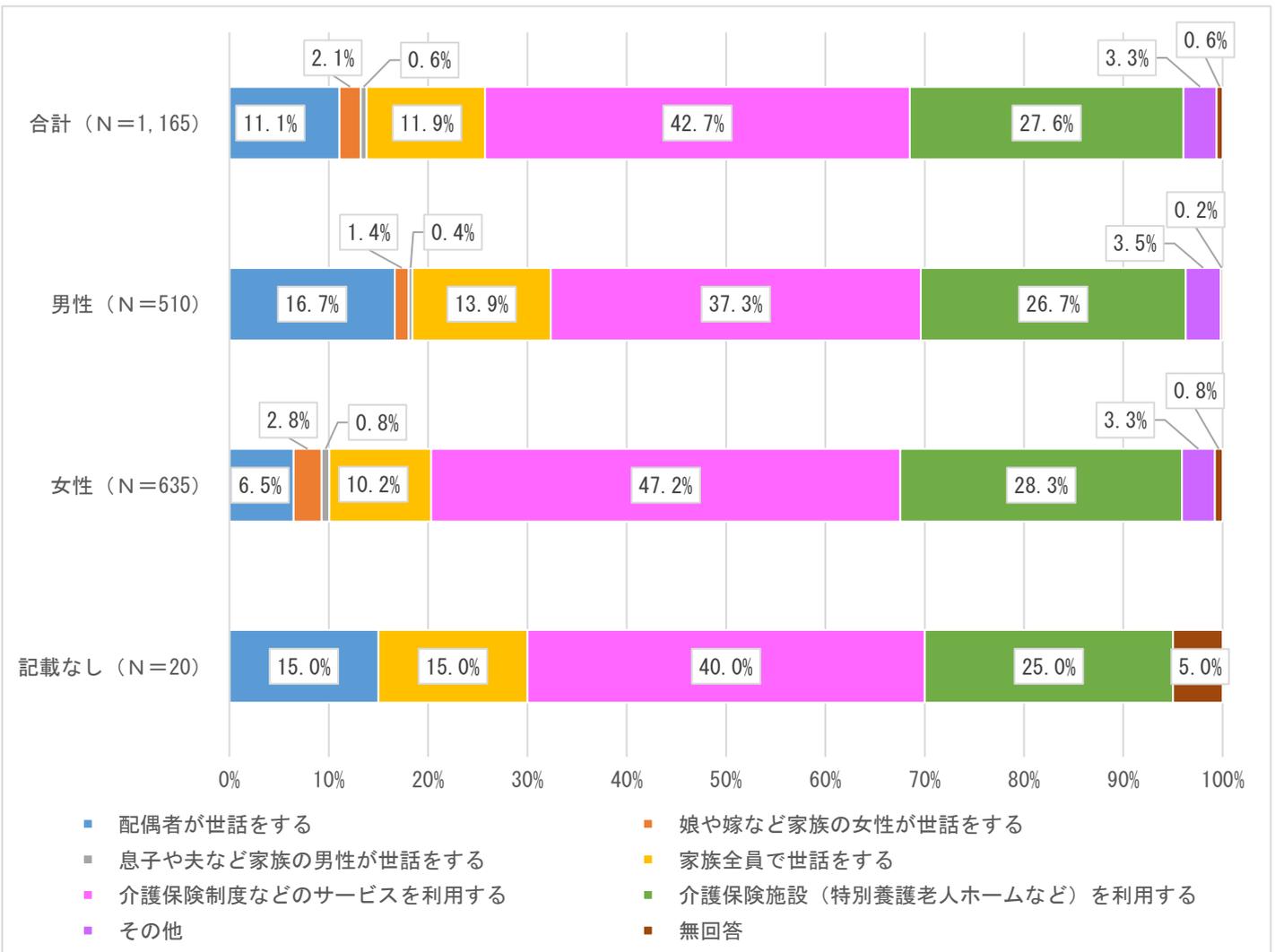


**【問6】あなたは、あなた自身が介護が必要になった時、身の回りの世話は次のどの形を希望しますか。**

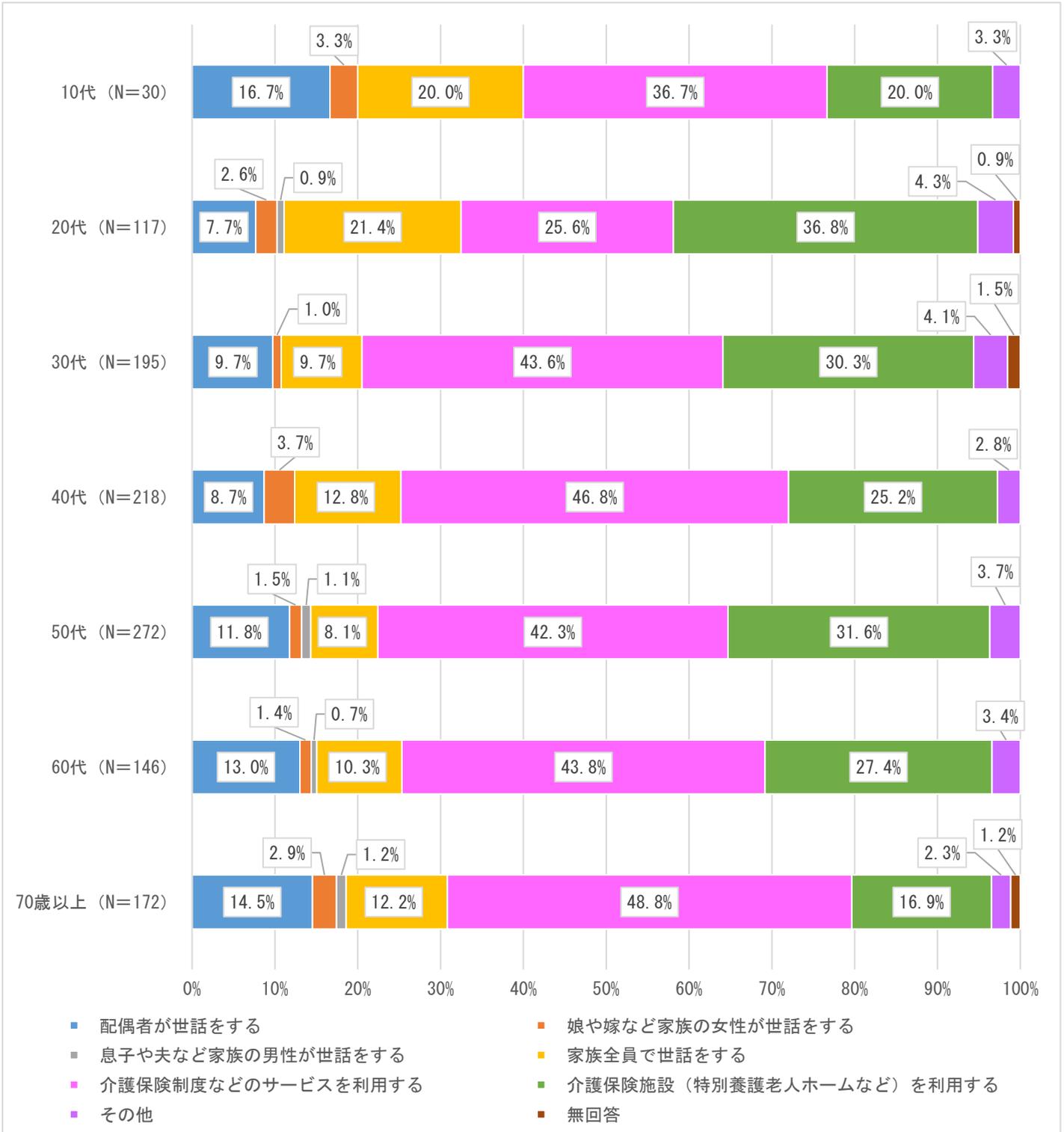
全体で見ると、「介護保険制度などのサービスを利用する」が男性では37.3%、女性では47.2%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、「配偶者が世話をする」の項目で、男性は16.7%であるのに対し、女性は6.5%であり、男性が10.2ポイント高くなった。

年代別にみると、30代以上のすべての年代で、「介護保険制度などのサービスを利用する」が40%を超えた。

**[全体]**



[年代別]

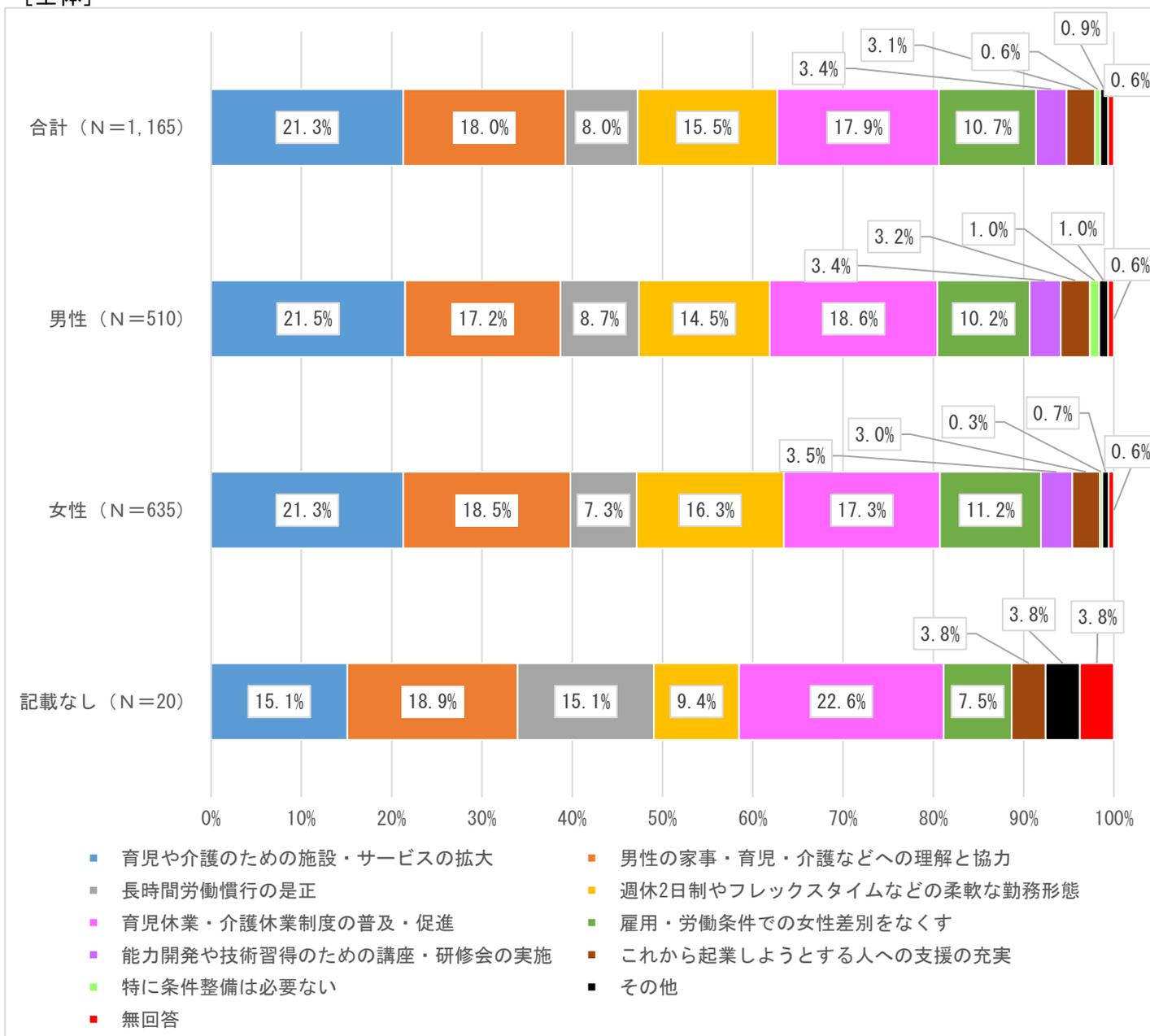


【問7】働きたい女性が、出産・子育て・介護などにより就業を中断することなく継続していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。（複数回答）

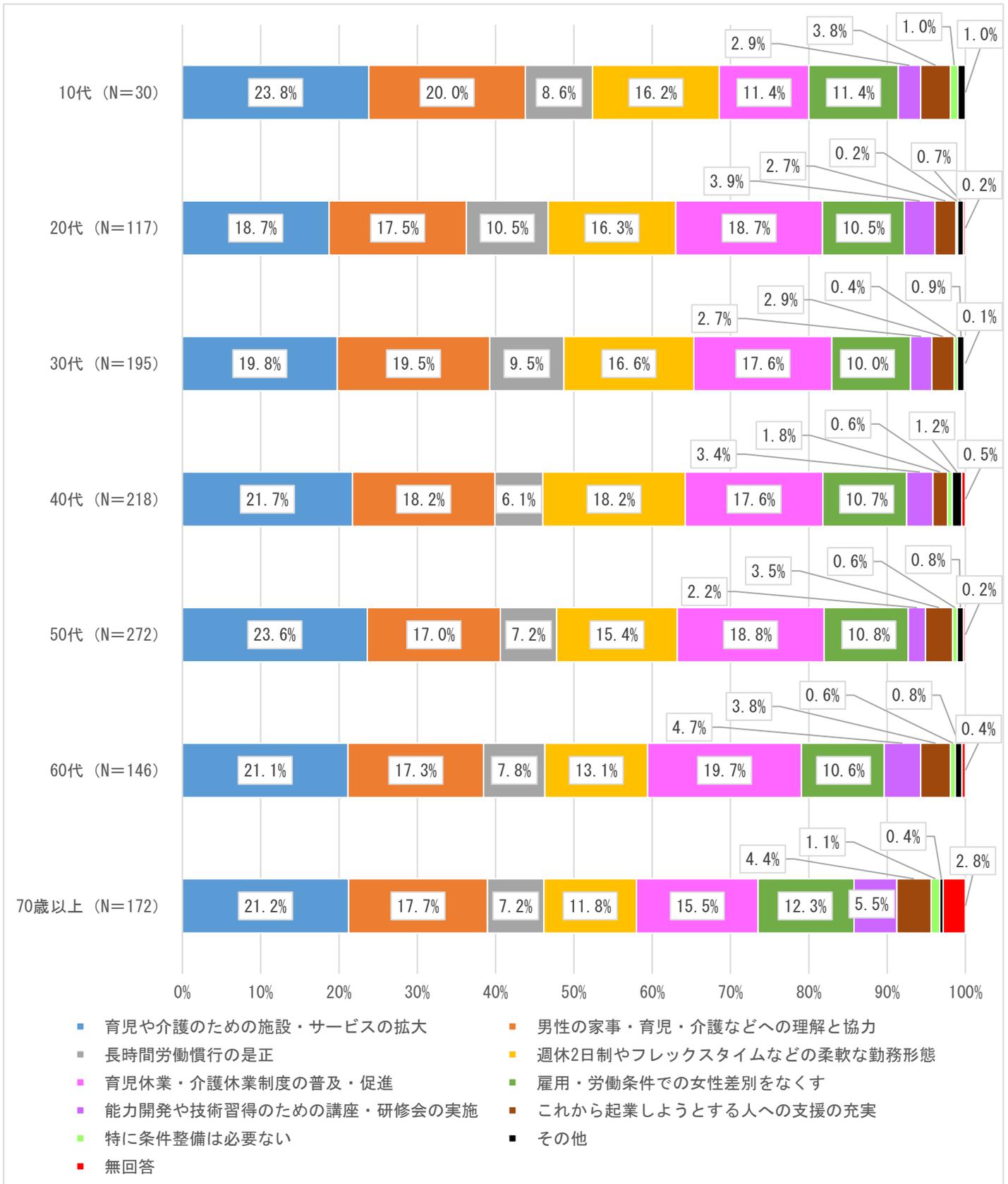
全体で見ると、「育児や介護のための施設・サービスの拡大」が男性では21.5%、女性では21.3%となり、最も多くなった。男性で次に多くなった「育児休業・介護休業制度の普及・促進」は18.6%、女性では17.3%であり、男女の意識の差では男性の方が1.3%高くなった。女性で次に多くなった「男性の家事・育児・介護などへの理解と協力」は18.5%で、男性では17.2%であり、男女の意識の差では女性の方が1.3%高くなった。

年代別にみると、大きな差異はなかった。

[全体]



[年代別]



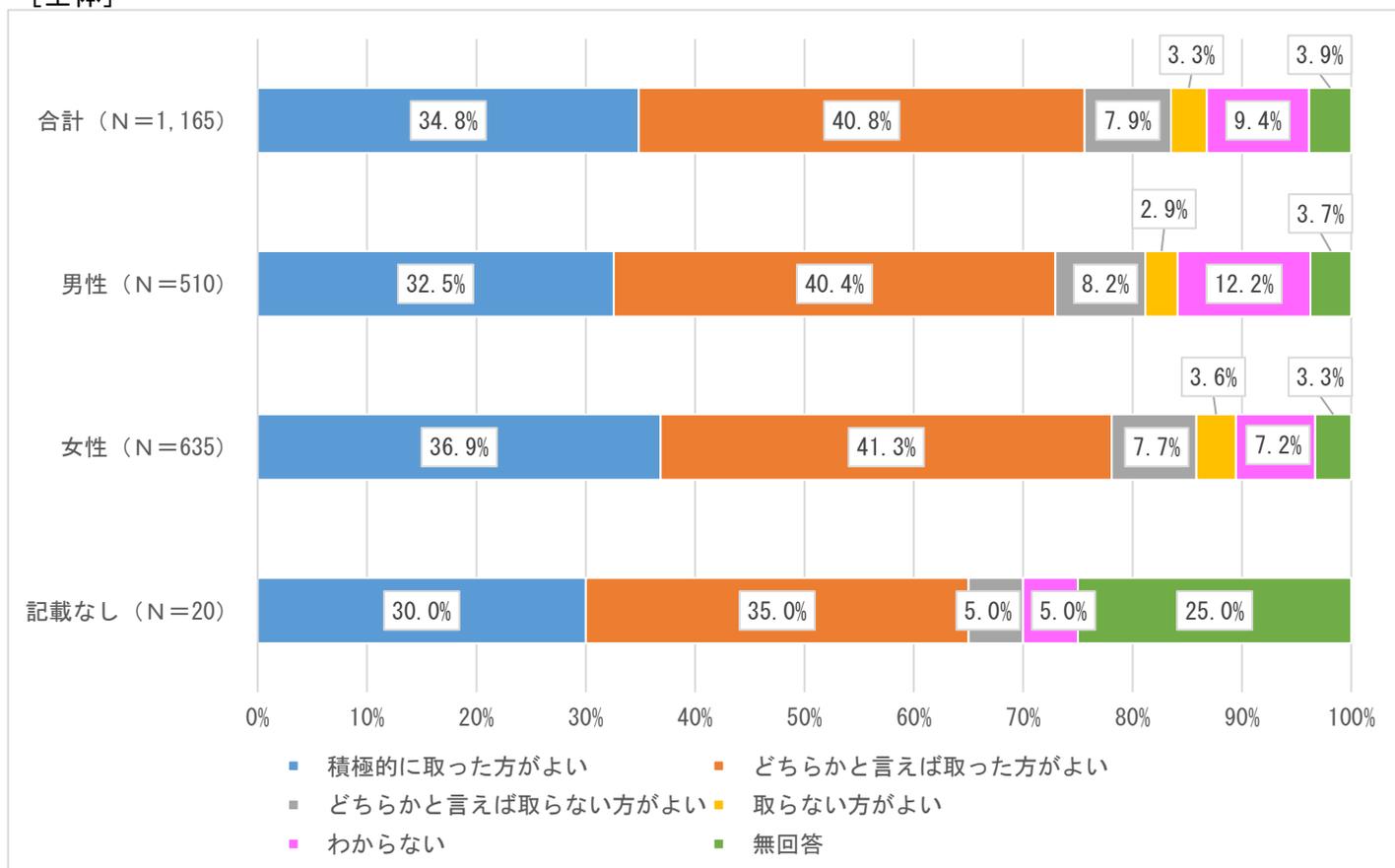
【問8】男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。

①育児休業

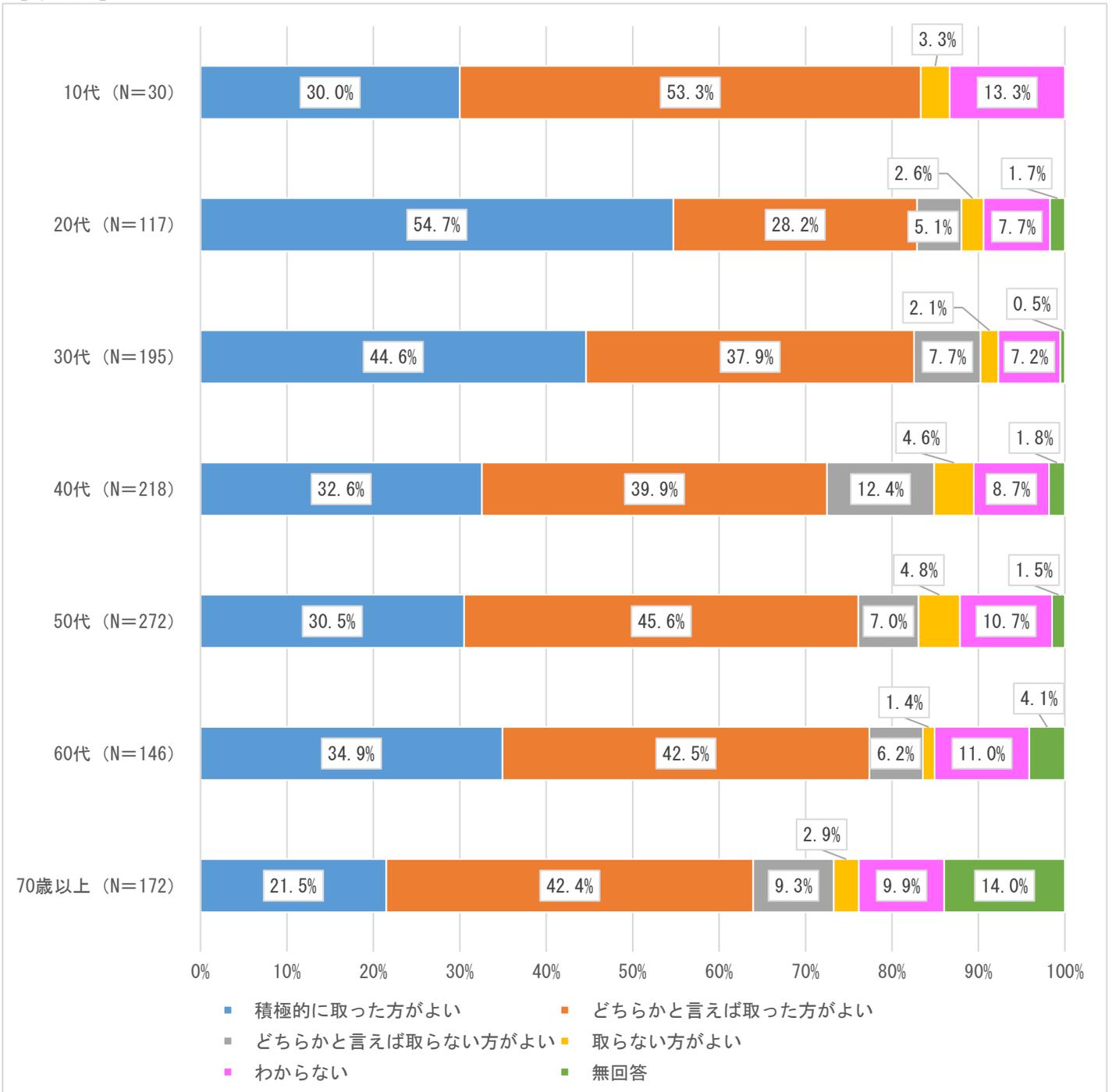
全体で見ると、「どちらかと言えば取った方がよい」が男性では40.4%、女性では41.3%となり、最も多くなった。「積極的に取った方がよい」は、男性では32.5%、女性では36.9%であるが、前回調査と比較すると、男性は3.1%、女性は7.8%増加した。

年代別にみると、「積極的に取った方がよい」が20代で54.7%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

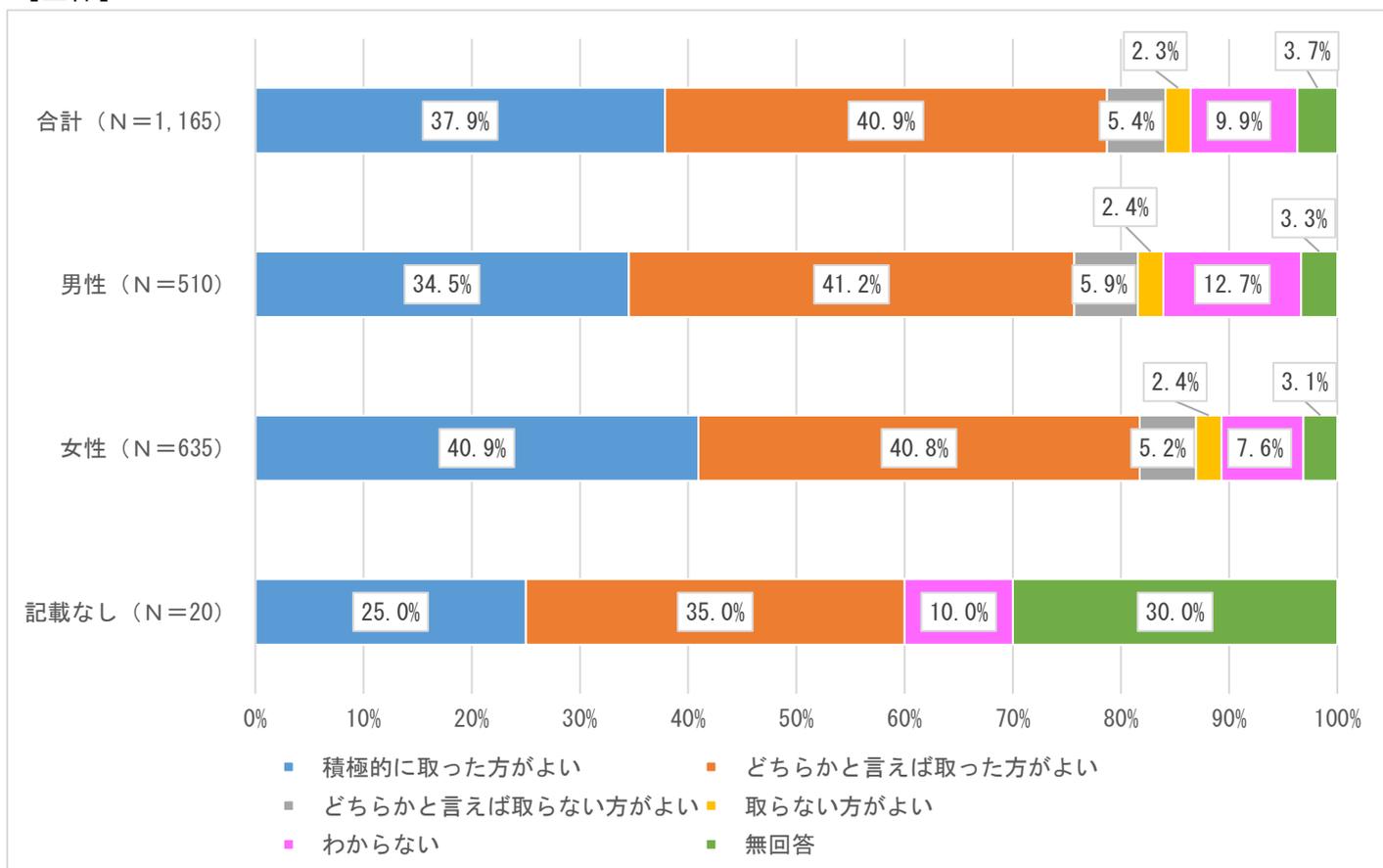


## ②介護休業

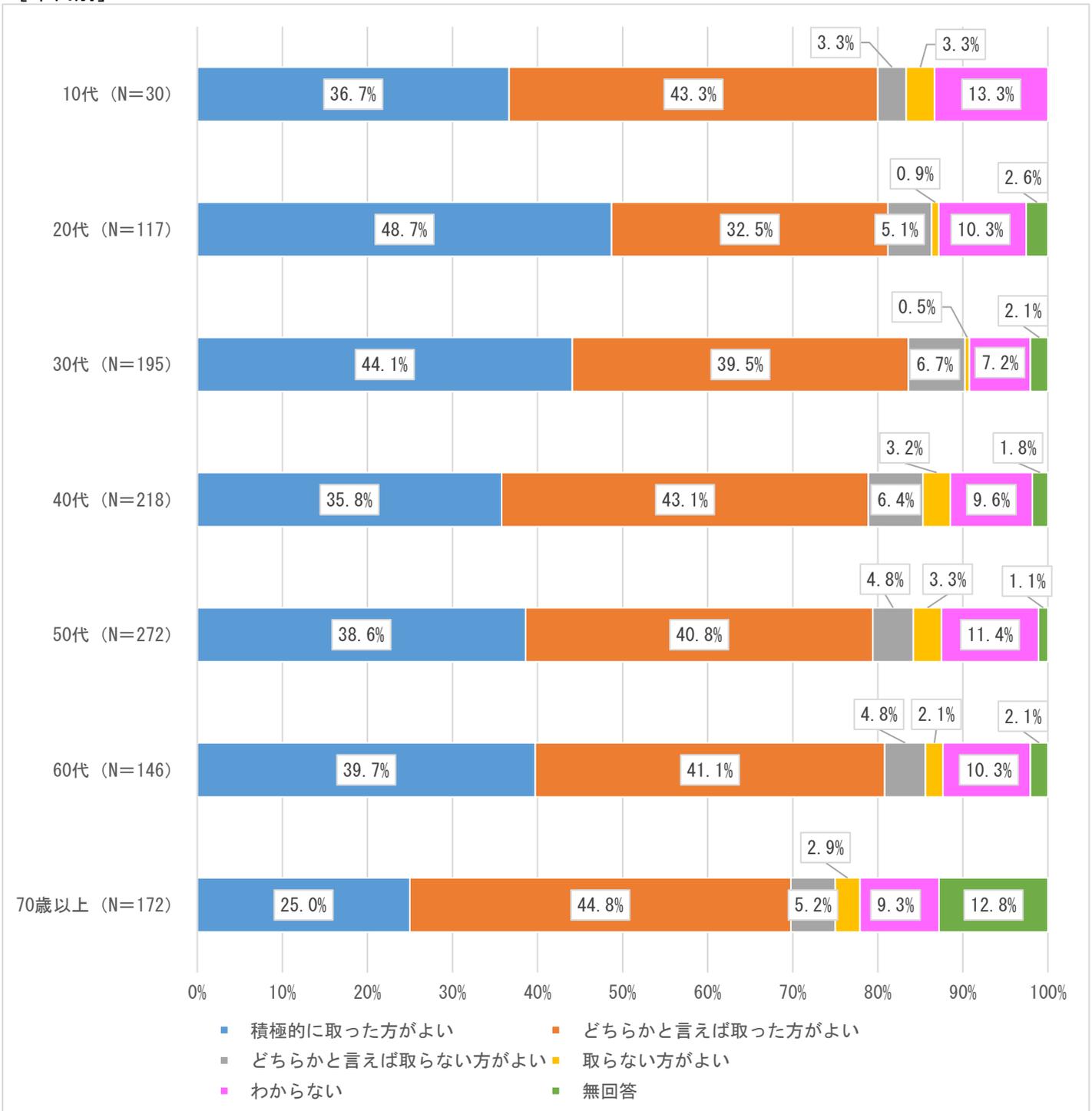
全体で見ると、男性では「どちらかと言えば取った方がよい」が41.2%、女性では「積極的に取った方がよい」が40.9%となり、最も多くなった。「積極的に取った方がよい」は男性で34.5%、女性で40.9%となり、前回調査と比較すると男性では3.8%、女性では8.7%増加した。

年代別にみると、「積極的に取った方がよい」が20代で48.7%となり、最も多くなった。

### [全体]



[年代別]



【問9】男性が育児休業や介護休業を取得できない、または取得しない理由をどう考えますか。

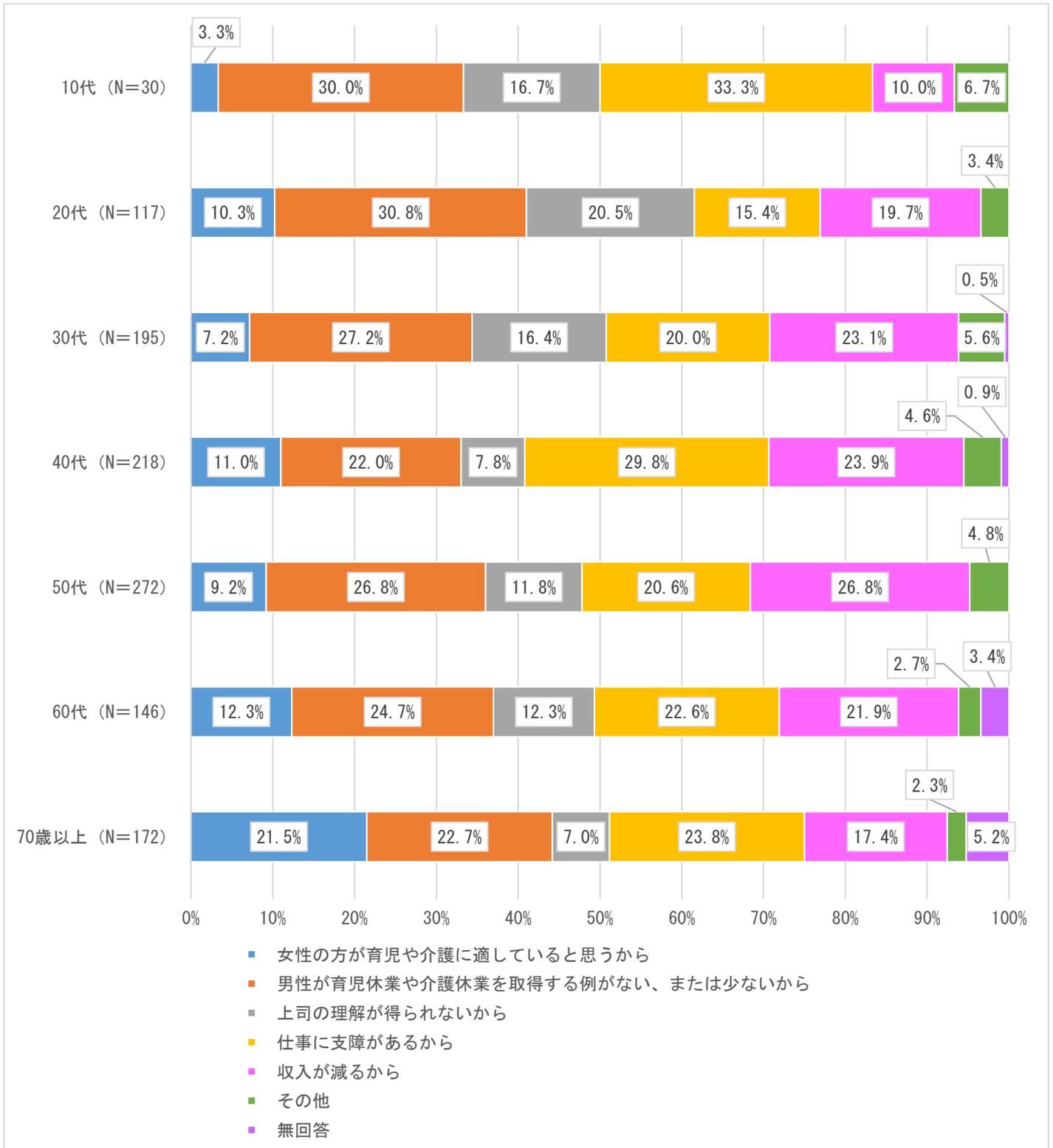
全体で見ると、男性では「仕事に支障があるから」が25.7%、女性では「男性が育児休業や介護休業を取得する例がない、または少ないから」が29.4%となり、最も多くなった。「収入が減るから」は男性で19.8%、女性で24.4%となり、前回調査と比較すると男性で3.6%、女性で1.5%減となった。また、「男性が育児休業や介護休業を取得する例がない、または少ないから」は男性で21.0%、女性で29.4%となり、前回調査と比較すると男性で0.8%、女性で5.5%増となった。

年代別にみると、「男性が育児休業や介護休業を取得する例がない、または少ないから」との回答割合に大きな差異はなかった。

[全体]



[年代別]

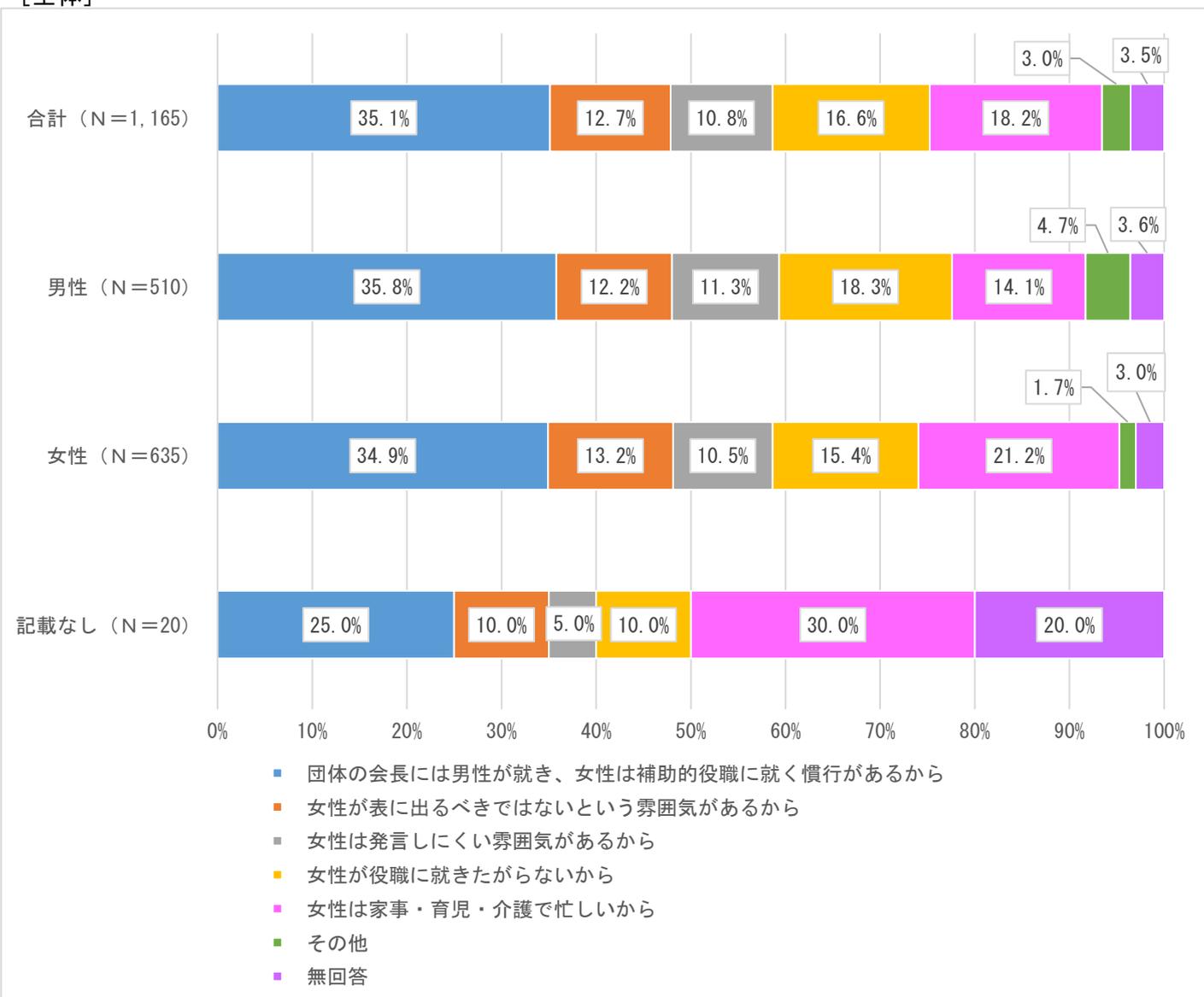


**【問10】 コミュニティや行政区などの地域活動の方針決定の場に、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。(複数回答)**

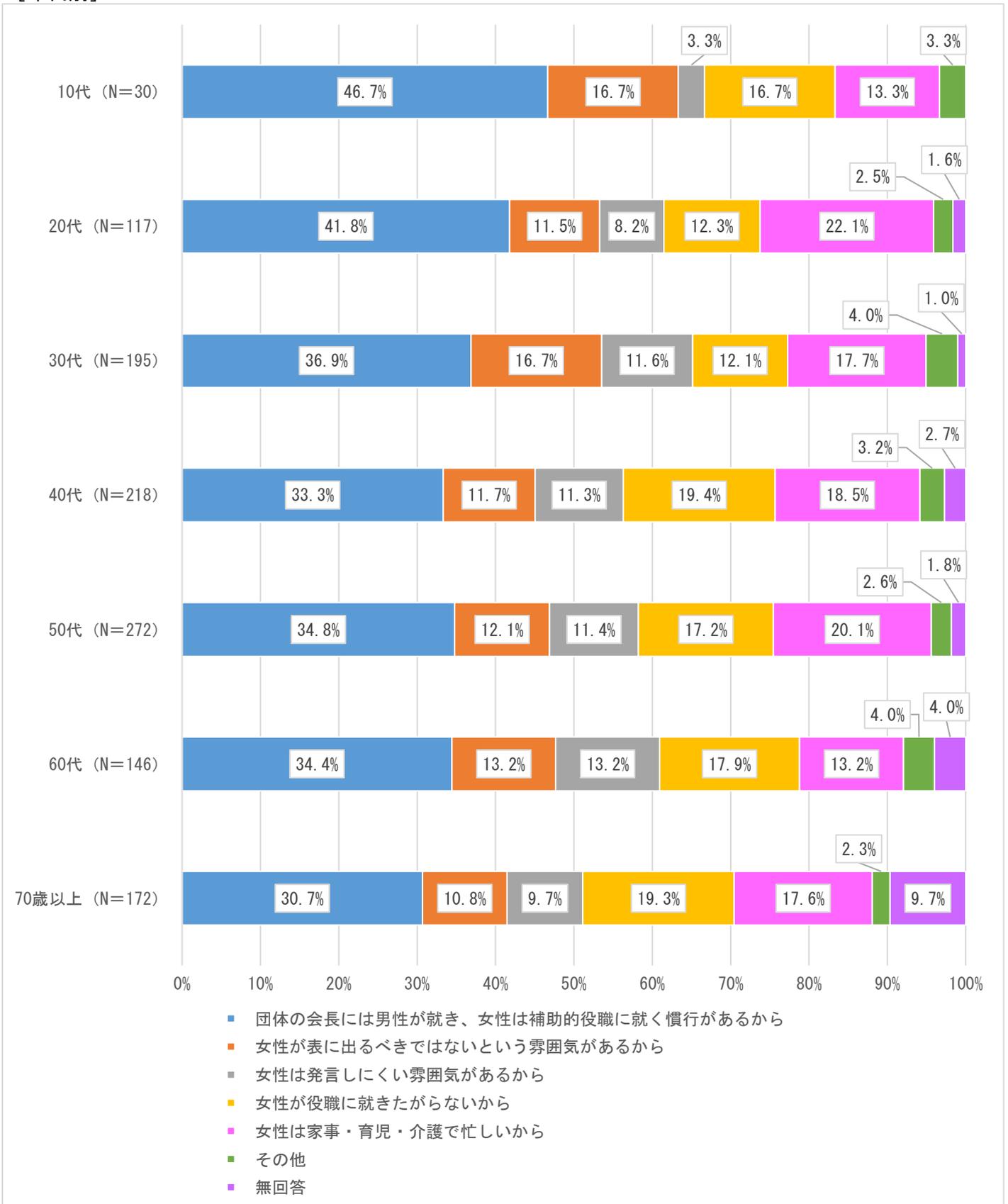
全体で見ると、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから」が男性では35.8%、女性では34.9%となり、最も多くなった。前回調査で最も多かった「女性は家事・育児・介護で忙しいから」は、男性で14.1%、女性で21.2%となり、前回調査と比較すると男性で13.4%、女性で14.4%減となった。

年代別では、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから」と感じているのは、10代が46.7%で最も多くなった。

**[全体]**



[年代別]

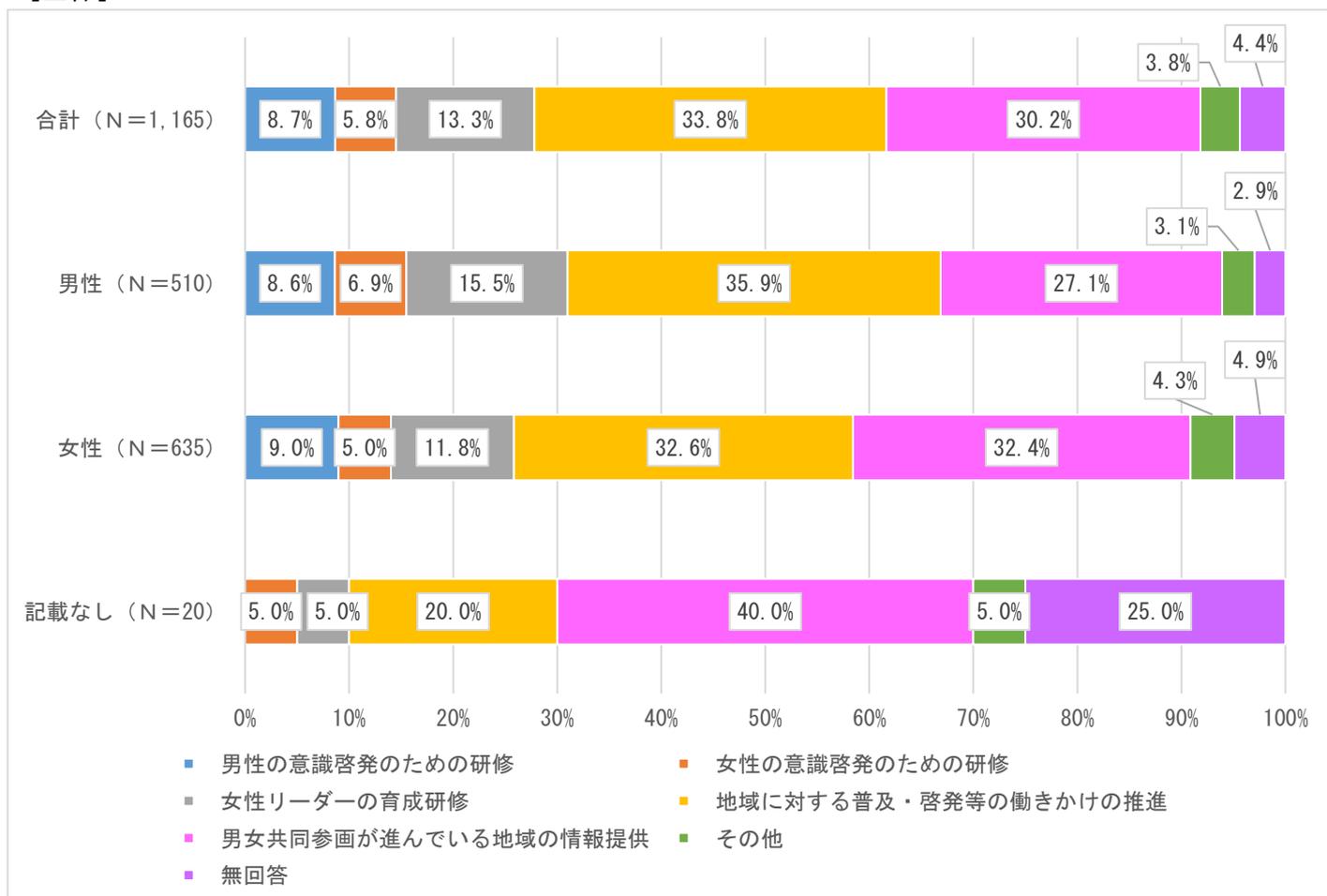


【問11】 地域において男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

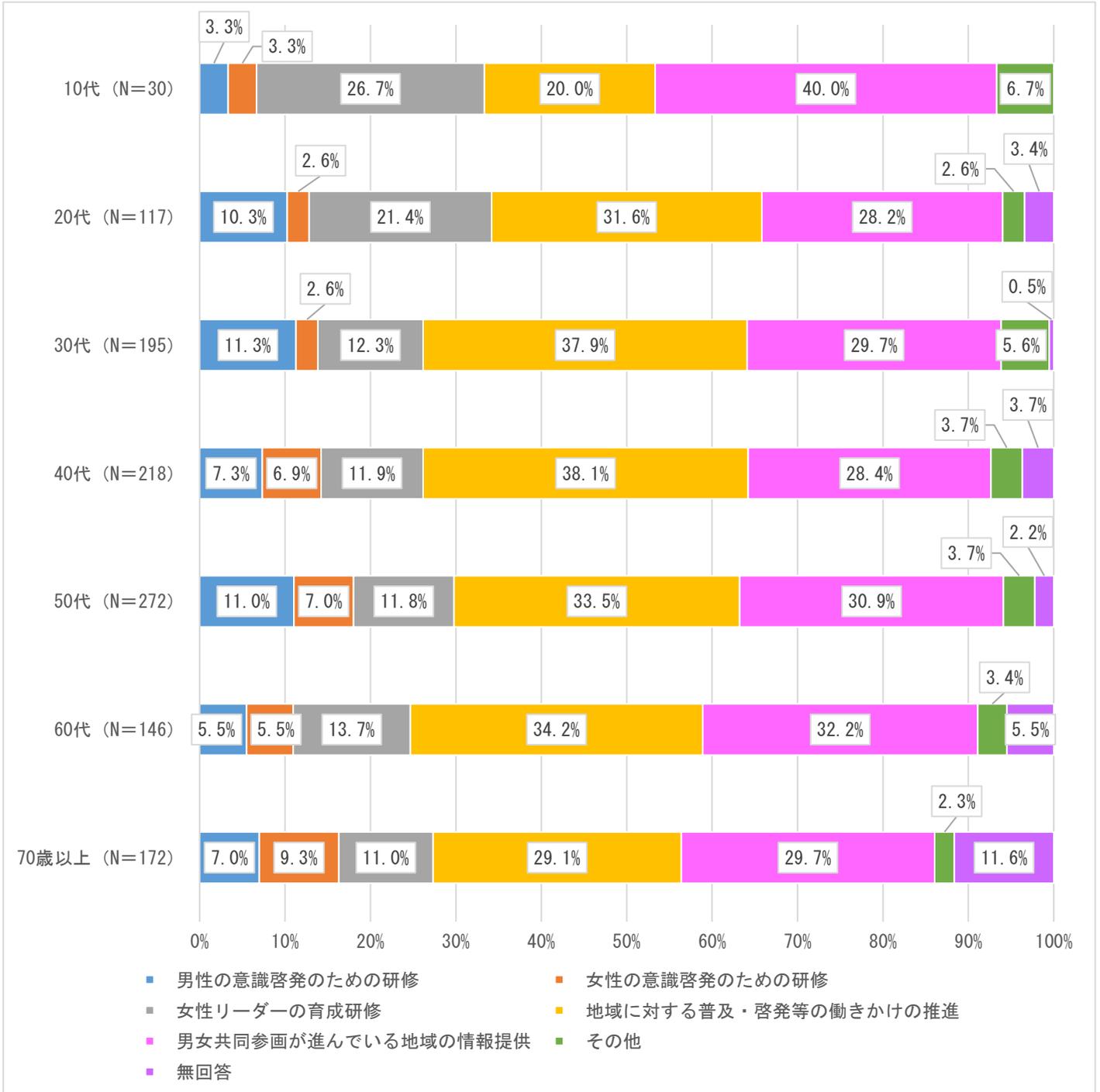
全体で見ると、「地域に対する普及・啓発等の働きかけの推進」が男性では35.9%、女性では32.6%となり、最も多くなった。

年代別にみると、「女性リーダーの育成研修」が必要と考える割合は、10代で26.7%、20代で21.4%となり、他の年代より高くなった。

[全体]



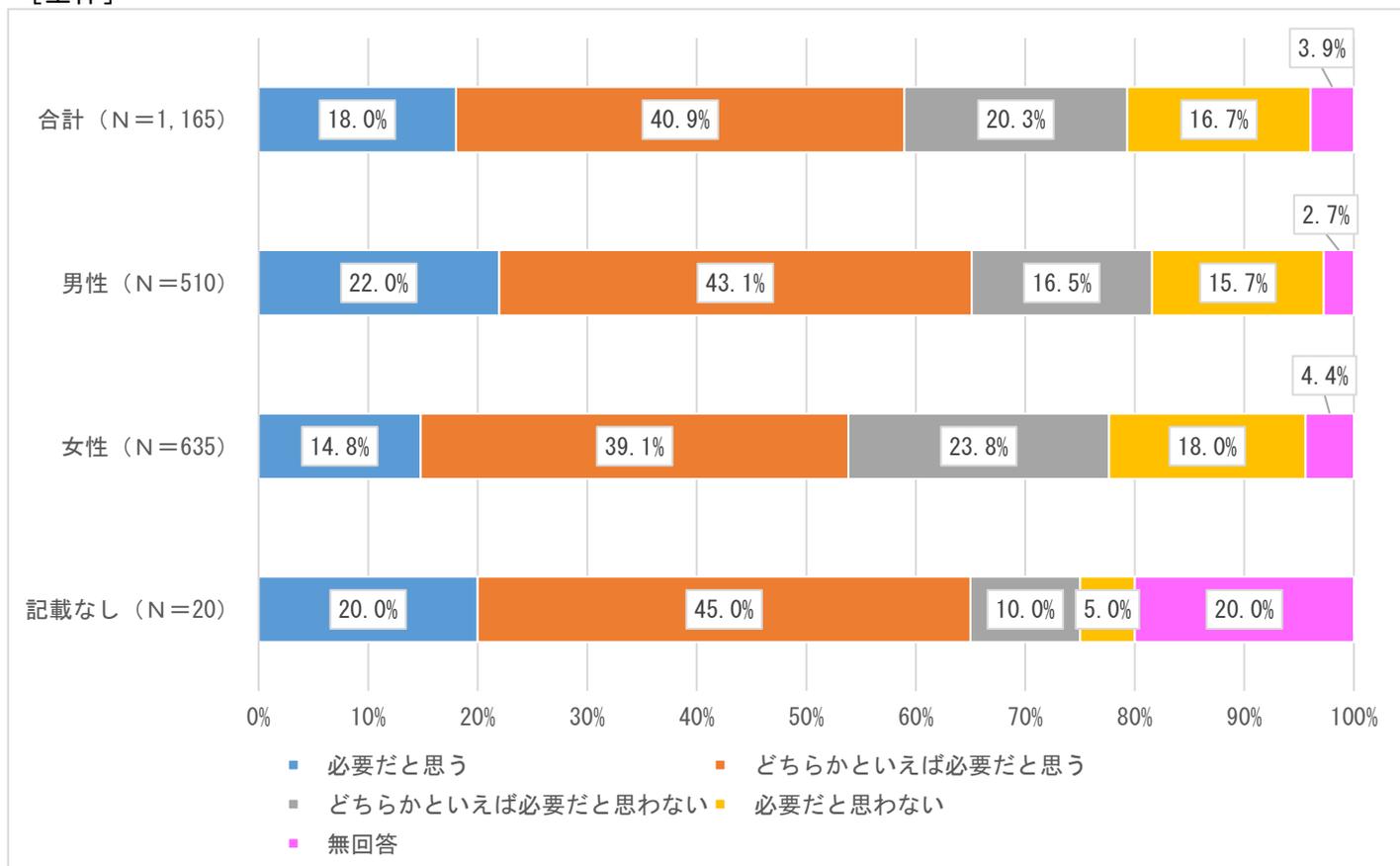
[年代別]



**【問12】 地域において、役員などの女性の割合をあらかじめ一定数に定め、積極的に起用する制度（クォータ制）を導入することは必要だと思いますか。**

全体で見ると、「どちらかといえば必要だと思う」が男性では43.1%、女性では39.1%となり、最も多くなった。「必要だと思う」と合わせると、男性では65.1%、女性では53.9%が必要を感じているという結果となった。  
年代別にみると、「必要だと思う」が10代で26.7%となり、最も多くなった。

**[全体]**





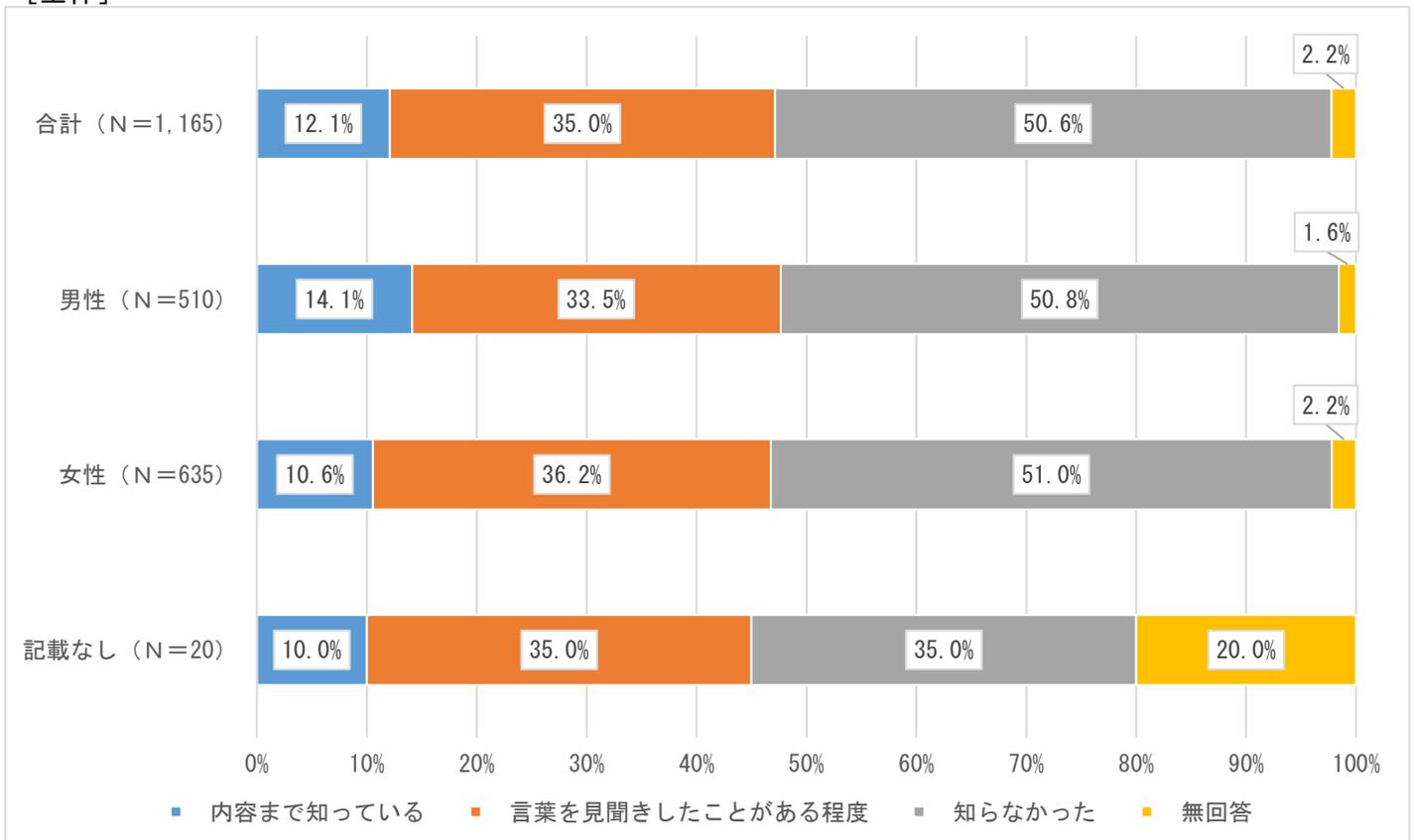
## 2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします（問13～問18）

### 【問13】あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。

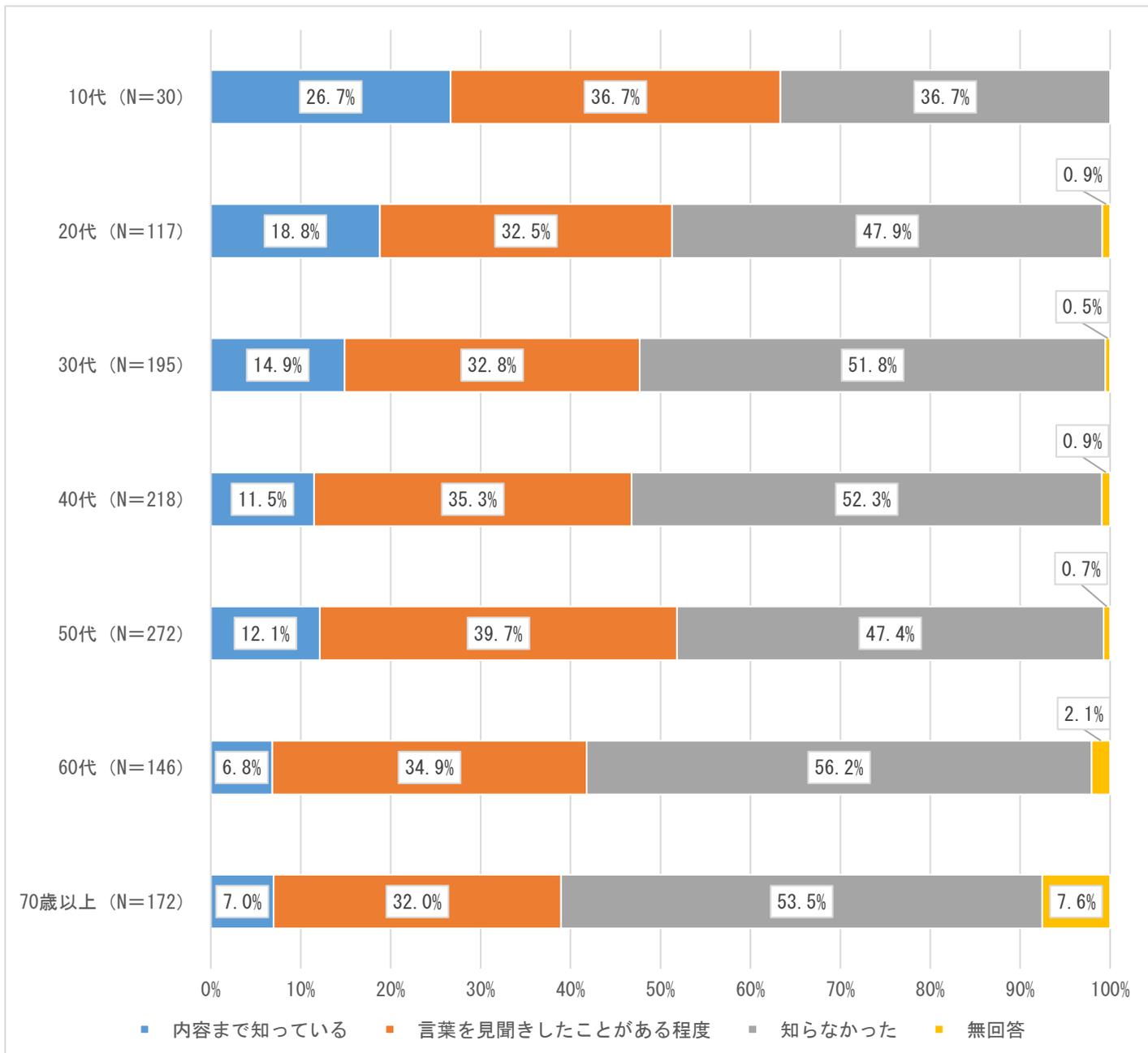
全体で見ると、前回調査同様「知らなかった」が男性では50.8%、女性では51.0%となり、最も多くなった。「知らなかった」は、男性で50.8%、女性で51.0%となり、前回調査と比較すると男性で11.2%、女性で8.8%減少した。また、「内容まで知っている」は男性で14.1%、女性で10.6%となり、前回調査と比較すると男性で7.1%、女性で4.9%増加した。

年代別にみると、「内容まで知っている」が10代で26.7%となり、最も多くなった。

#### [全体]



[年代別]

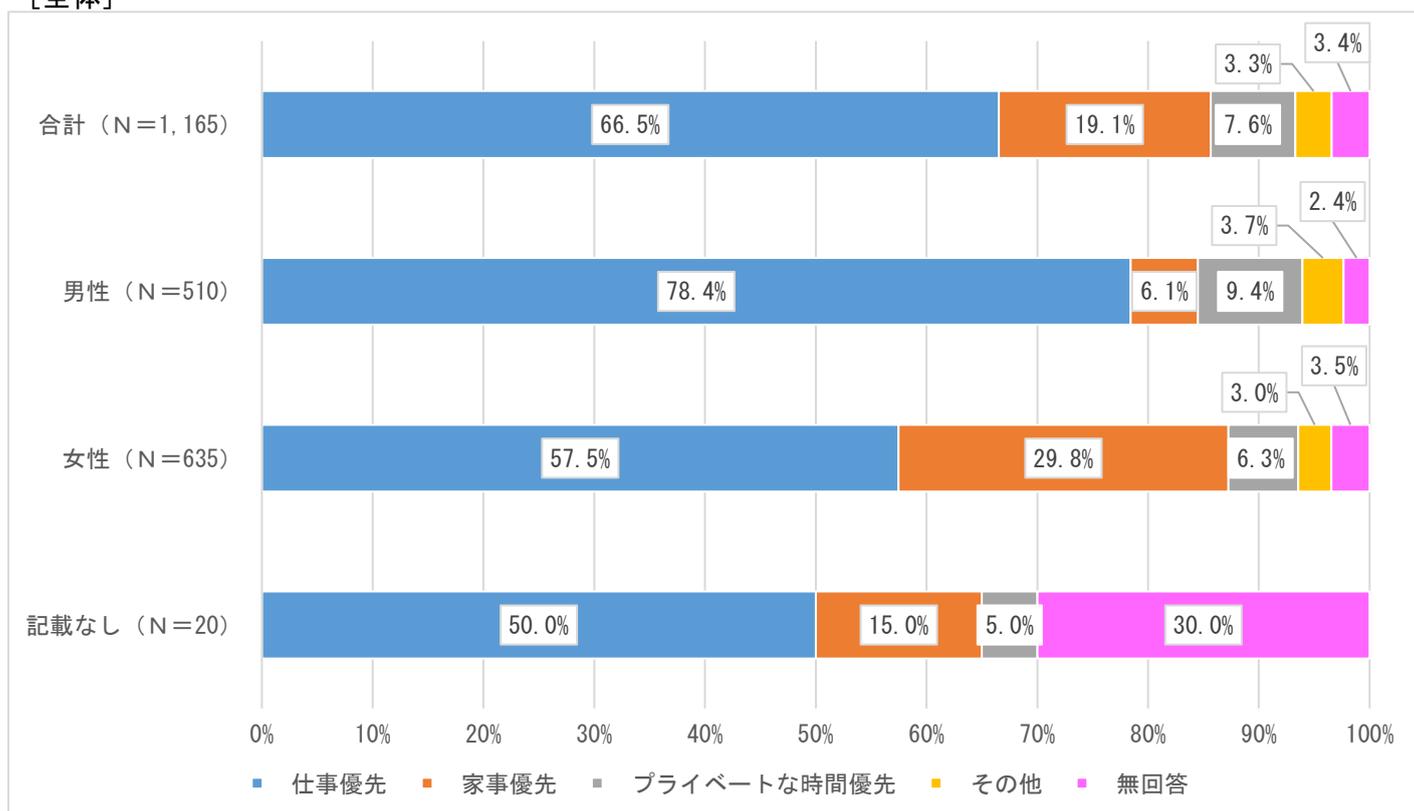


【問14】 生活の中での、仕事・介護（育児、介護）・プライベートな時間（趣味など）の優先度について  
お答えください。

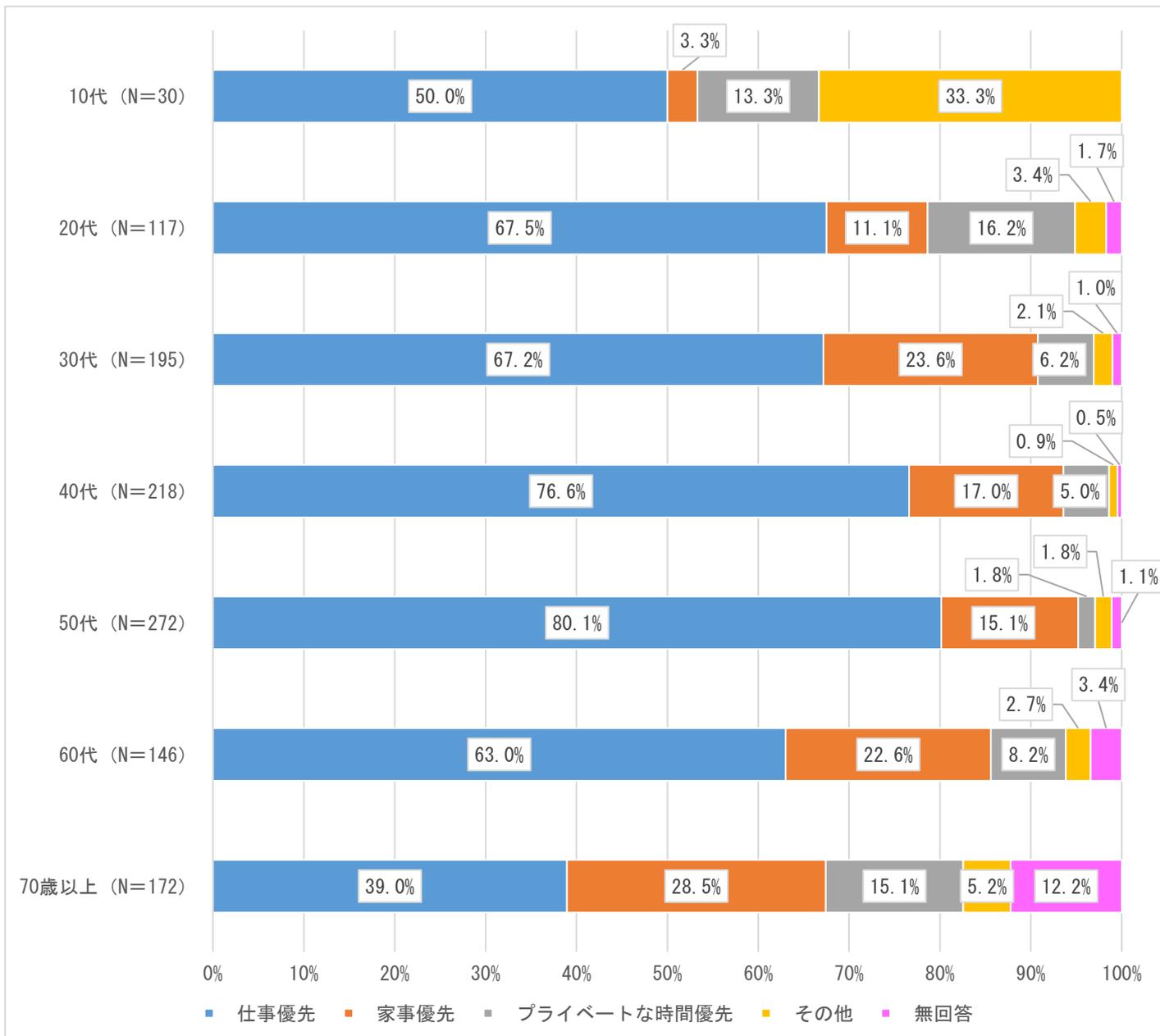
①現状

全体で見ると、「仕事優先が」男性では78.4%、女性では57.5%となり、最も多くなった。前回調査と比較すると、男性で2.2%、女性で3.8%増加した。  
年代別にみると、「仕事優先」が50代で80.1%となり、最も多くなった。

[全体]



[年代別]

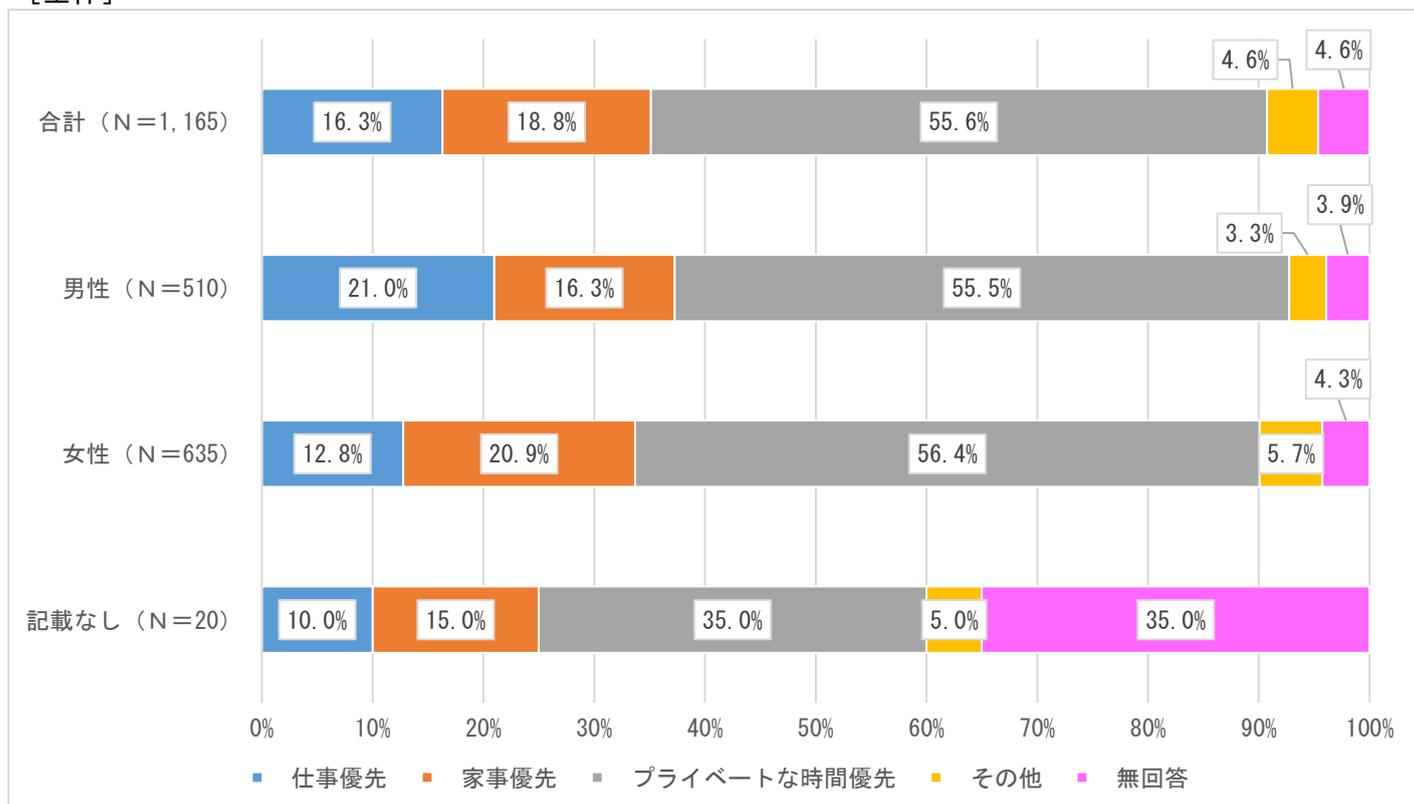


## ②理想

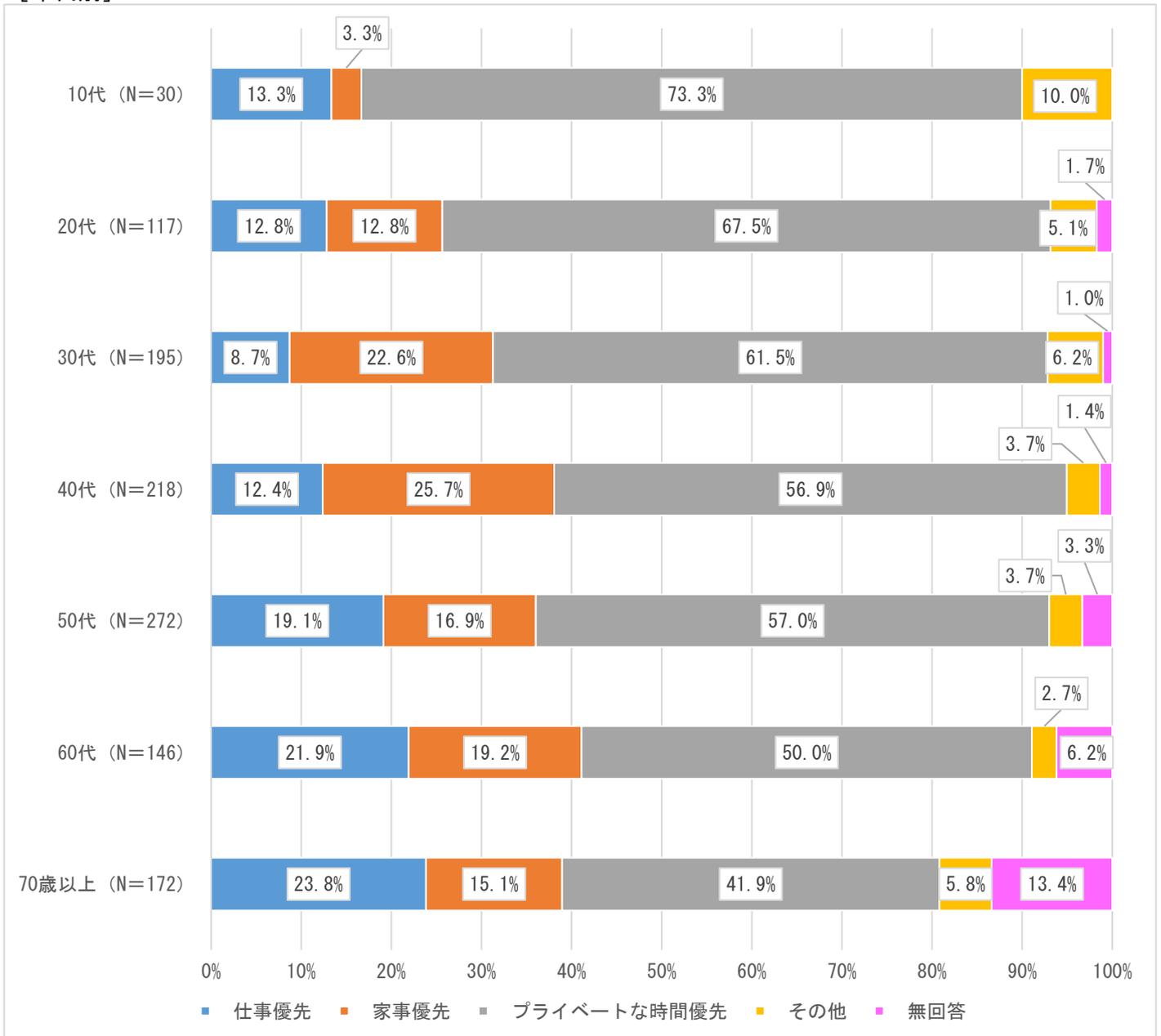
全体で見ると、「プライベートな時間優先」が男性では55.5%、女性では56.4%となり、最も多くなった。前回調査と比較すると、男性で4.8%、女性で8.6%増加した。

年代別にみると、「プライベートな時間優先」が10代で73.3%、「仕事優先」が70代で23.8%となり、最も多くなった。「プライベートな時間」の割合は年代が上がるにつれて減少、「仕事優先」の割合は年代が上がるにつれて増加する傾向がみられた。

### [全体]



[年代別]

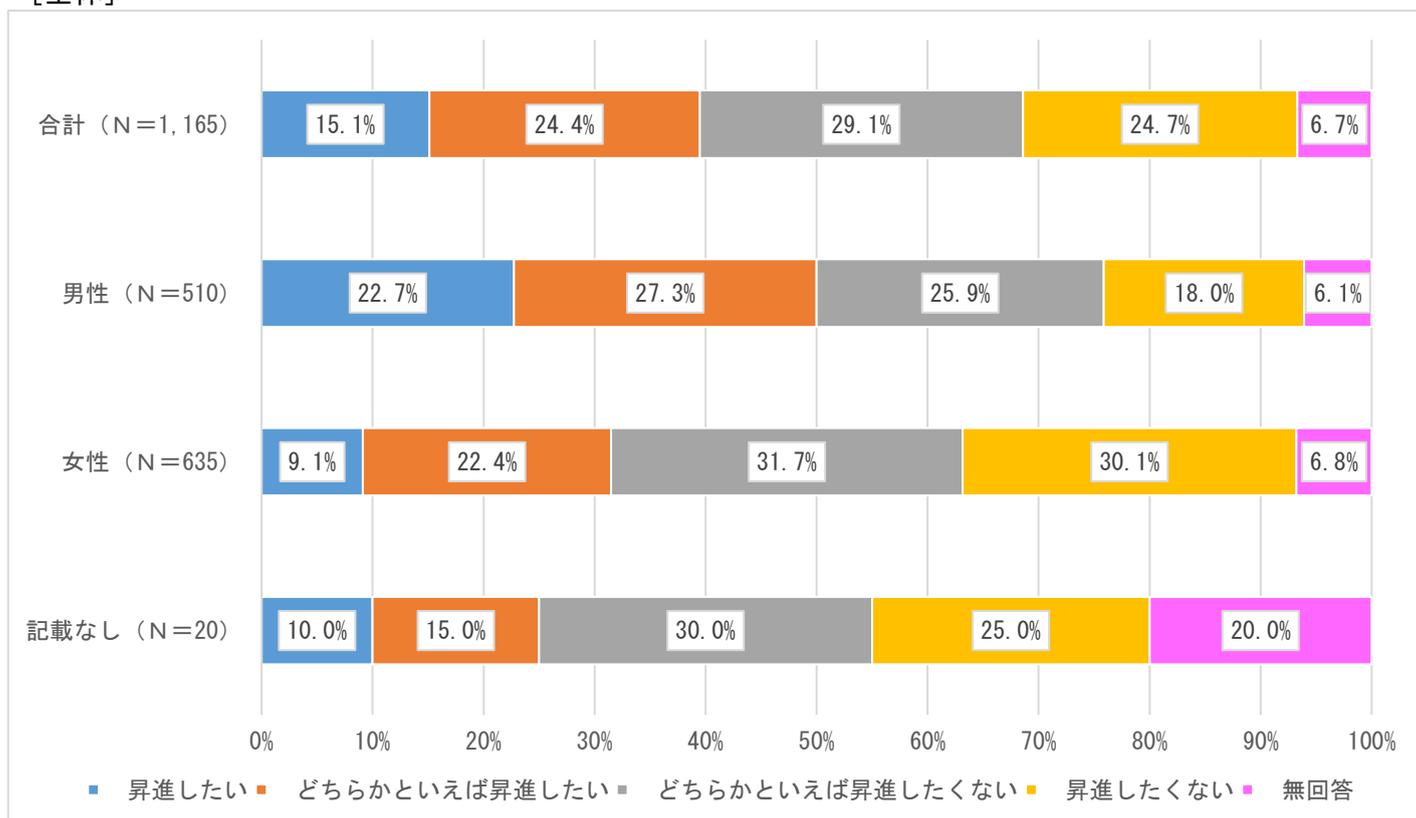


**【問15】 あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。**

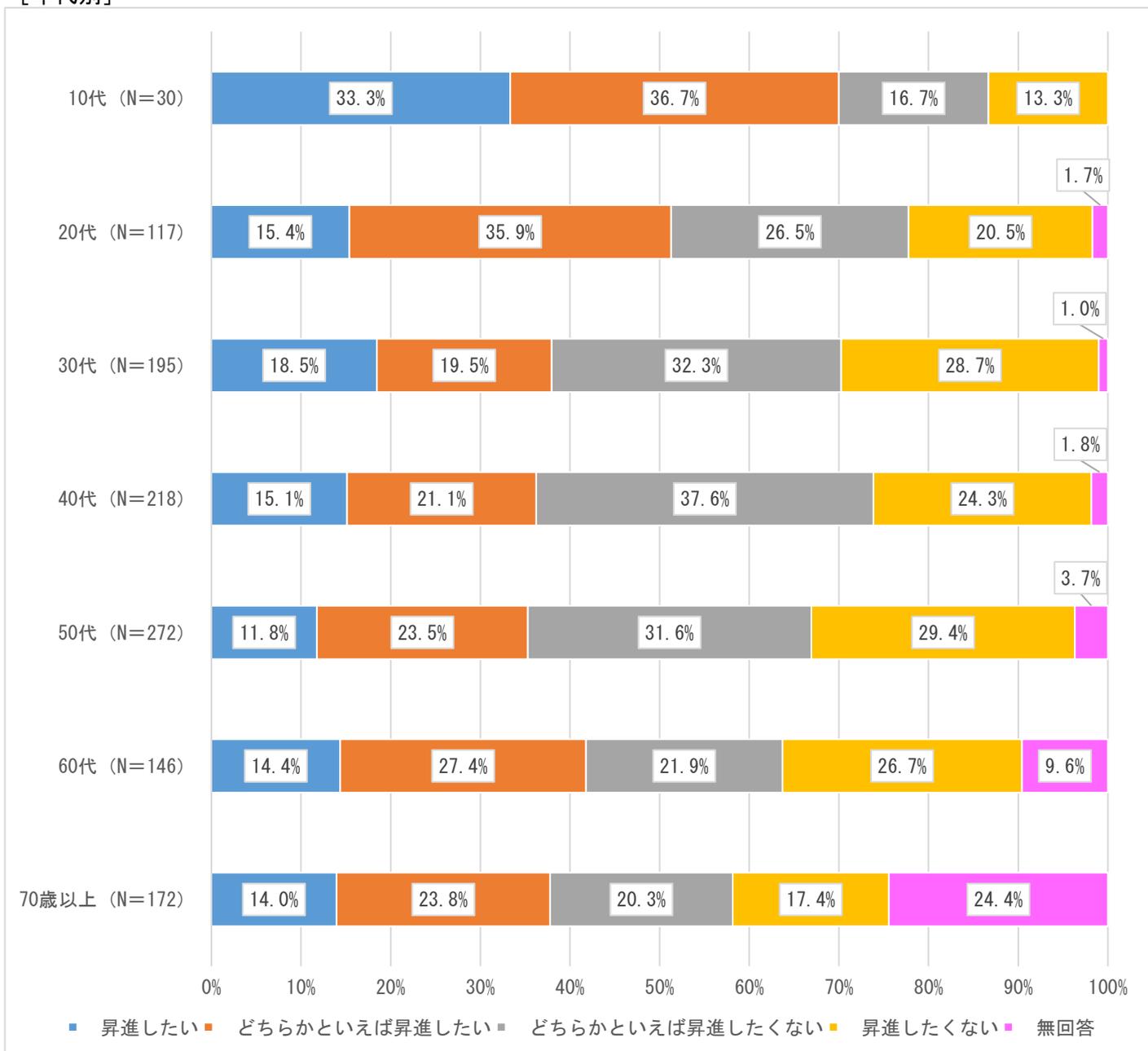
全体で見ると、男性では「どちらかといえば昇進したい」が27.3%、女性では「どちらかといえば昇進したくない」が31.7%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、「昇進したい」は男性が22.7%であるのに対し、女性では9.1%であり、男性が13.6ポイント高くなった。また、「昇進したくない」は男性が18.0%であるのに対し、女性では30.1%であり、女性が12.1ポイント高くなった。

年代別にみると、「昇進したい」が20代で18.5%、「昇進したくない」が50代で29.4%となり、最も多くなった。

**[全体]**



[年代別]

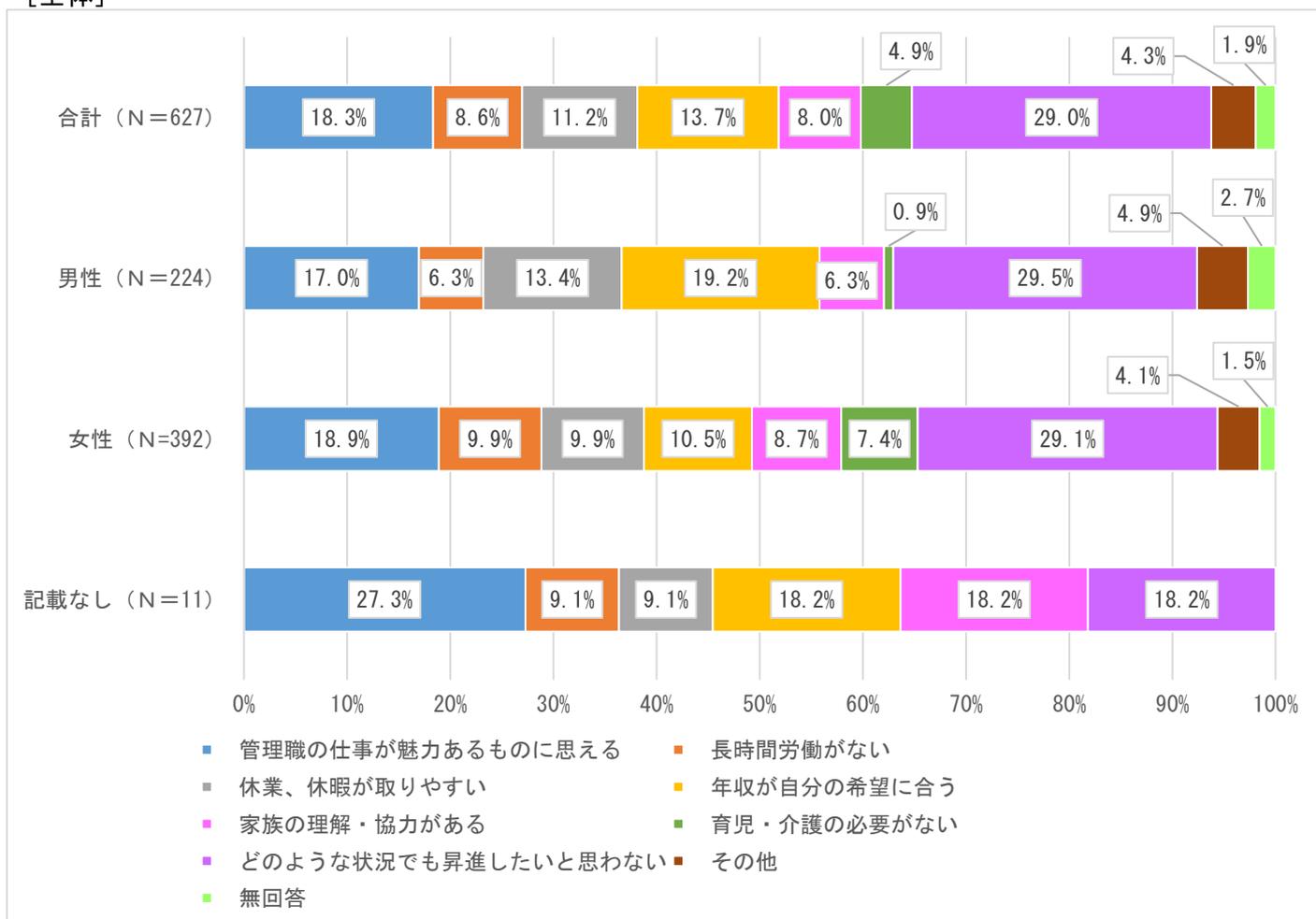


【問16】問15で、「3. どちらかといえば昇進したくない」または「4. 昇進したくない」と回答した方に伺います。どのような状況になれば昇進したいと思いますか

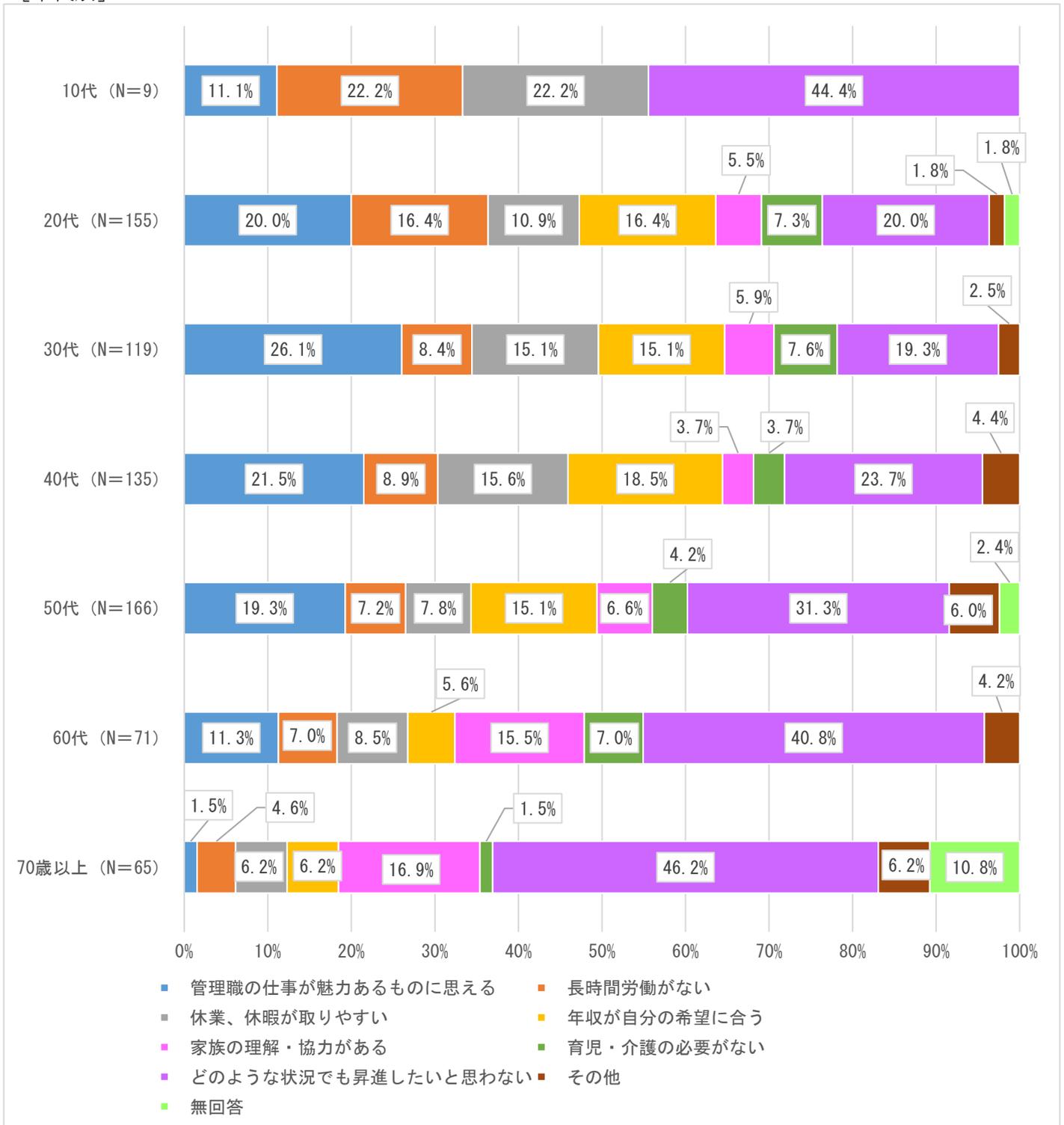
全体で見ると、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が男性では29.5%、女性では29.1%となり、最も多くなった。重視する点として、男性は「年収が自分の希望に合う」で19.2%、女性は「管理職の仕事が魅力あるものに思える」が18.9%で最も多くなった。

年代別にみると、10代で「長時間労働がない」、「休業・休暇が取りやすい」がいずれも22.2%で最も多くなり、20代から50代では「管理職の仕事が魅力あるものに思える」が最も多くなった。

[全体]



[年代別]

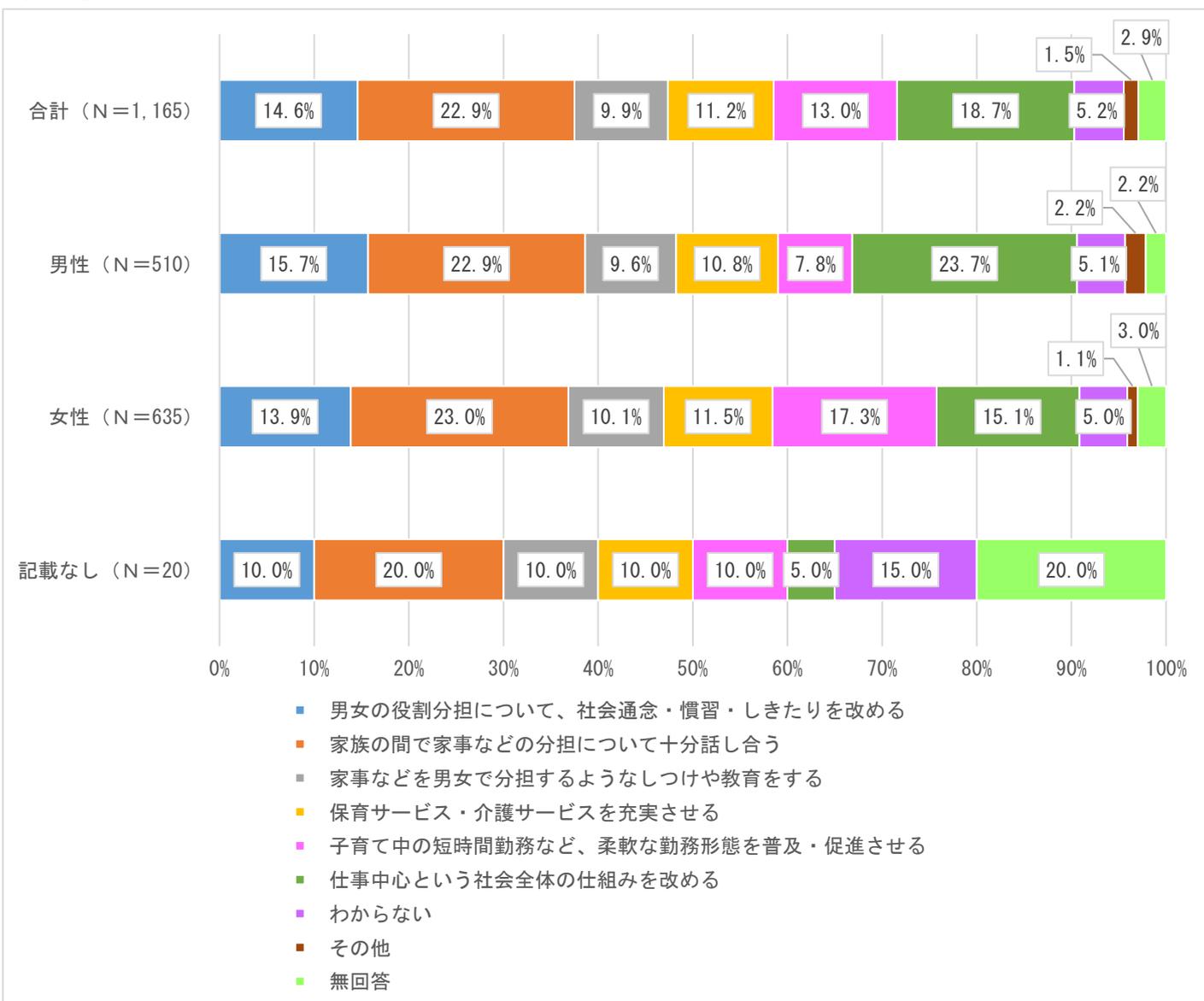


【問17】仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

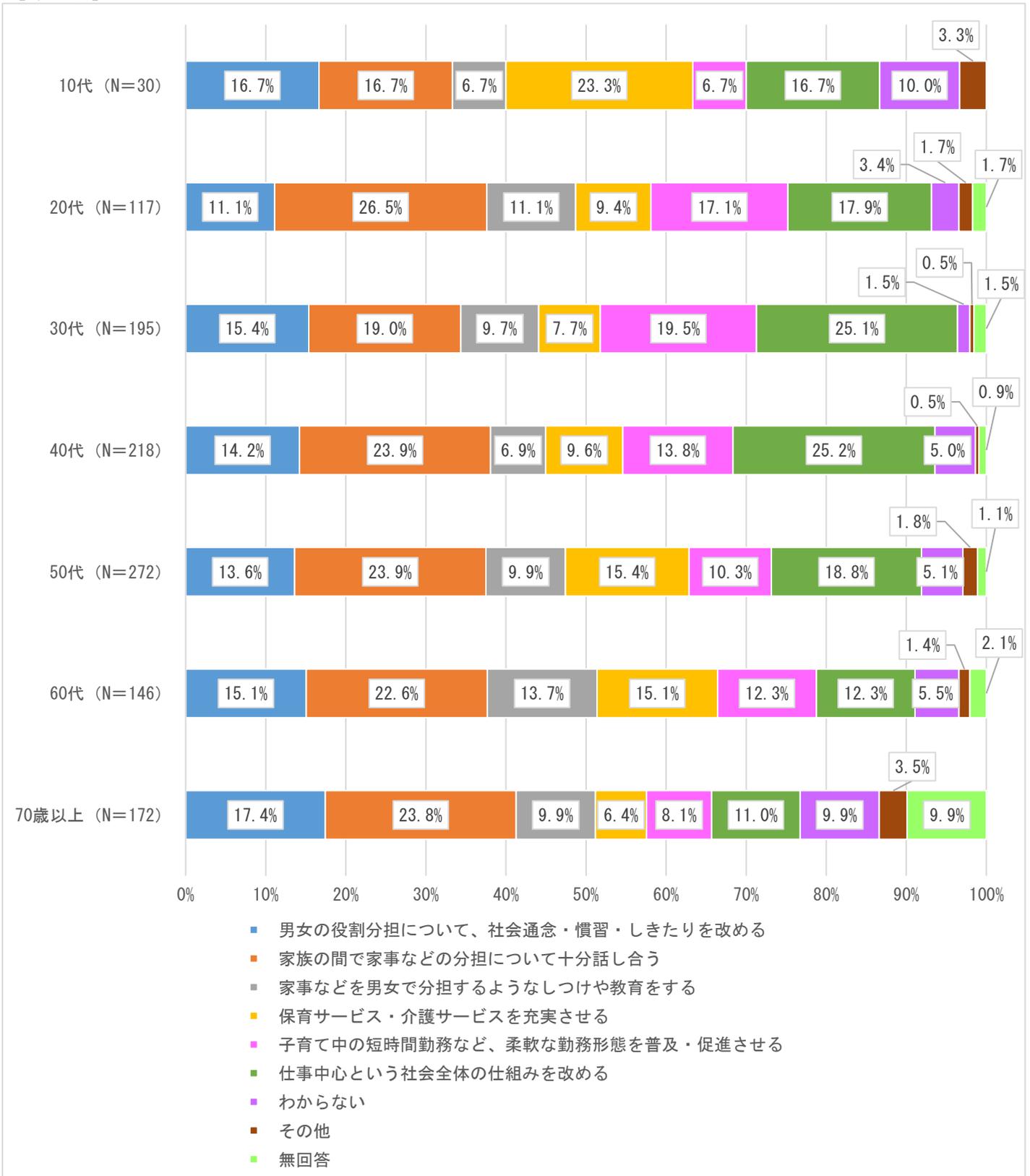
全体で見ると、男性では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が23.7%、女性では「家族の間で家事などの分担について十分話し合う」が23.0%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、女性が「子育て中の短時間勤務など、柔軟な勤務形態を普及・促進させる」で17.3%であるのに対し、男性は7.8%であり、女性が9.5ポイント高くなった。

年代別にみると、50代以上では「家族の間で家事などの分担について十分話し合う」が、30代及び40代では「仕事中心という社会全体の仕組みを改める」が最も多くなった。

【全体】



[年代別]

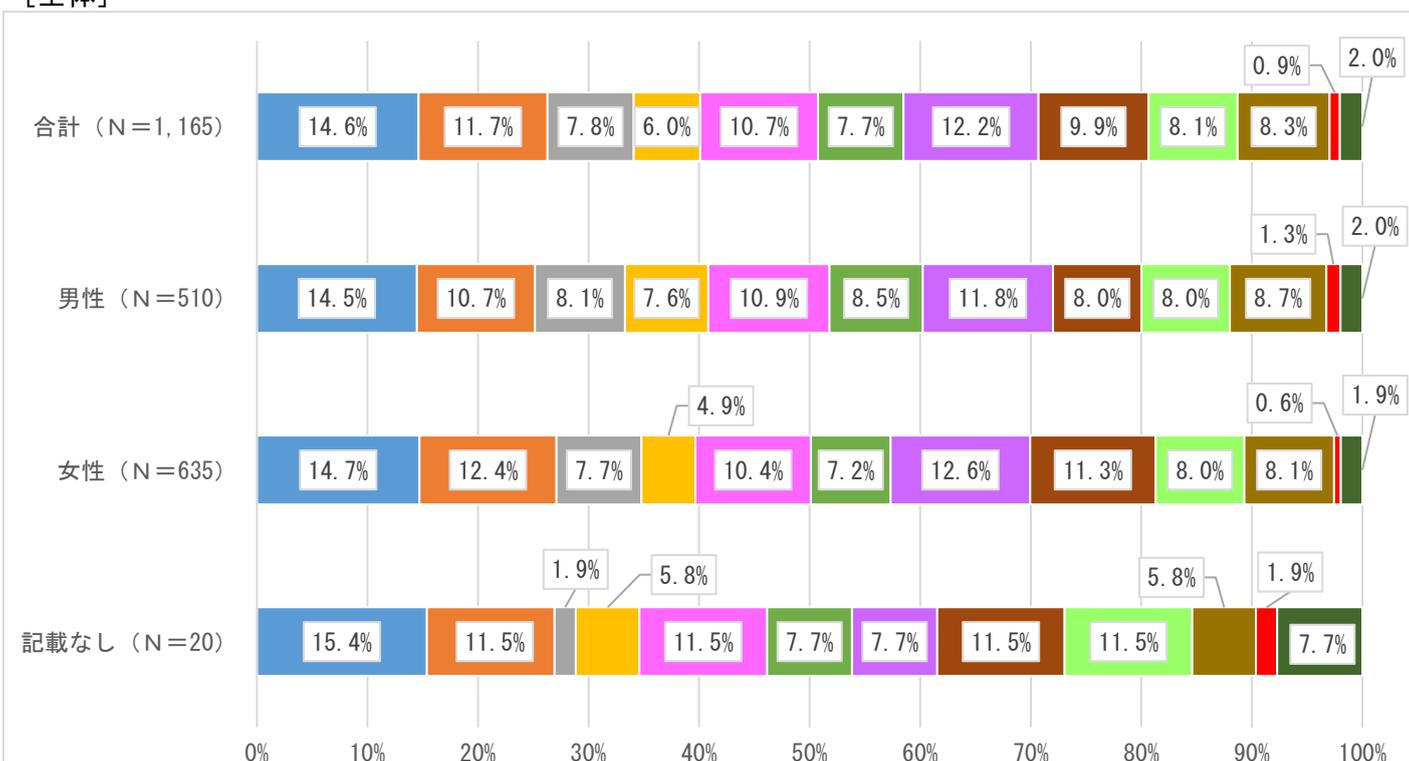


【問18】ワーク・ライフ・バランスの推進により、考えられる効果はどれですか。（複数回答）

全体でみると、「子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる」が男性では14.5%、女性では14.7%となり、最も多くなった。男女の意識の差に大きな差異はなく、「一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」、「妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる」が続いた。

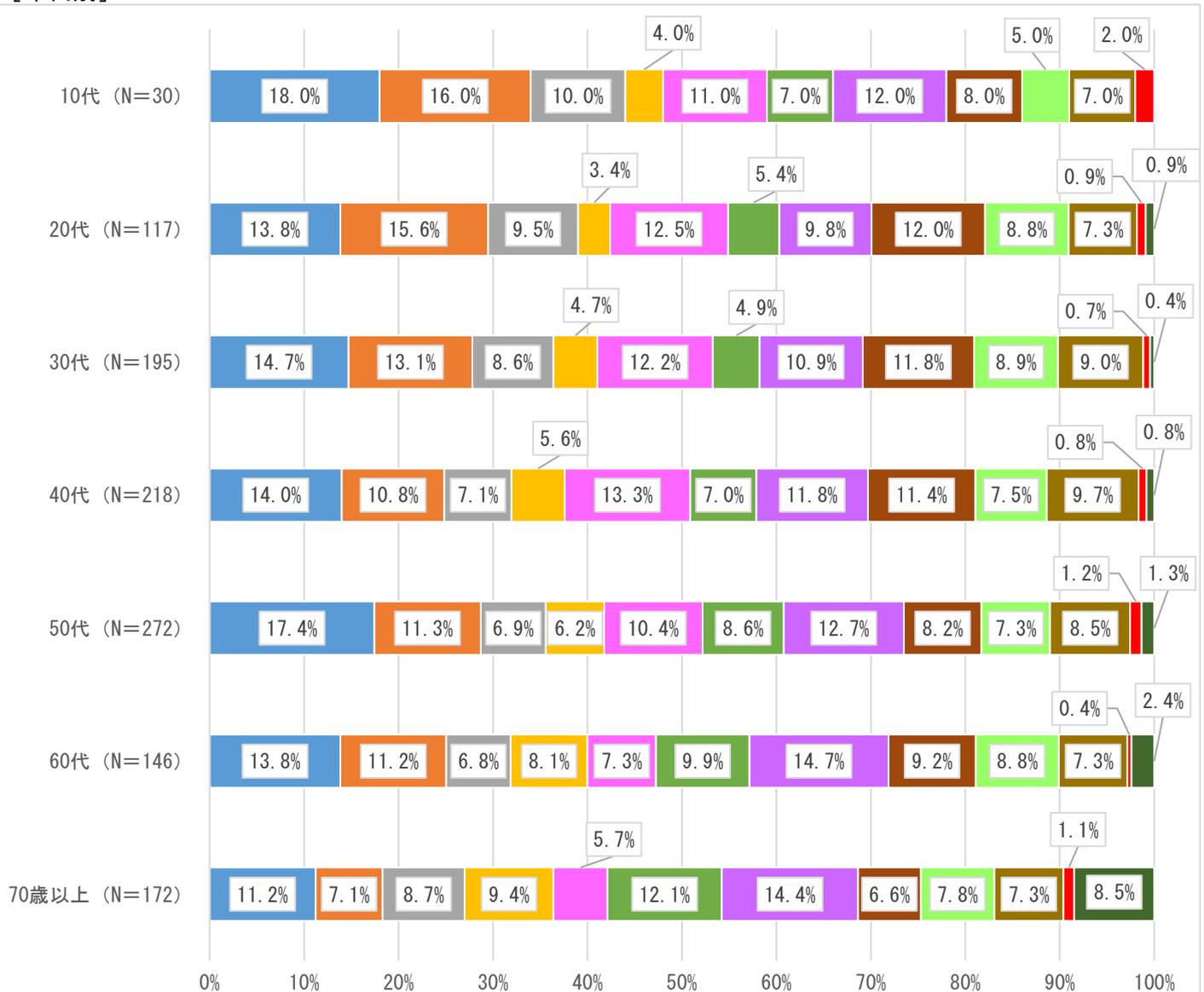
年代別にみると、大きな差異はなかった。

[全体]



- 子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる
- 妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる
- 自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる
- 働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる
- 長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす
- 人口減少が進行する中、女性や高齢者など他よな人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる
- 一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる
- 子どもと関わる時間が増えるなど、安心して子どもを産み育てることができる
- 仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる
- 企業が個々のニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まり、優秀な人材を確保・定着させることができる
- その他
- 無回答

[年代別]



- 子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる
- 妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる
- 自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる
- 働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる
- 長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす
- 人口減少が進行する中、女性や高齢者など他よな人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる
- 一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる
- 子どもと関わる時間が増えるなど、安心して子どもを産み育てることができる
- 仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる
- 企業が個々のニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まり、優秀な人材を確保・定着させることができる
- その他
- 無回答

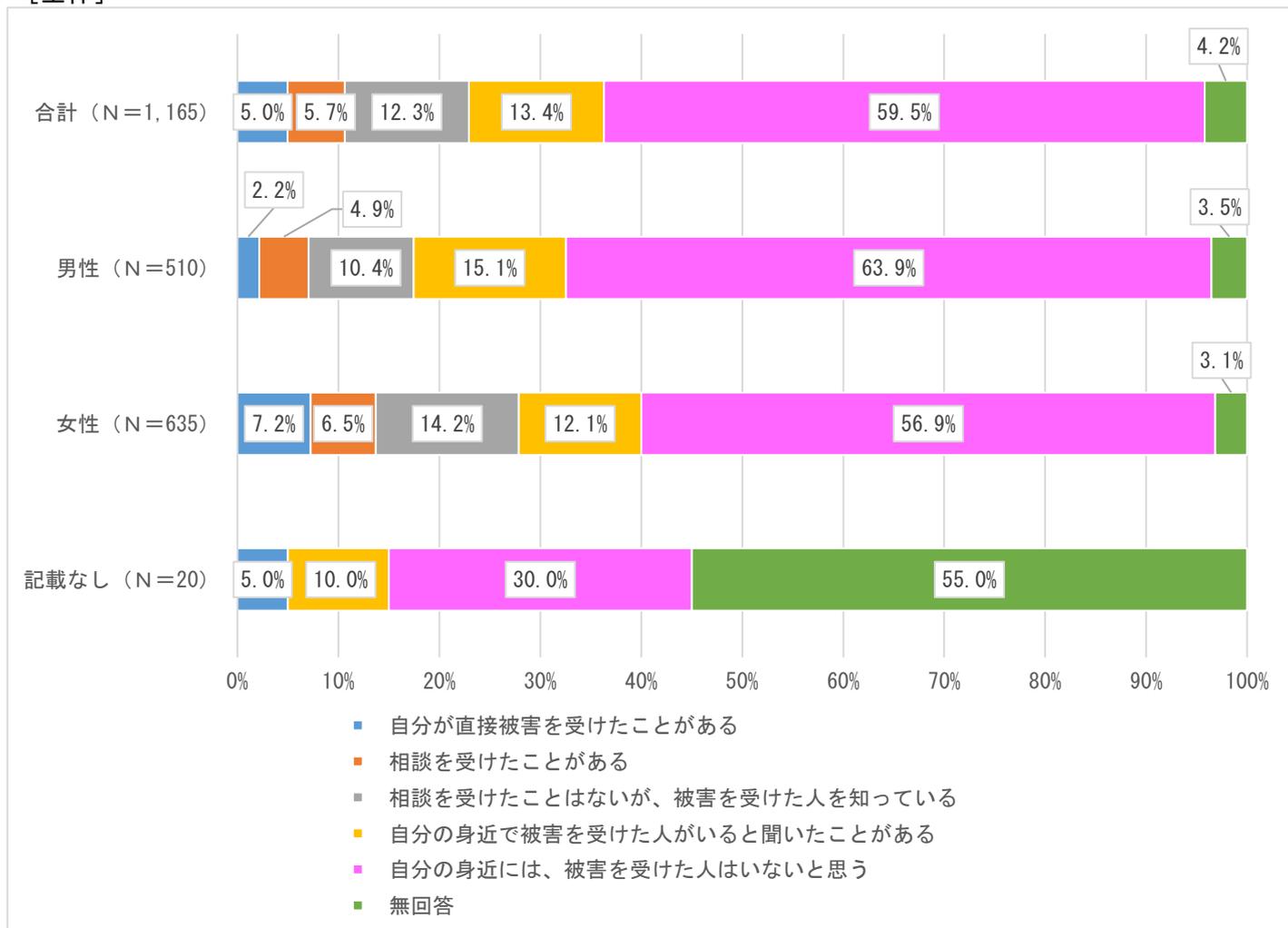
### 3 人権についておたずねします（問19～問23）

#### 【問19】DVの被害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

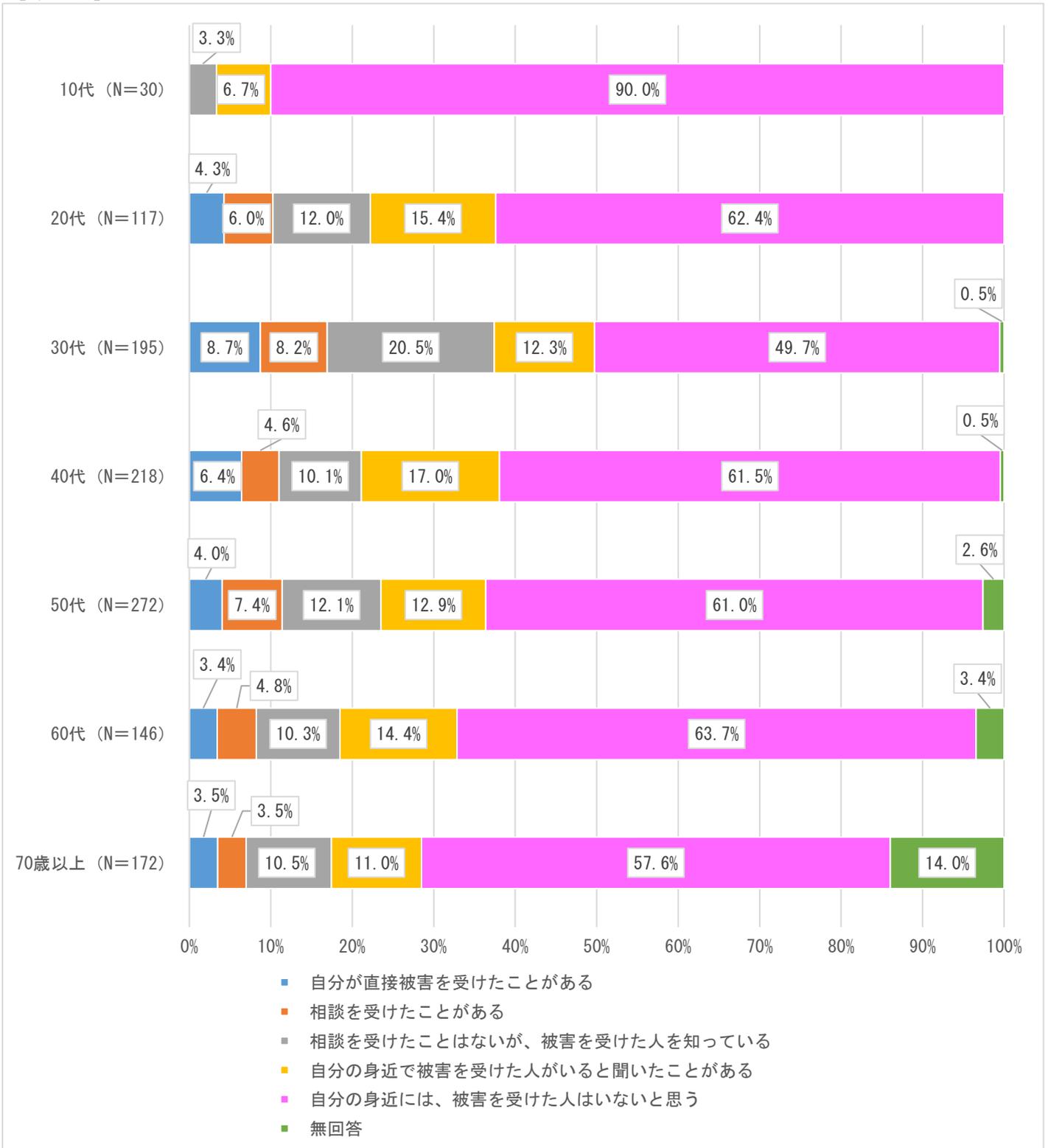
全体で見ると、「自分の身近には、被害を受けた人はいないと思う」が男性では63.9%、女性では56.9%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、「自分が直接被害を受けたことがある」で男性が2.2%であるのに対し、女性は7.2%であり、女性が5.0ポイント高くなった。

年代別にみると、10代を除き大きな差異はなかったが、「自分が直接被害を受けたことがある」は30代で8.7%となり、最も多くなった。

#### [全体]



[年代別]

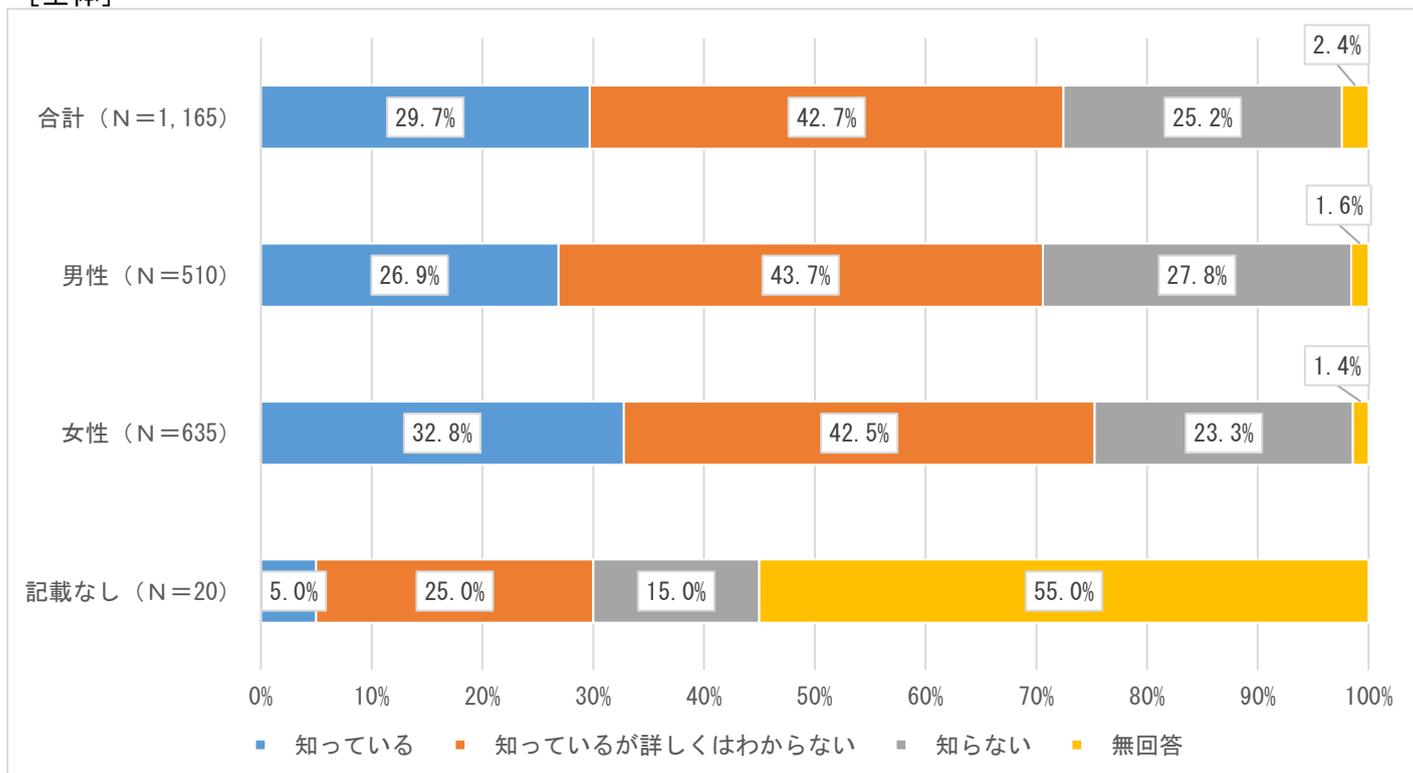


【問20】DV相談の窓口が、国及び県、市、警察にそれぞれあることを知っていますか。

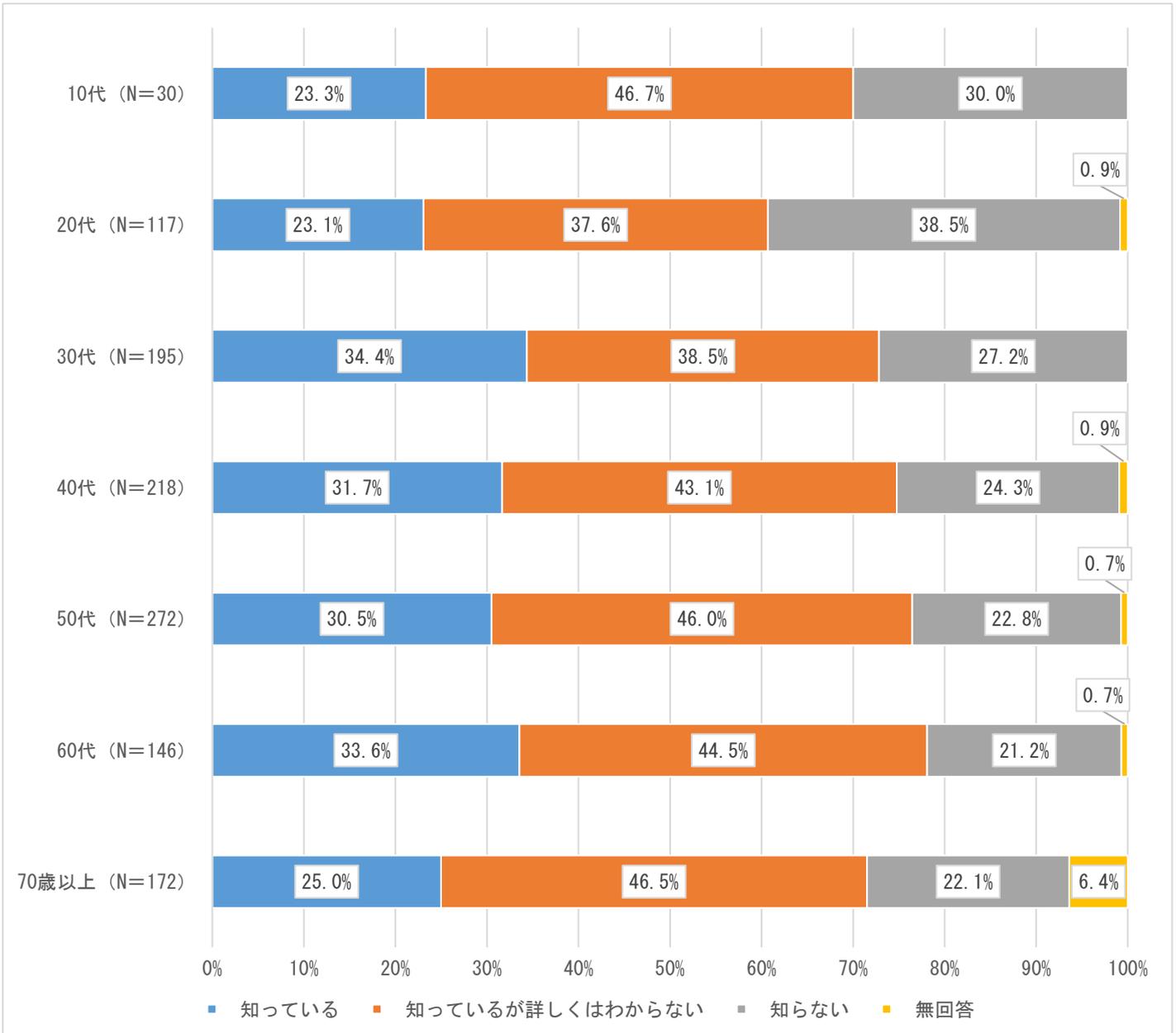
全体で見ると、「知っているが詳しくはわからない」が男性で43.7%、女性では42.5%となり、最も多くなった。「知っている」は、男性で26.9%、女性で32.8%となり、前回調査と比較すると男性で4.3%、女性で3.6%減少した。また、「知らない」は男性で27.8%、女性で23.3%となり、前回調査と比較すると男性で13.9%、女性で6.2%増加した。

年代別にみると、「知っている」が30代で34.4%となり、最も多くなった。

[全体]



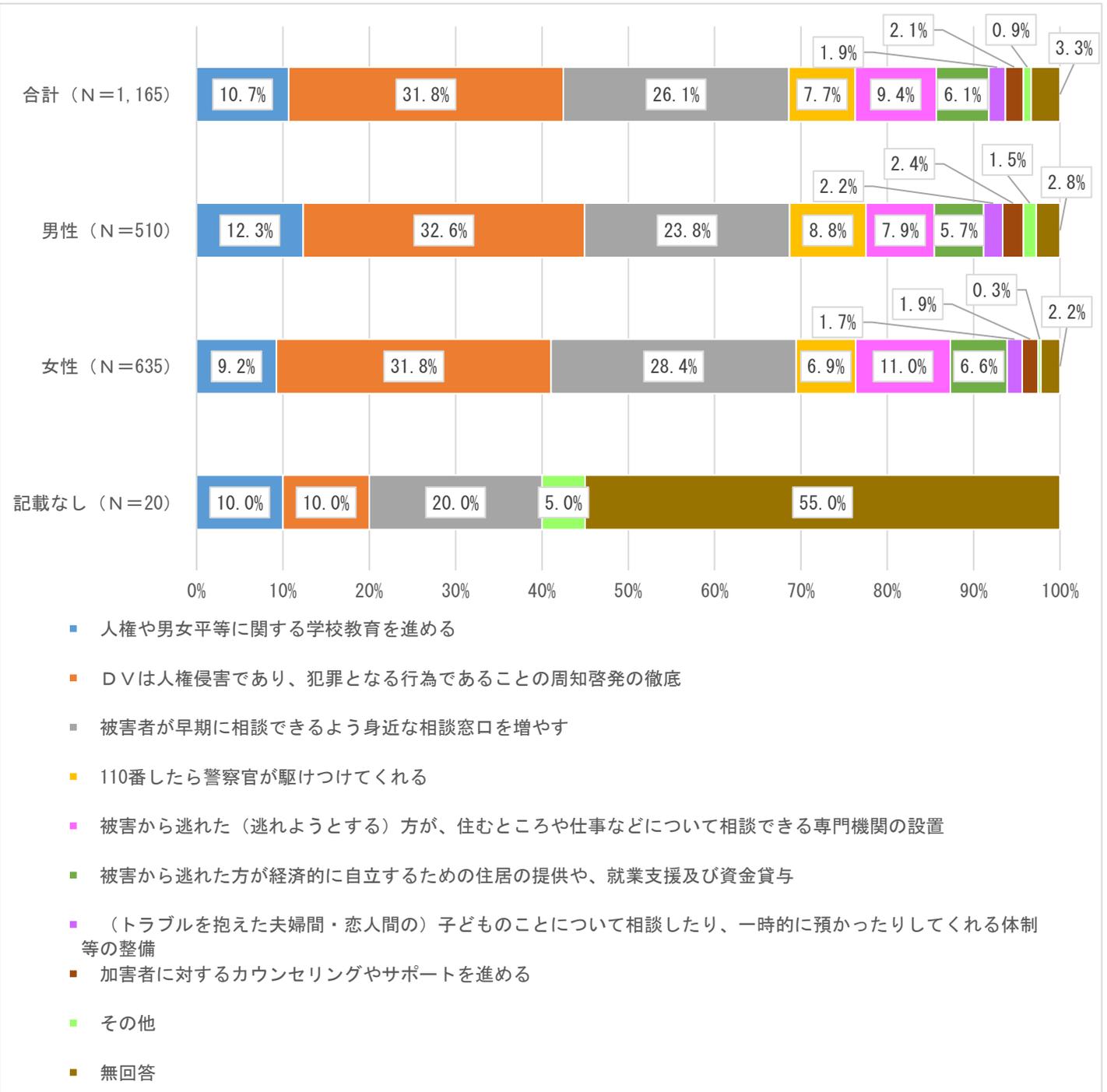
[年代別]



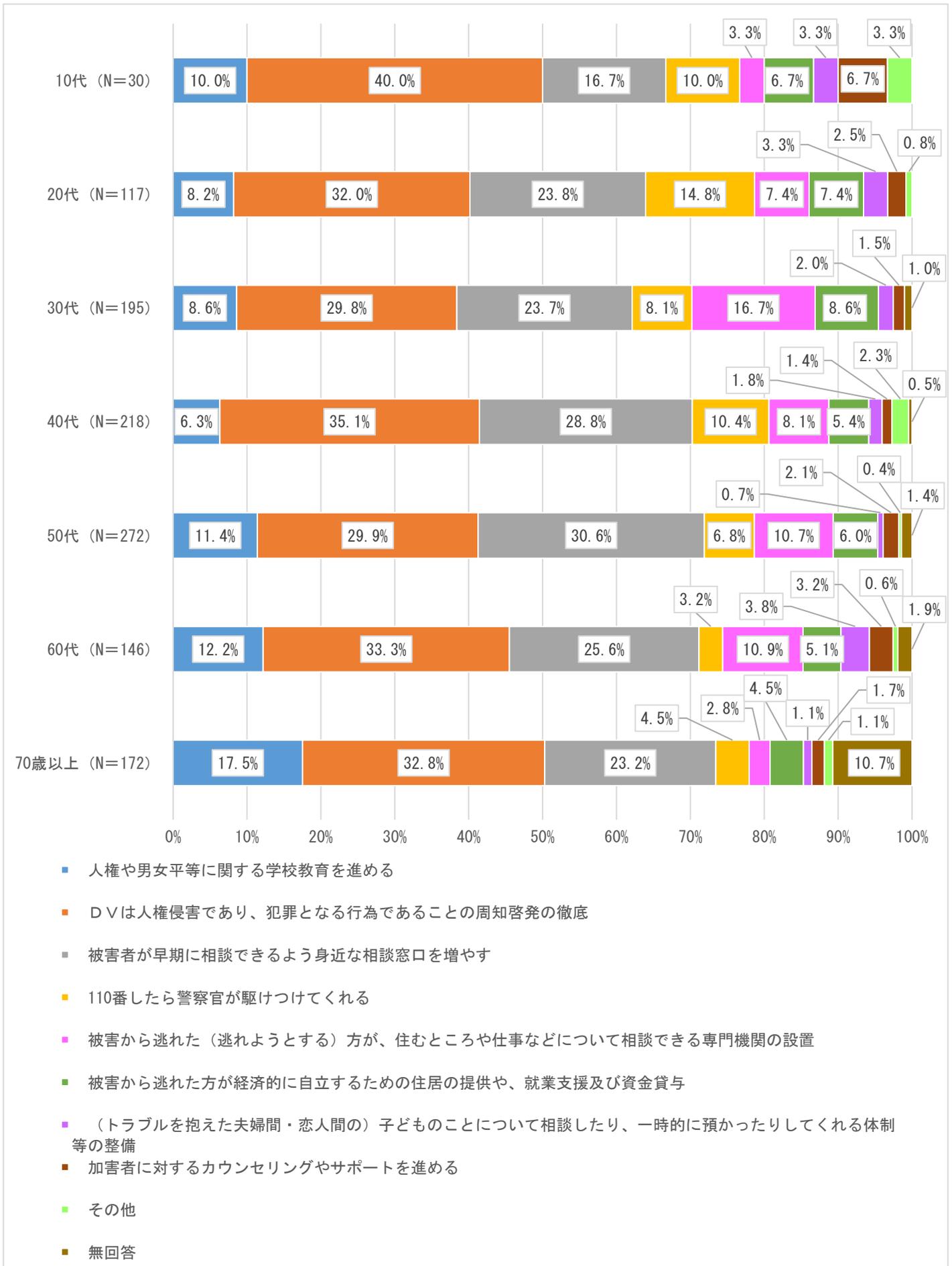
【問21】DVを防ぎ、被害を受けた方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか。  
(複数回答)

全体で見ると、「DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底」が男性では32.6%、女性では31.8%となり、最も多くなった。  
年代別にみると、50代では「被害者が早期に相談できるような身近な相談窓口を増やす」が30.6%で最も多くなったが、他の年代では「DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底」が最も多くなった。

[全体]



[年代別]

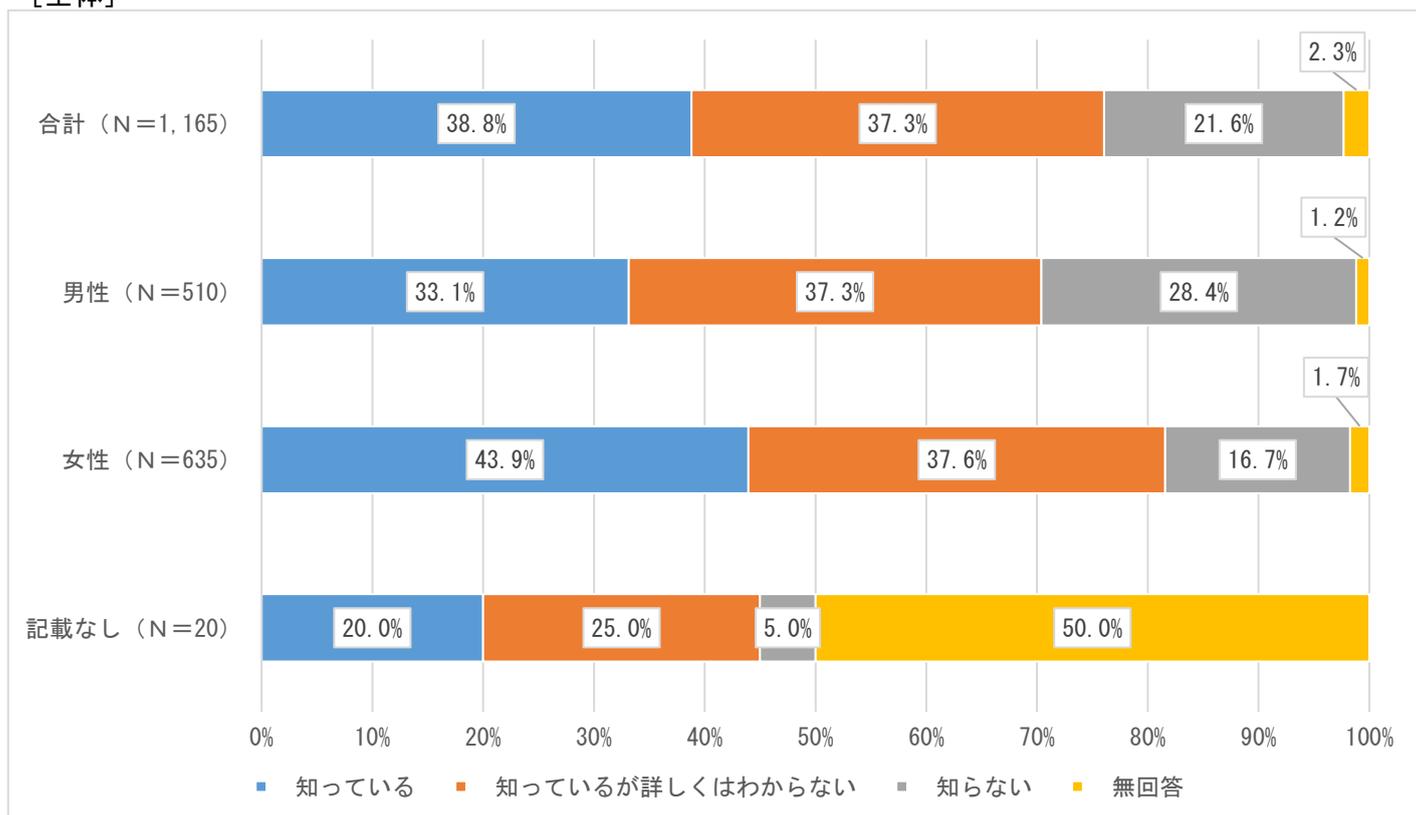


**【問22】 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、それを児童相談所、または福祉事務所に  
通告する義務があることを知っていますか。**

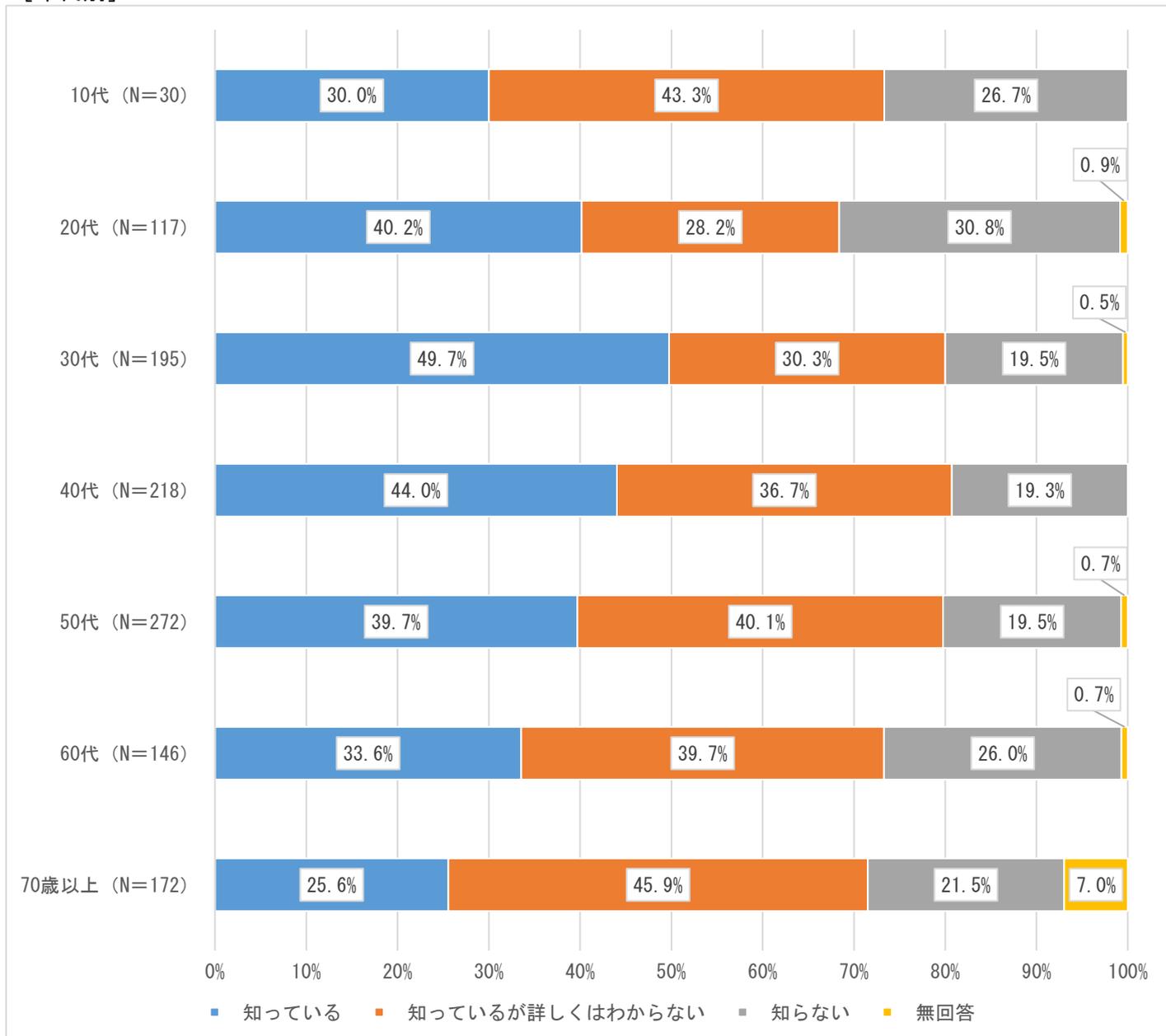
全体で見ると、男性では「知っているが詳しくはわからない」が37.3%、女性では「知っている」が43.9%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、「知っている」は男性で33.1%、女性で43.9%となり、女性が10.8ポイント高くなった。また、「知らない」は男性で28.4%、女性で16.7%となり、男性が11.7ポイント高くなった。

年代別にみると、「知っている」が30代で49.7%となり、最も多くなった。

**[全体]**



[年代別]

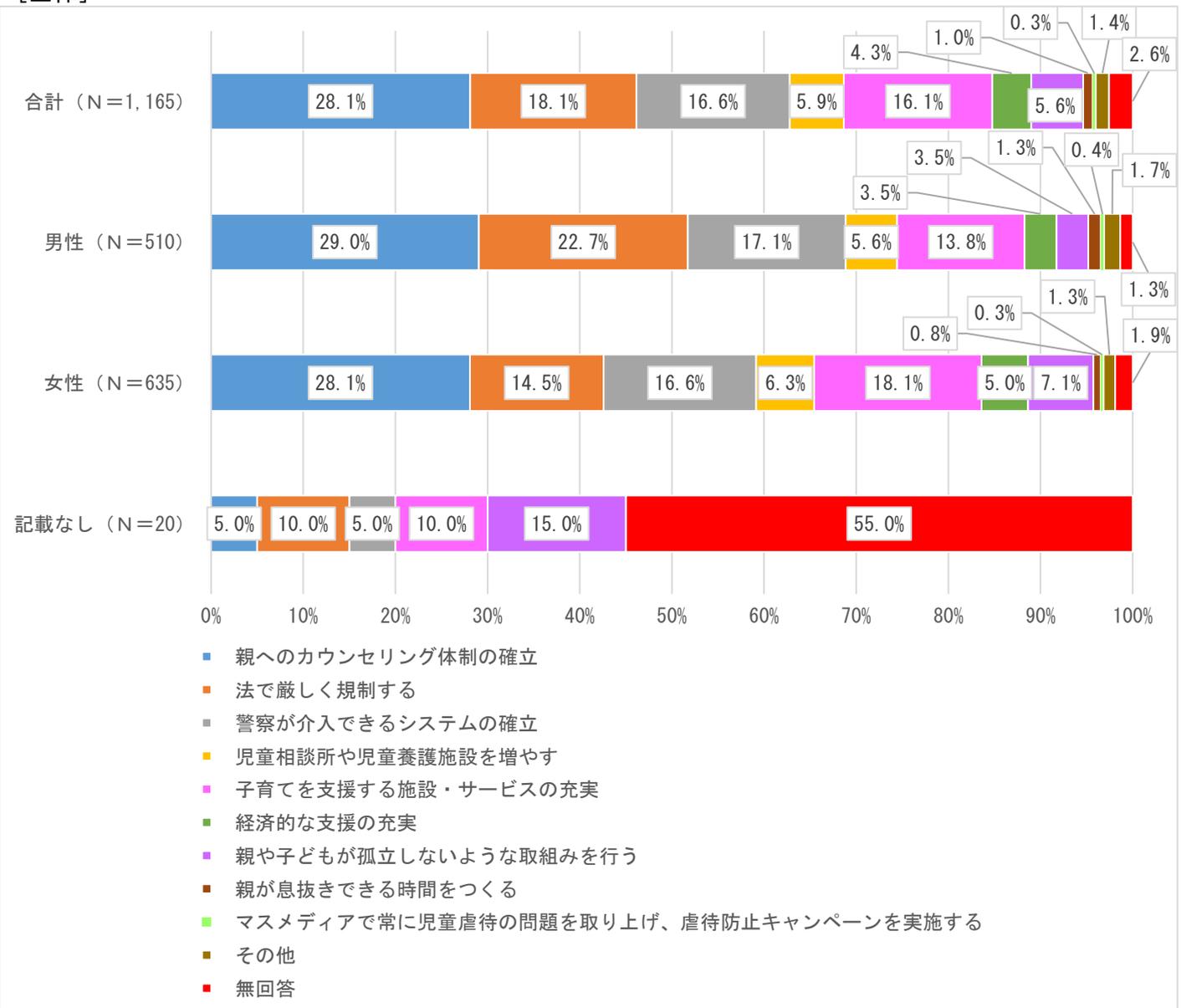


【問23】 児童虐待をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

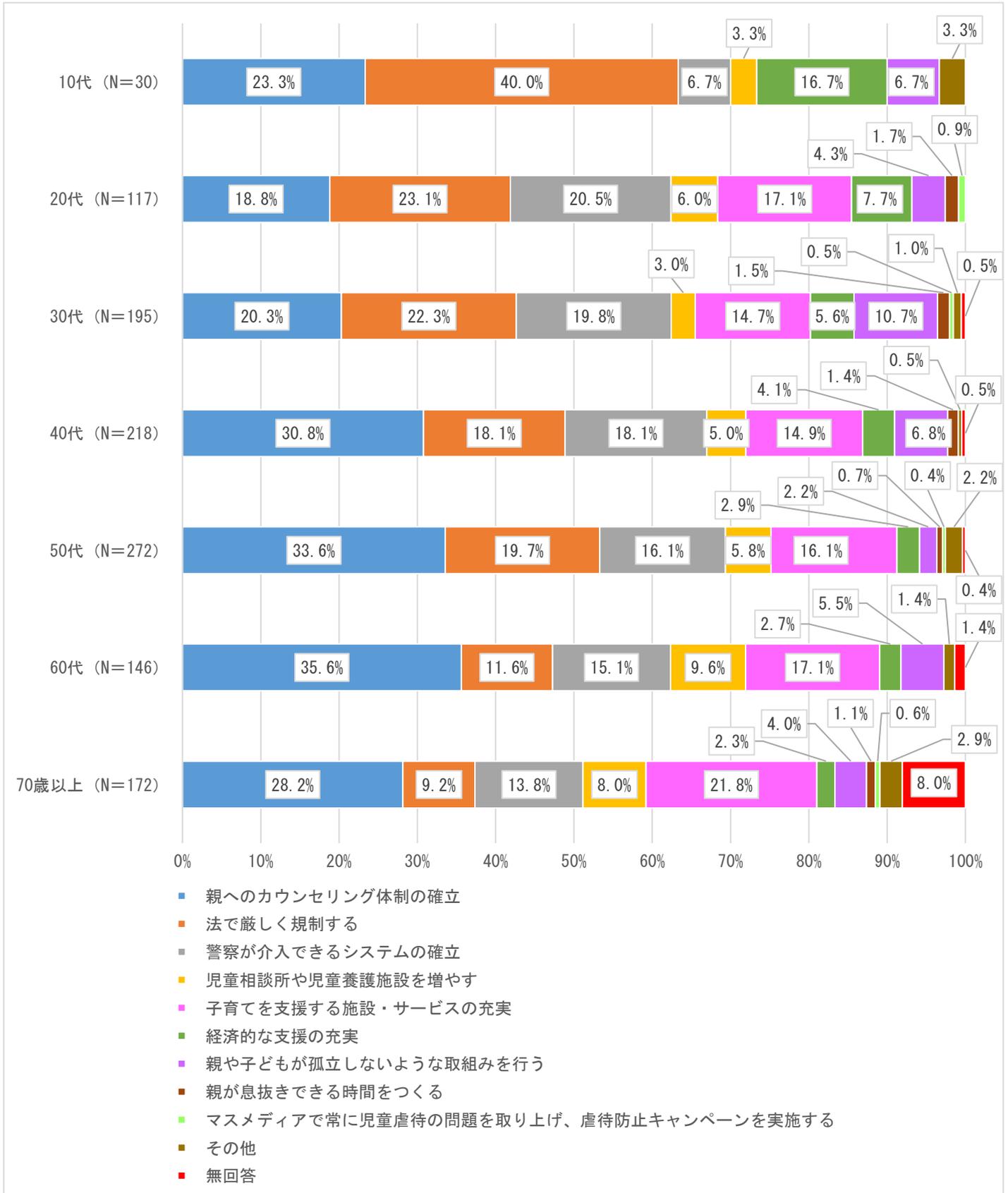
全体で見ると、「親へのカウンセリング体制の確立」が男性では29.0%、女性では28.1%となり、最も多くなった。男女の意識の差では、「法で厳しく規制する」は男性で22.7%、女性で14.5%となり、男性が8.2ポイント高くなった。また、「子育てを支援する施設・サービスの充実」は男性で13.8%、女性で18.1%となり、女性が4.3ポイント高くなった。

年代別にみると、「法で厳しく規制する」の割合は年代が上がるにつれて減少、「親へのカウンセリング体制の確立」の割合は年代が上がるにつれて増加する傾向がみられた。

[全体]



[年代別]



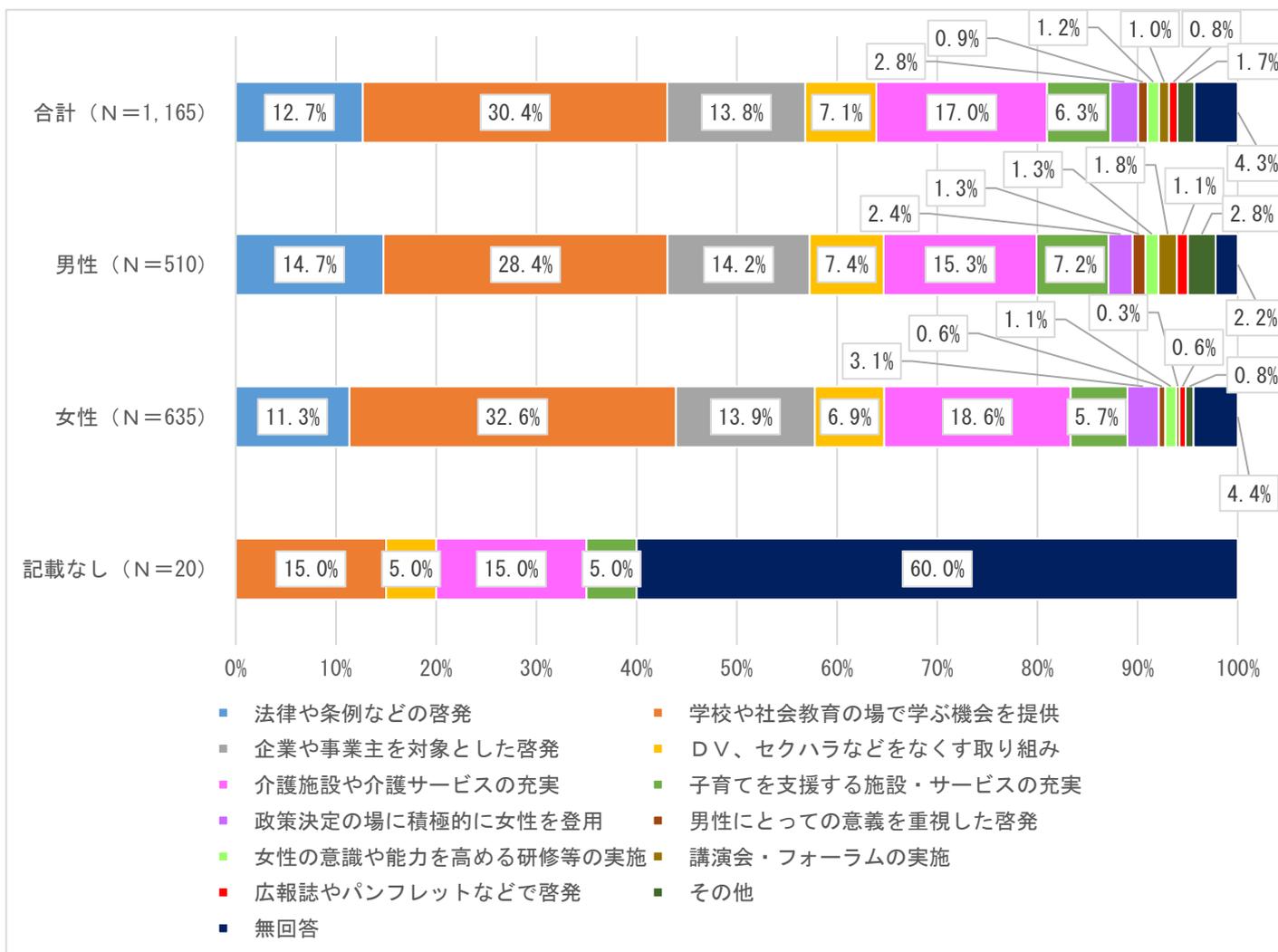
#### 4 男女共同参画社会の実現に向けた市の取り組みについておたずねします（問24）

【問24】男女共同参画社会の実現に向けて、市がすべきことはどのようなことだと思いますか。  
（複数回答）

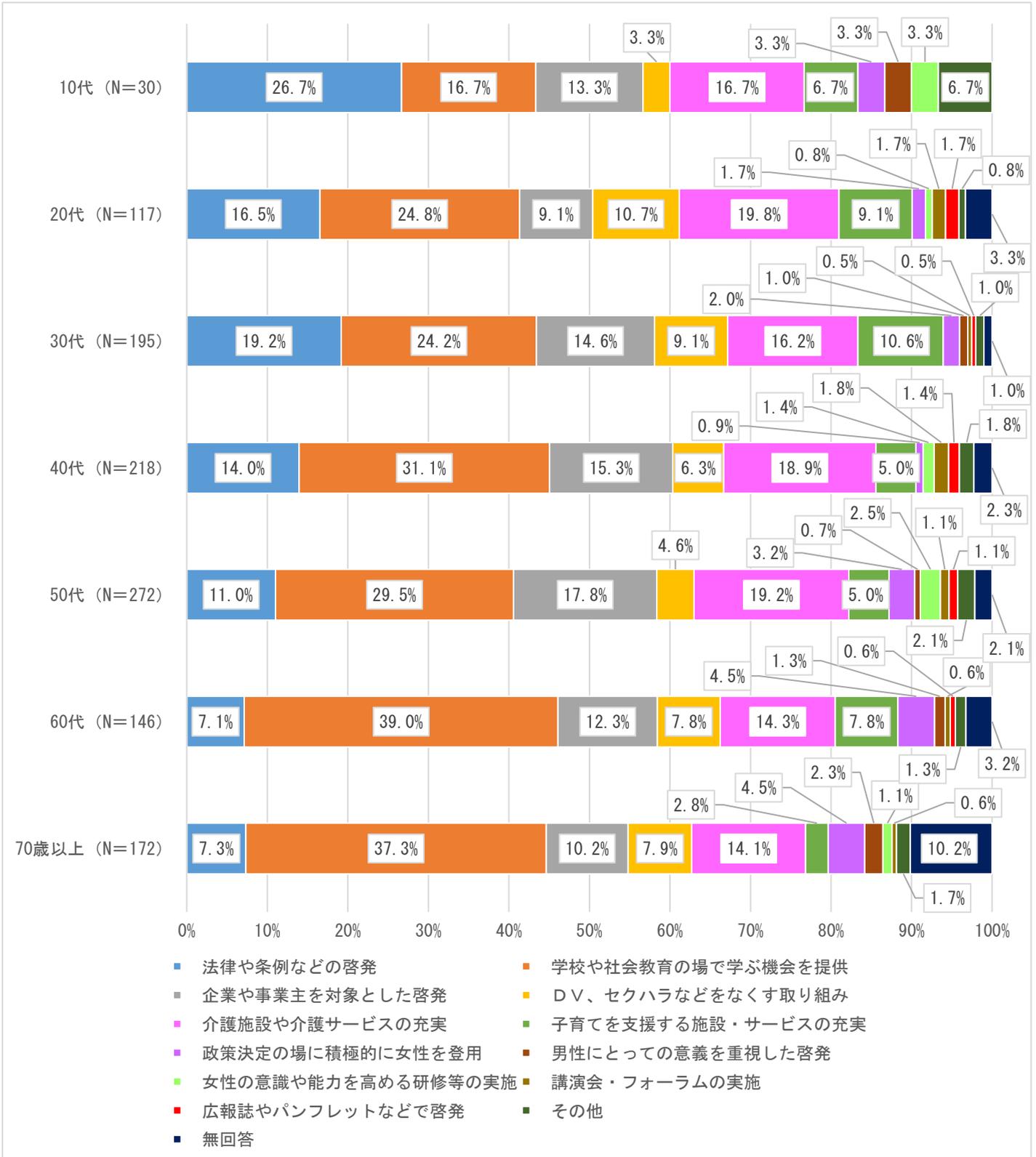
全体で見ると、「学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供」が男性では28.4%、女性では32.6%となり、最も多くなった。「学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供」は、男性で28.4%、女性で32.6%となり、前回調査と比較すると男性で14.7%、女性で19.5%増加した。また、前回調査で最も多かった「子育てを支援する施設・サービスの充実」は男性で7.2%、女性で5.7%となり、前回調査と比較すると男性で9.8%、女性で12.9%減少した。

年代別にみると、「法律や条例などの啓発」の割合は年代が上がるにつれて減少、「学校や社会教育の場で学ぶ機会を提供」の割合は年代が上がるにつれて増加する傾向がみられた。

[全体]

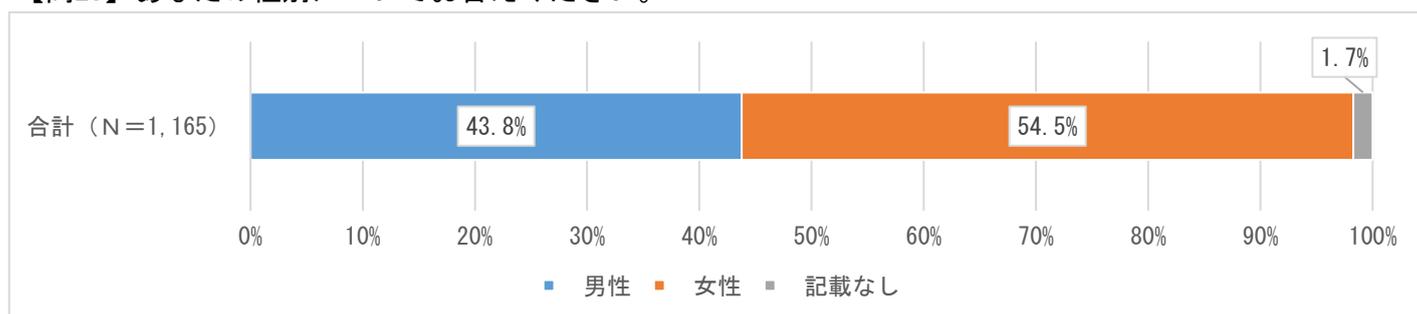


[年代別]



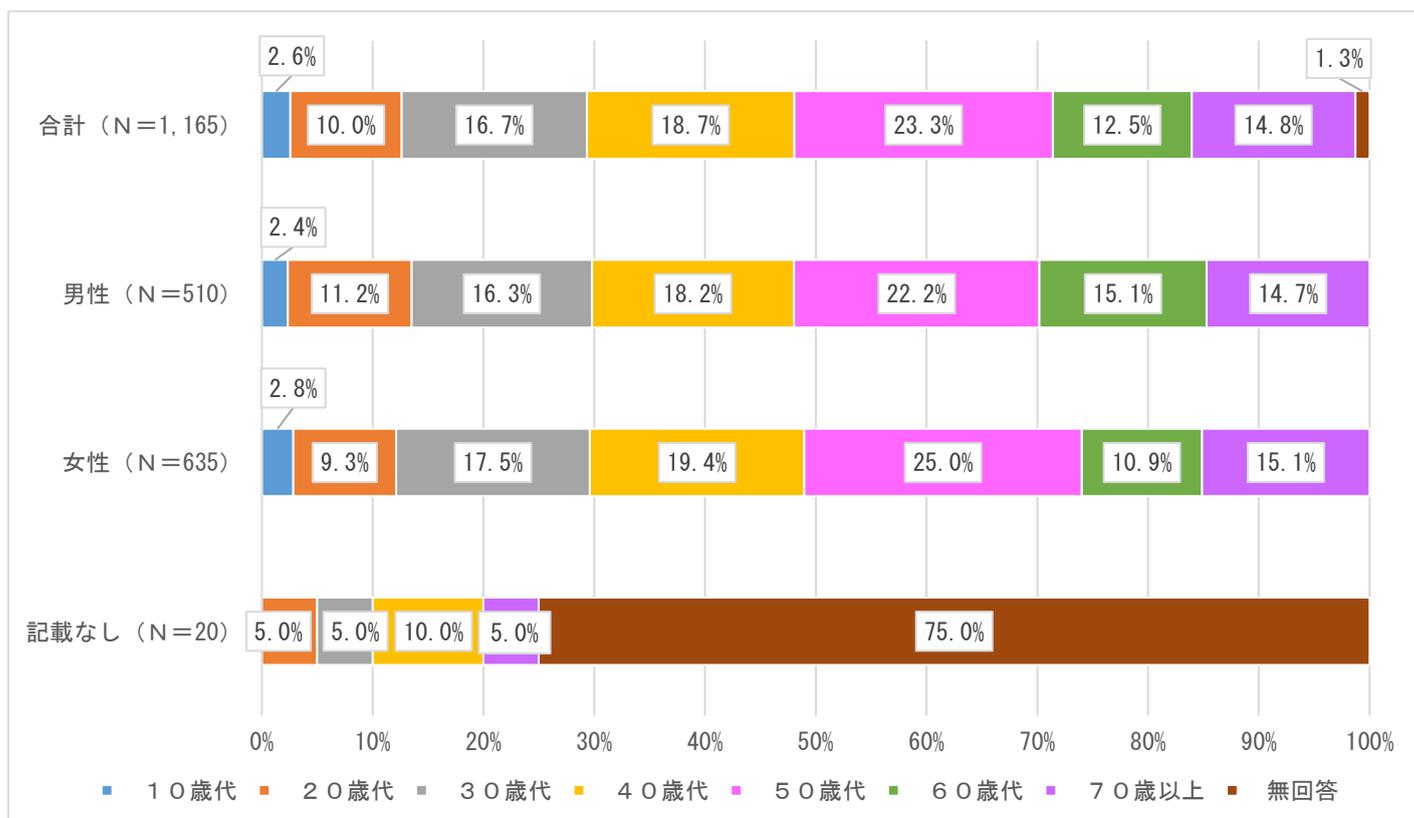
## 5 あなたご自身についておたずねします（問25～問29）

【問25】 あなたの性別についてお答えください。



【問26】 あなたの年齢はいくつですか。

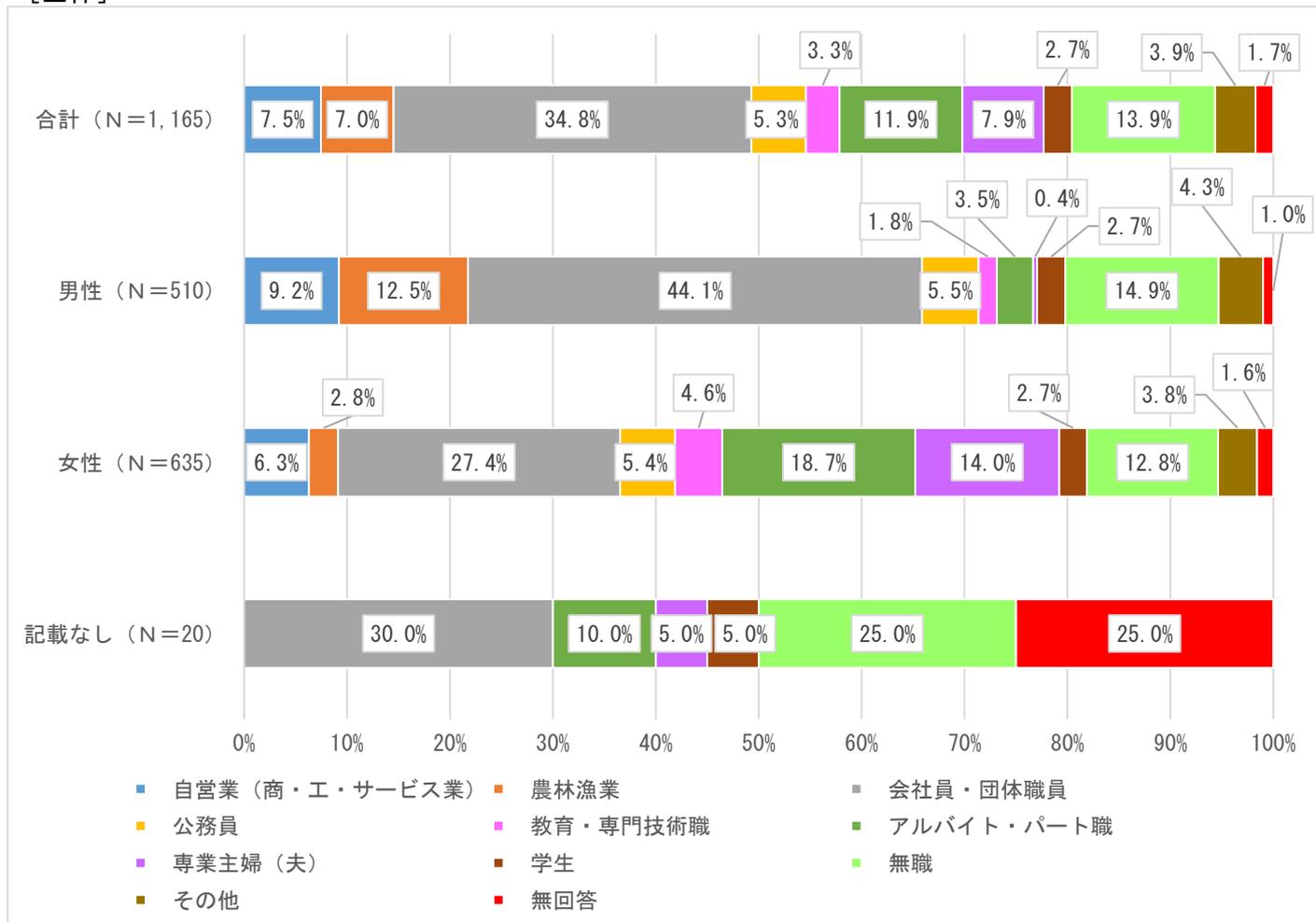
年齢の割合は、「50歳代」が男性で22.2%、女性が25.0%となり、最も多くなった。



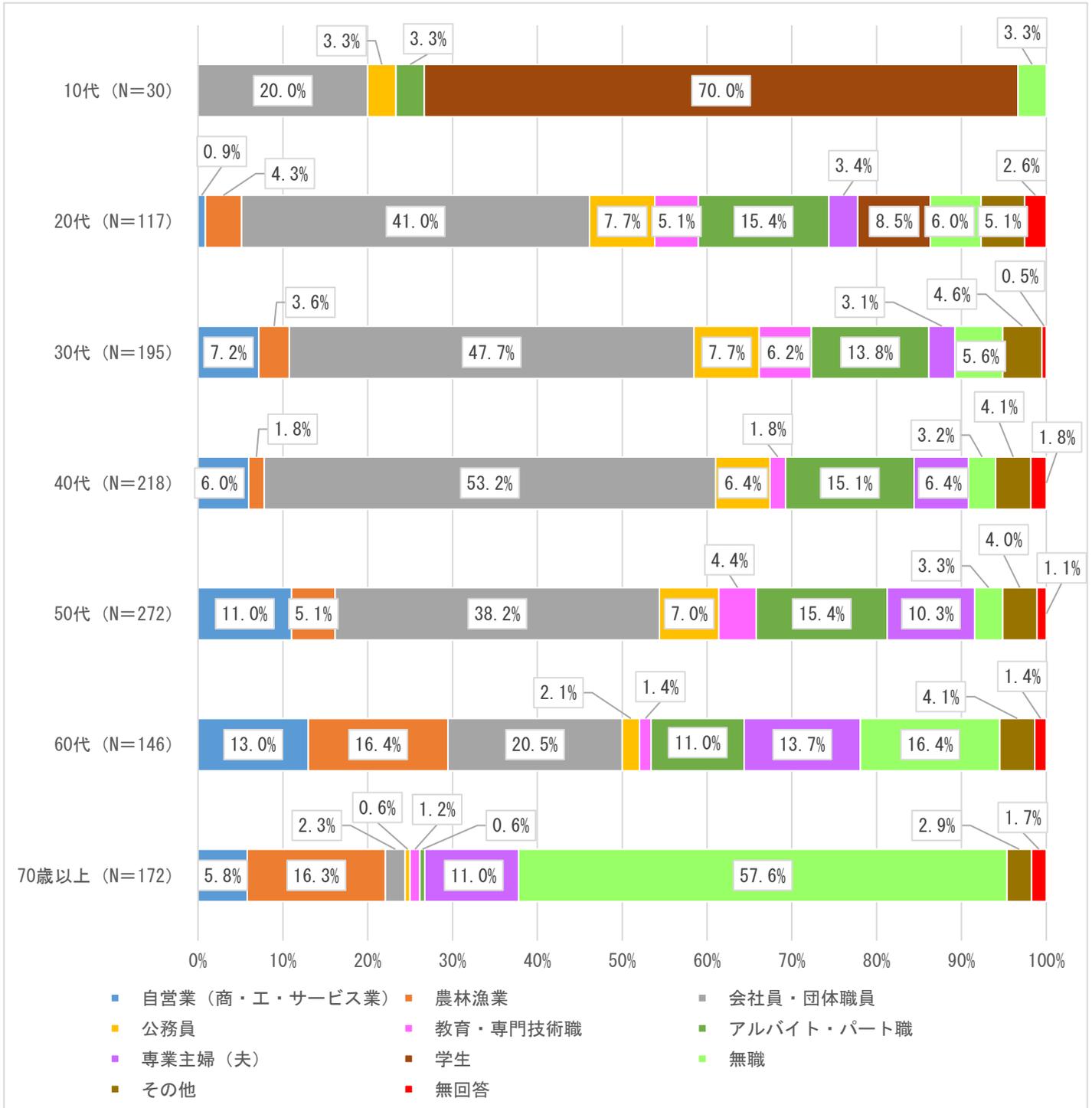
【問27】 あなたの職業は次のうち、どれにあたりますか。

全体で見ると、「会社員・団体職員」が男性では44.1%、女性では27.4%となり、最も多くなった。続いて、男性では無職（14.9%）、農林漁業（12.5%）、自営業（9.2%）と続き、女性ではアルバイト・パート職（18.7%）、専業主婦（14.0%）、無職（12.8%）となった。

[全体]



[年代別]

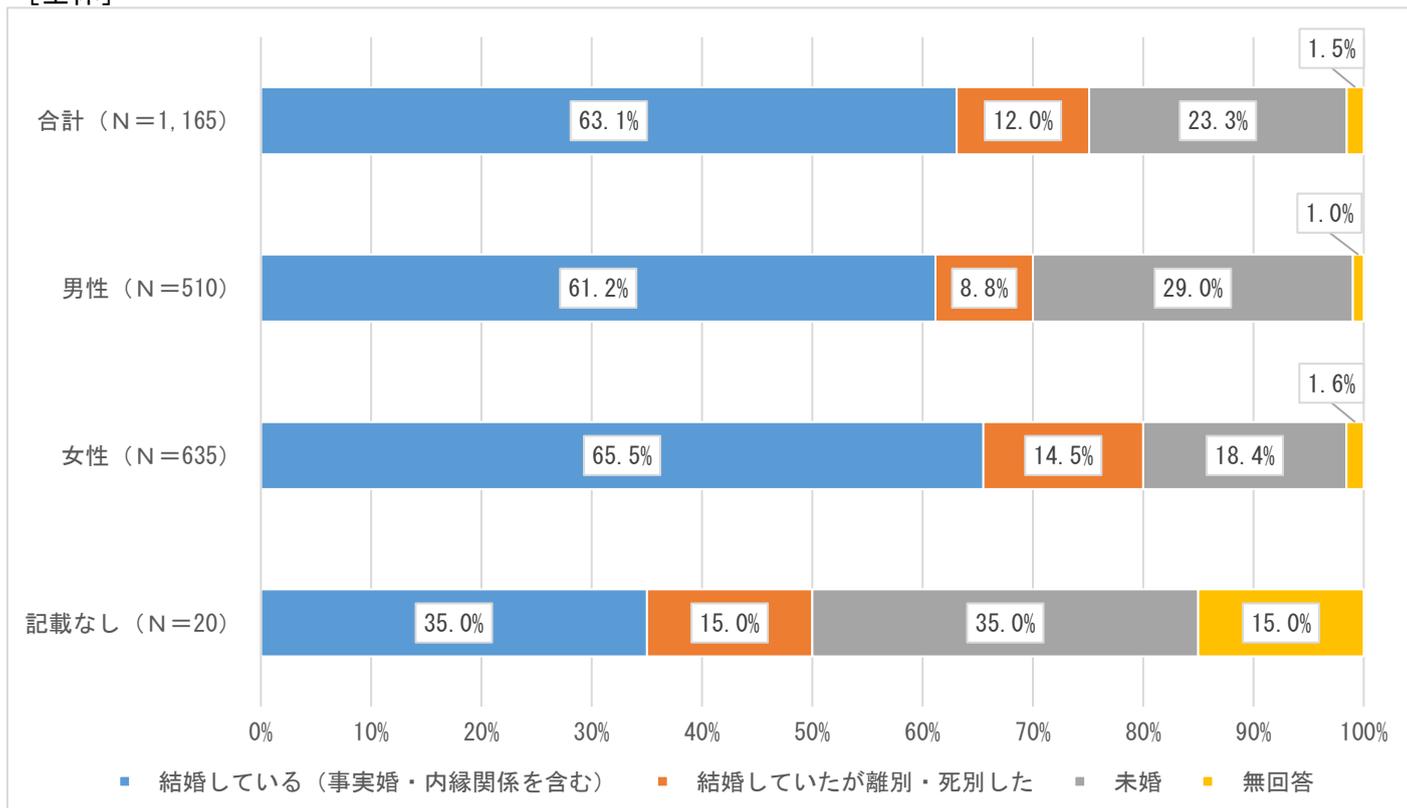


【問28】あなたは結婚していますか。

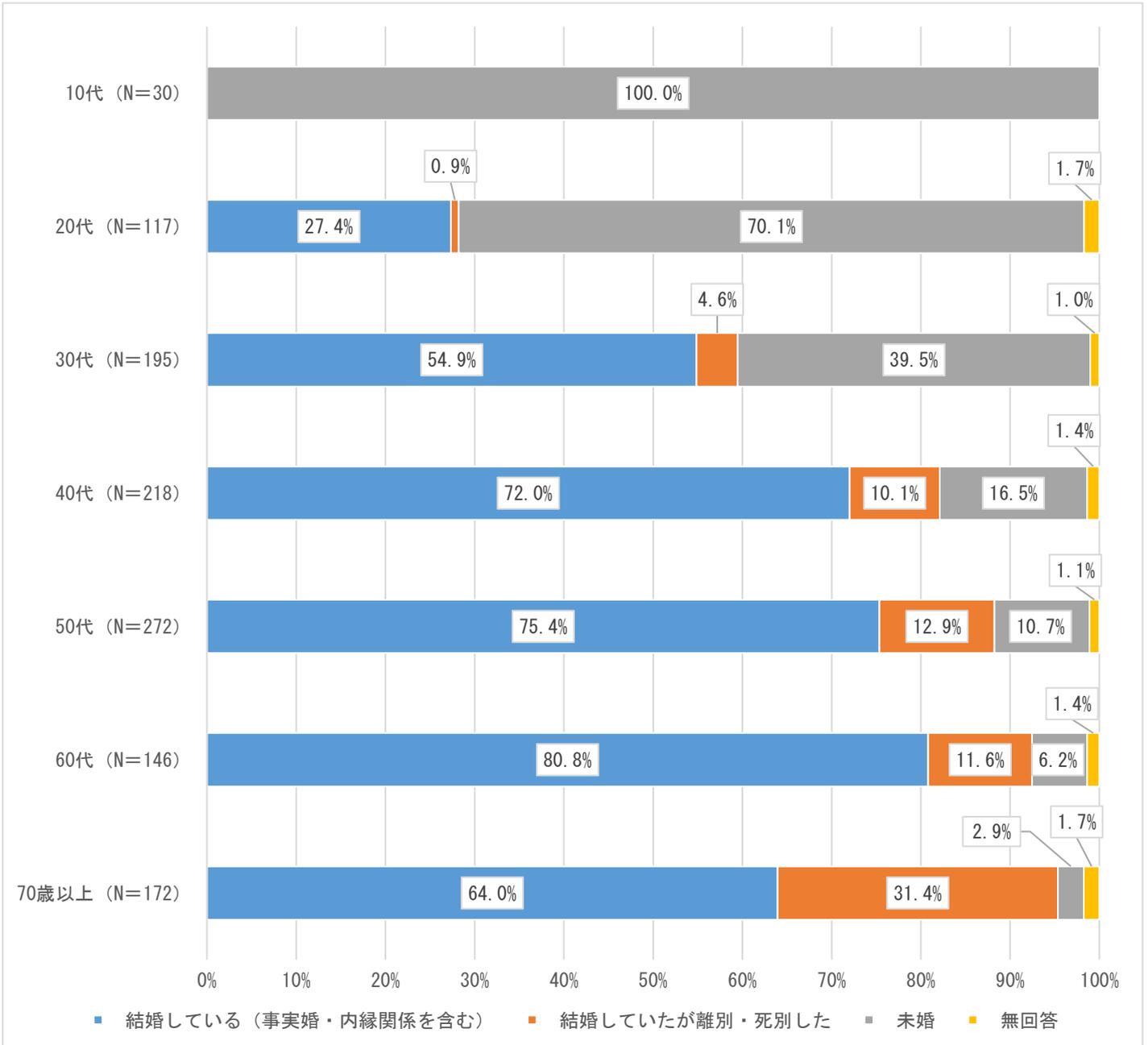
全体で見ると、「結婚している（事実婚・内縁関係を含む）」が男性では61.2%、女性では65.5%となり、最も多くなった。「結婚している（事実婚・内縁関係を含む）」は男性で61.2%、女性で65.5%となり、前回調査と比較すると男性で11.1%、女性で9.4%減少した。また、「未婚」は男性で29.0%、女性で18.4%となり、前回調査と比較すると男性で4.92%、女性で4.3%増加した。

年代別にみると、「結婚している（事実婚・内縁関係を含む）」が60代で80.8%となり、最も多くなった。「未婚」は20代70.1%、30代で39.5%となり、前回調査と比較すると男性で2.0%、30代で7.5%増加した。

[全体]



[年代別]

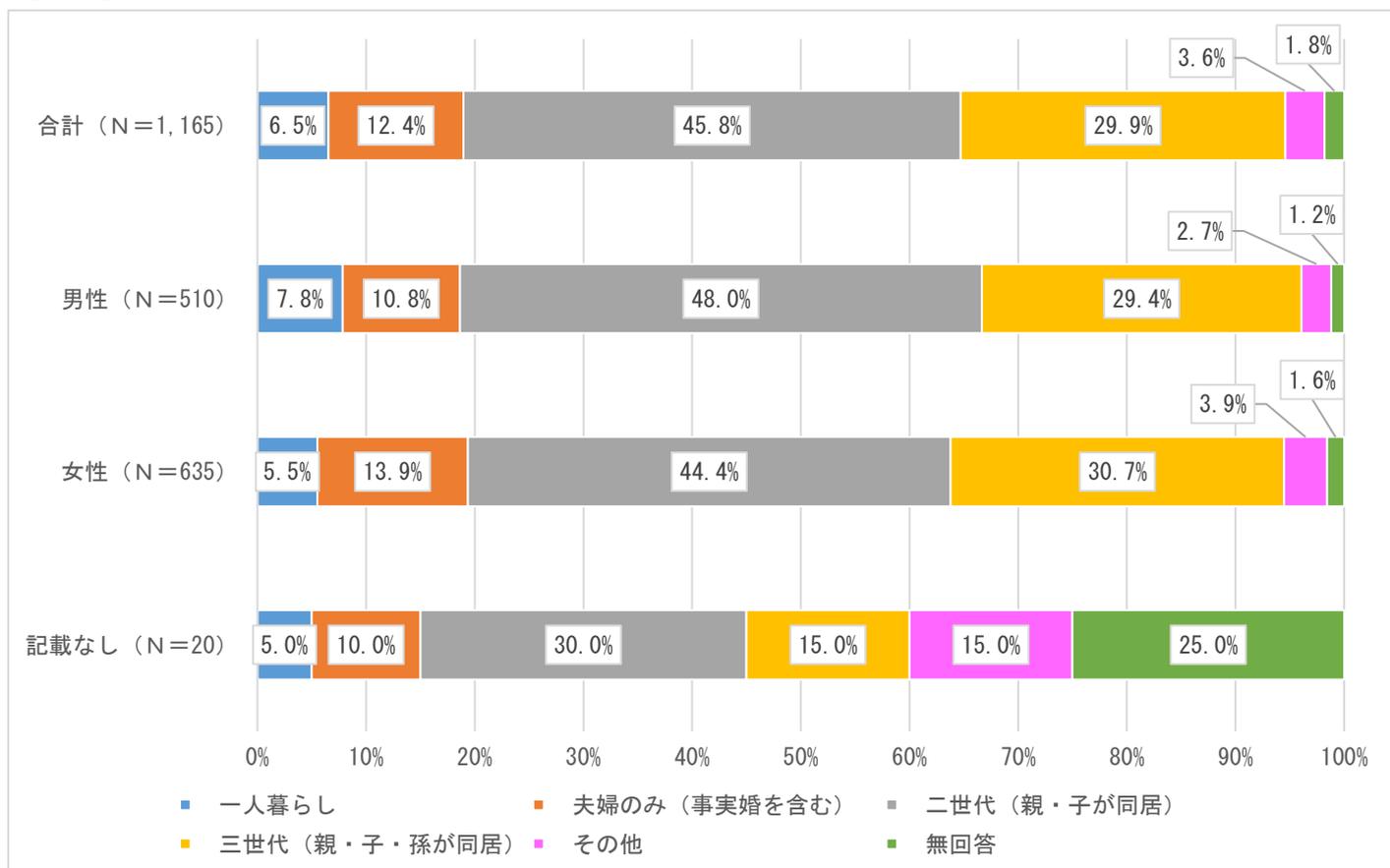


【問29】 あなたの世帯は次のどれにあてはまりますか。

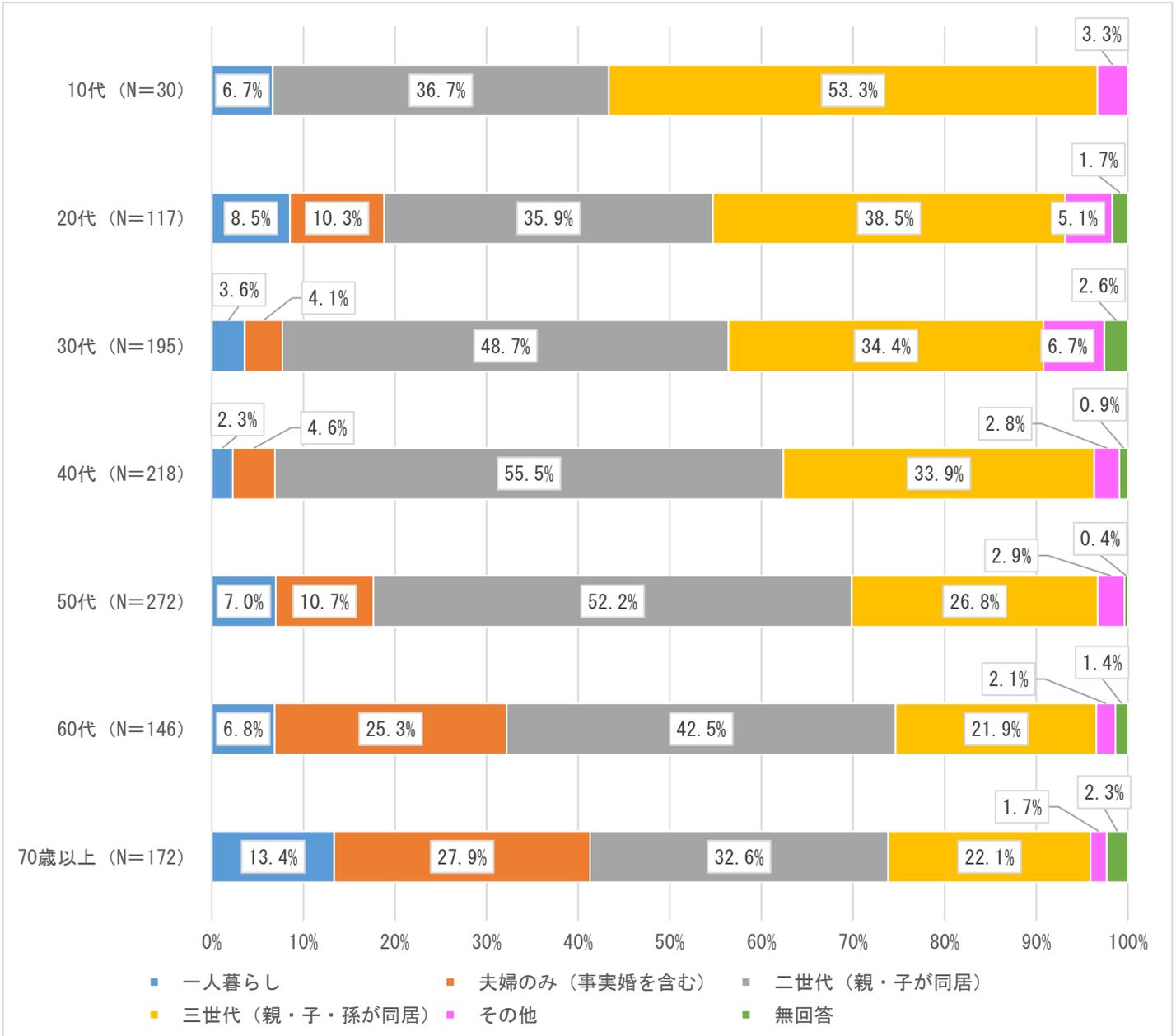
全体で見ると、「二世帯（親・子が同居）」が男性では48.0%、女性では44.4%で最も多くなった。前回調査と比較すると、それぞれの割合に大きな差異はなかった。

年代別にみると、「二世帯（親・子が同居）」が40代で55.5%となり、最も多くなった。20代では「三世帯（親・子・孫が同居）」は38.5%となり、前回調査と比較すると12.6%減少した。70歳以上では「二世帯（親・子が同居）」が32.6%となり、前回調査と比較すると8.5%減少した。また、「一人暮らし」は13.4%となり、前回調査と比較すると7.9%増加した。

[全体]



[年代別]



### 3 自由意見

【問30】男女共同参画社会の実現に向けたまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、ご自由に記入してください。

	内容	回答者
1	昔からの考えがいまだに根強く残っていますが、これからの子供たちに対しては平等なことが大事ということ伝えるべきなので、そういった教育の場を設けるのはとても大事だと思います。教え育った子供たちが大人になったとき、きっと今より変わると思います。単純なことですが、こういったことの積み重ねが大事です。	20代／女性
2	女性が子育てするのが当たり前になっていたり、保育園になかなか入ることができないということをよく耳にするので、そういった点を改善して女性が働きやすい社会になってほしいです。	20代／女性
3	男性でも育児休業、介護休業を取っている方がいるということ自体知らなかった。「育児は女性がやるもの」という考え方が当たり前だと思っていたところがあったので、このアンケートを通して「男女共同参画社会」について知ることができてよかった。私が学生の頃は、男女共同参画社会という言葉やざっくりとした中身の説明だけだったように記憶しているので、もっと日常的な例を挙げて学生のうちから学べると良いかもと思った。	20代／女性
4	結婚して、引越してきましたが、まだ子供がいない中の就職活動はとてもきびしく、どの面接でも「子供は？」「子供の予定は？」ときかれ自分自身働いて生活費に少しでもという思いだったので、そこが理由で不採用されたときは辛かった。もちろん入社してすぐ妊娠されたら雇用主の方が大変な気持ちも分かりますが…。現実はやはりきびしいですね。	20代／女性
5	女性の立場や意見を「尊重」と言っているうちは、男性が上、女性が下という考えに立つものだと思う。誰のどのような意見でもフラットな目線で良し悪しを判断していける社会やまちにしてほしい。	30代／男性
6	”男女共同参画社会”と名乗ることがそもそも何か変だと思います。”社会”と銘打った時点で、男女、国籍や人種、年齢に関わることなく、日本の中における”社会”という定義の中において、最初から全員をそれに関わる全員を指していると自分は考えます。”男女”と銘を打つことは、男と女を意識させてしまいます。むしろこの意識をなくしていくことが本来必要なのでは？男、女ではなく”人”を意識させて行くことが目的なのでは？	30代／男性
7	出産をした時に、小学生の子もいて、主人に入院中お願いをする為に、会社に休日を取ってもらいました。（交代勤務の為）1週間でしたが、核家族のため産後主人がいてくれるのといないのでは、大違いで、本当に助かったのですが、会社からはあまり良い顔をされなかった様で、男の人にも育児に関われるような働きがもっとあれば良いなと本当に思いました。	30代／女性
8	私は東北以外から嫁に来て、「何て封建的な地域なんだ」と、驚きました。私が生まれ育った地域には「だなどの制度」なんて言葉はなく、父や祖父も家事をこなしていました。圧倒的に家事、育児、介護に関わる時間が女性に比重がいつている地域です。他の地域より、男性自身の意識の低さを感じます。	30代／女性
9	男女共同参画といっても男性に向いているもの、女性にしかできないことなど、平等にはならないところもあるのではないのでしょうか。妊娠、出産、子育てと経験してきましたが、女性が男性と同等に働くためには、やはり、社会、職場、家族のサポートなしにはできないと思います。それを踏まえて言えば、物事の決定、策定の際（特に子育て）には、女性の意見は大切だと思います。”まちづくり”には、女性の参画でよりよい登米市になることを期待しております。	30代／女性
10	全体的に男性中心となっている。女性が政治の中で発言力を持っていかないと改善はされない。ただし、女性は生理休暇など権利を主張するところもあり、女性であることを強調するところもあり、男女共同参画社会とは何かとってしまう。男女の体の違いはあるのは当然であり、その差を認めてそれぞれの特性を活かした仕事をしていけば良いと思う。男女ではなく、能力によって仕事などができると良いと思う。	30代／女性
11	以前よりかなり改善されてきた気がするので、市政として特別何かするべきという必要性は感じていません。	30代／女性

	内容	回答者
12	仕事場においてまだまだ子育てしている女性に対して理解が得られない。子供が熱や病気で仕事を少し休まなければいけない時、仕事が忙しかったりすると、休みにくい。嫌な顔をされる。	30代／女性
13	古い世代の人達と暮らし、田舎暮らし（新しい事をなかなか取り入れられない）をしていると、男女不平等だなど感じる事は、毎日あり日常茶飯事です。自分自身が仙台市の核家族から嫁いできたもので、かなりのギャップを感じています。女性も意見が言える、女性も尊重される登米市になってもらいたいです。	30代／女性
14	この問題に限らず、子育てをしている立場からすると、このようなアンケートはすごく大切だと思います。なかなか思っても言えないものですので、こういうアンケートだと自分の思いを市に知ってもらえるのはすごく良い事だと思います。自分も市の一員だなど思えました。	30代／女性
15	昔に比べると女性も男性と同じように働ける、評価される世の中になってきている。男尊女卑は、私自身も以前は男性の考え方の問題かと思っていたが、女性自身もそれに慣れ、時には甘んじ望んできた部分もあるのではと思う。男女すべて同じ権利を持つことは出来ていると思うが、そもそも1人1人男女の機能としても違うものだと理解し、「男女」という考え方をやめるべき。みんながそれぞれにいききたいように生きるために、男性も女性も障害者も選択した人生を差別される事なく生きられるように整えていくべき。家を守りたい女性もいる。働きたい女性もいる。家事が好きな男性もいるし、男性が好きな男性もいる。どんな人でも幸せになれる世の中になればいいと思います。	40代／女性
16	行政区の地域活動は、昔からの住人のためのものだと思います。借家住まいには、活動に参加しづらい所があるように思います。自分にも経験がありますが、参加しなくても困る事はないと思います。積極的に参加したくなるような雰囲気ではなかったので、その地区に住むから参加するには少し疑問がありました。	40代／女性
17	男女が平等すべて平等になる必要はない。それは有りえない事だと考えます。ただ、明らかに育児、介護は女性が関わっている分、良い面、悪い面を知っているのです。これらの方は制定の場には、経験者の意見が取り入れられるべきです。私の世代は教育を受ける時点で、男子はこれ女子はこれと分かれていました。現在は同じ授業になっていますが、もっと積極的に精神的に平等の教育を望みます。	40代／女性
18	各世代が、その世代の主張を強く言うのではなく、各世代を理解しようとする事が男女の差別の改善にもつながると思う。	50代／男性
19	三世代同居の多い登米市では、古い慣習、意識改革が非常に難しいと感じています。	50代／女性
20	男女協働社会の推進について行政が関わる組織的な職場等では昔より大変良くなったと感じています。地域で実現するためには、農業や商業を営む個人々人にも共同参画の普及啓発の推進を図る方策がもっと必要だと感じます。	60代／男性
21	東京から登米市にきて6年、地域の風習、男性の考え方を変えないと無理と感じています。本当に閉鎖的です。男女平等をもっとわかってほしいです。男性・女性お互いのよいところを認め、支え合い、男女共同参画社会を実現させてほしいです。	60代／女性
22	60歳まで働き退職いたしました。女性が働き続ける為には家族の協力がなくては続けられません。女性は結婚すれば出産、育児は避けて通れません。核家族化が進んでいる現在は家族に頼むというより、保育園等に頼んで職場へ戻るといふ事になるかと思ひます、安心して出産、職場復帰できるよう充実させていただきたいです。	60代／女性
23	女性の側にも自分は女だからいいんだという諦めとも逃げともつかない感情が根底にあるように思ひます。自立するといふ強い意志がまず必要な気がしひます。	70歳以上 ／男性
24	昭和一桁生まれの私たちにとつては女性が色んな所で活躍なさつて居る事はほんとうに素晴らしい事と思つて居ります。男性にはできないこと女性には出来ない事お互ひに理解しながら、協力仕合ひ世界に恥じない社会を築いて行く事と思ひます。	記載なし

# 登米市男女共同参画に関する市民アンケート

## アンケートの趣旨とお願い

市民の皆様には、日ごろより市政の発展にご協力いただき、ありがとうございます。  
このアンケートは、市民皆様の男女共同参画に対する意識や実態をお聞きし、第4次登米市男女共同参画基本計画を策定するための基礎資料とさせていただくため、18歳以上の市民の皆様の中から無作為に抽出した3,000人の方々を対象として、ご回答をお願いします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成30年10月

登米市長 熊谷盛廣

## ご回答について

1. このアンケートは、あて名のご本人がご自身のお考えでご回答ください。  
ご本人による記入が難しい場合は、ご家族の方が回答を聞き取るなどしてご記入願います。
2. 回答は、該当する番号または指定された項目の欄に○印をつけてください。  
「その他」を選択された場合は、〔 〕内にできるだけ具体的な内容をご記入願います。
3. アンケート用紙には、鉛筆またはボールペンなどではっきりとご回答願います。

※アンケートにご記入いただいた内容は、本アンケートの分析以外の目的には一切使用いたしません。

## ご返送について

ご回答いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒に入れて封をし、切手を貼らずに、平成30年11月16日（金）までに郵便ポストへ投函してください。

## ■問い合わせ先



登米市企画部市民協働課  
市民活動支援係  
電話：0220-22-2173（直通）



**問6** あなたは、あなた自身が介護が必要になった時、身の回りの世話は次のどの形を希望しますか。  
〔1つだけに○印〕（現在介護を受けている方は、現状をお答えください）

1. 配偶者が世話をする
2. 娘や嫁など家族の女性が世話をする
3. 息子や夫など家族の男性が世話をする
4. 家族全員で世話をする
5. 介護保険制度などのサービスを利用する
6. 介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する
7. その他〔

〕

**問7** 働きたい女性が、出産・子育て・介護などにより就業を中断することなく、意欲を持って仕事を継続していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。

〔あてはまるものすべてに○印〕

1. 育児や介護のための施設・サービスの拡大
2. 男性の家事・育児・介護などへの理解と協力
3. 長時間労働慣行の是正
4. 週休2日制やフレックスタイムなどの柔軟な勤務形態
5. 育児休業・介護休業制度の普及・促進
6. 雇用・労働条件での女性差別をなくす
7. 能力開発や技術習得のための講座・研修会の実施
8. これから起業しようとする人への支援の充実
9. 特に条件整備は必要ない
10. その他〔

〕

**問8** 男性が育児休業や介護休業を取得することについて、どう思いますか。

〔①、②について、それぞれ1つだけに○印〕

項 目	積 極 的 に 取った方がよい	どちらかと言えば 取った方がよい	どちらかと言えば 取らない方がよい	取らない 方がよい	わからない
①育児休業					
②介護休業					

**問9** 男性が育児休業や介護休業を取得できない、または取得しない理由をどう考えますか。

〔1つだけに○印〕

1. 女性の方が育児や介護に適していると思うから
2. 男性が育児休業や介護休業を取得する例がない、または少ないから
3. 上司の理解が得られないから
4. 仕事に支障があるから
5. 収入が減るから
6. その他〔

〕

問 10 コミュニティや行政区などの地域活動の方針決定の場に、女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。〔2つまでに○印〕

1. 団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行があるから
2. 女性が表に出るべきではないという雰囲気があるから
3. 女性は発言しにくい雰囲気があるから
4. 女性が役職に就きたがらないから
5. 女性は家事・育児・介護で忙しいから
6. その他 [ ]

問 11 地域において男女共同参画を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔1つだけに○印〕

1. 男性の意識啓発のための研修
2. 女性の意識啓発のための研修
3. 女性リーダーの育成研修
4. 地域に対する普及・啓発等の働きかけの推進
5. 男女共同参画が進んでいる地域の情報提供
6. その他 [ ]

問 12 地域において、役員などの女性の割合をあらかじめ一定数に定め、積極的に起用する制度（クオータ制）を導入することは必要だと思いますか。〔1つだけに○印〕

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1. 必要だと思う           | 2. どちらかといえば必要だと思う |
| 3. どちらかといえば必要だと思わない | 4. 必要だと思わない       |

## 2. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておたずねします

問 13 あなたは、ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。

（ワーク・ライフ・バランスとは、人々の健康を維持し、趣味や学習、地域社会への参画等を通じた自己実現を可能にするとともに、育児・介護も含め、家族が安心して暮らし、責任を果たしていく上で重要なものです。）〔1つだけに○印〕

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| 1. 内容まで知っている | 2. 言葉を見聞きしたことがある程度 |
| 3. 知らなかった    |                    |

問 14 生活の中での、仕事・家事（育児、介護）・プライベートな時間（趣味など）の優先度についてお答えください。〔「現状」と「理想」について、それぞれ1つだけに○印〕

【現状】

1. 仕事優先
2. 家事優先
3. プライベートな時間優先
4. その他 [ ]

【理想】

1. 仕事優先
2. 家事優先
3. プライベートな時間優先
4. その他 [ ]

**問 15** あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。〔1つだけに○印〕

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1. 昇進したい           | 2. どちらかといえば昇進したい |
| 3. どちらかといえば昇進したくない | 4. 昇進したくない       |

**問 16** 問 15 で、「3. どちらかといえば昇進したくない」または「4. 昇進したくない」と回答した方に伺います。どのような状況になれば昇進したいと思いますか。〔1つだけに○印〕

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1. 管理職の仕事が魅力あるものに思える   | 2. 長時間労働がない    |
| 3. 休業、休暇が取りやすい         | 4. 年収が自分の希望に合う |
| 5. 家族の理解・協力がある         | 6. 育児・介護の必要がない |
| 7. どのような状況でも昇進したいと思わない |                |
| 8. その他〔                | 〕              |

**問 17** 仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

〔1つだけに○印〕

1. 男女の役割分担について、社会通念・慣習・しきたりを改める
2. 家族の間で家事などの分担について十分話し合う
3. 家事などを男女で分担するようなしつけや教育をする
4. 保育サービス・介護サービスを充実させる
5. 子育て中の短時間勤務など、柔軟な勤務形態を普及・促進させる
6. 仕事中心という社会全体の仕組みを改める
7. わからない
8. その他〔

**問 18** ワーク・ライフ・バランスの推進により、考えられる効果はどれですか。

〔あてはまるものすべてに○印〕

1. 子育てや介護など、個人の置かれた状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる
2. 妊娠・出産する女性の継続就業や短時間勤務など、希望する働き方が可能になる
3. 自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる
4. 働く人々が地域活動に関われるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる
5. 長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす
6. 人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる
7. 一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる
8. 子どもと関わる時間が増えるなど、安心して子どもを産み育てることができる
9. 仕事と家庭の両立や子育ての環境が整い、少子化の進行を防ぐことができる
10. 企業が個々のニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まり、優秀な人材を確保・定着させることができる
11. その他〔

### 3. 人権についておたずねします

問 19 DV（ドメスティック・バイオレンス）の被害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。  
（DVとは、配偶者や恋人など、親密な関係にあるパートナーから受ける身体的・精神的・経済的・性的暴力で、個人の尊厳を害するばかりでなく犯罪となる行為です。）〔1つだけに○印〕

1. 自分が直接被害を受けたことがある
2. 相談を受けたことがある
3. 相談を受けたことはないが、被害を受けた人を知っている
4. 自分の身近で被害を受けた人がいると聞いたことがある
5. 自分の身近には、被害を受けた人はいないと思う

問 20 DV相談の窓口が、国及び県、市、警察にそれぞれあることを知っていますか。  
〔1つだけに○印〕

1. 知っている
2. 知っているが詳しくはわからない
3. 知らない

問 21 DVを防ぎ、被害を受けた方を支援していくためにどのようなことが必要だと思いますか。  
〔2つまでに○印〕

1. 人権や男女平等に関する学校教育を進める
2. DVは人権侵害であり、犯罪となる行為であることの周知啓発の徹底
3. 被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす
4. 110番したらすぐに警察官がかけつけてくれる
5. 被害から逃れた（逃れようとする）方が、住むところや仕事などについて相談できる専門機関の設置
6. 被害から逃れた方が経済的に自立するための住居の提供や、就業支援及び資金貸与
7. （トラブルを抱えた夫婦間・恋人間の）子どものことについて相談したり、一時的に預かったりしてくれる体制等の整備
8. 加害者に対するカウンセリングやサポートを進める
9. その他 [ ]

問 22 児童虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、それを児童相談所、または福祉事務所に通告する義務があることを知っていますか。〔1つだけに○印〕

1. 知っている
2. 知っているが詳しくはわからない
3. 知らない



